

日医総研ワーキングペーパー

第6回 日本の医療に関する意識調査

No. 384

2017年7月11日

第6回 日本の医療に関する意識調査

日本医師会総合政策研究機構 主席研究員 江口 成美

主任研究員 出口 真弓

キーワード

- ◆ 意識調査
- ◆ 患者調査
- ◆ かかりつけ医
- ◆ 国民の意識
- ◆ 医療満足度
- ◆ 医師患者関係

ポイント

- ◆本調査は、第1回からの比較を通して、国民の医療に対する意識のなかで変わるもの、変わらないものに注目しつつ、新たな質問を設けて今の医療への考え方を把握した。
- ◆特に、国民の医療に対する評価・要望・不安・満足度を俯瞰するとともに、医療の平等性や適正利用に対する意識、在宅医療への理解、人生の最終段階における意思表示、医療介護の情報量の適切性も把握した。また、国民にとっての「かかりつけ医」の属性、受診状況、医師患者関係、求める機能を明確にした。
- ◆国民は医療技術に対して高い信頼を持ち（85%が評価）、受けた医療への満足度は過去調査と変わらず高水準を維持していた（満足又はまあ満足が92%）。医療制度など医療全般に対する満足度も向上しており（74%）、医療者や医療制度への理解や医師患者関係の向上を示唆していると思われる。ただし、地域によっては、医療介護に関するさまざまな不安を抱えており、特に、将来の介護に対する不安を抱える人は約半数であった。
- ◆かかりつけ医を持つ人の割合は全体では56%で高齢者の間では8割を超えている。かかりつけ医を持つ人の7割はその医師が健康全般に責任を持っていると感じており、良好な医師患者関係が浮かび上がった。ただし、かかりつけ医に対する期待は多かつ多様であり、今後の普及に向けて医療側のさらなる対応や連携体制を検討する必要がある。
- ◆一方、医療保険制度のなかで医療の平等性を重視する傾向は、過去の調査から一定して変わらないことも改めて明らかになった。また、約半数の人は過剰な受診を避け、適正に医療を受けることの必要性を感じており、社会全体での啓発活動が重要と思われる。
- ◆在宅医療に対する理解は進みつつあるが、人生の最終段階の医療の意思表示や地域包括ケアの情報提供など、国民が安心して地域で過ごすための情報提供が求められている。
- ◆最後に、今後の地域医療の充実に向けては、国民の視点を取り入れていくことが重要である。それと同時に、医療者への過度な負担の有無を含めた検討も必要と考える。

1.	はじめに.....	5
1-1	調査概要.....	5
1-2	回答者の属性.....	7
2.	調査結果.....	8
	2-1 医療に対する評価・要望・不安・満足度	8
2-1-1	日本の医療全般についての評価.....	8
2-1-2	国民が考える重点課題.....	10
2-1-3	医療と介護に関する不安.....	13
2-1-4	医療への満足度（受けた医療と日本の医療全般の満足度）.....	16
	2-2 かかりつけ医	20
2-2-1	かかりつけ医の有無とかかりつけ医の属性.....	20
2-2-2	かかりつけ医への期待と実態.....	26
2-2-3	かかりつけ医への受診と医師患者関係.....	30
2-2-4	その医師をかかりつけ医としている理由とかかりつけ医の探し方.....	34
2-2-5	大病院の外来受診時の患者負担と医療機関の選択について.....	40
2-2-6	健康への意識とかかりつけ医.....	43
	2-3 医療の平等性・適正利用・社会保障への信頼	45
2-3-1	所得水準と医療の中身.....	45
2-3-2	医療の適正利用.....	47
2-3-3	社会保障に対する信頼度.....	51
	2-4 最終段階の医療の意思表示・療養の場所	52
2-4-1	人生の最終段階における医療に関する考え方.....	52
2-4-2	最期までの療養の場所.....	54
	2-5 医療・介護の情報への要望	57
2-5-1	医療・介護の情報一般.....	57
2-5-2	介護に関して欲しい情報.....	59
2-5-3	地域包括ケアシステム.....	61
2-5-4	在宅医療についての知識.....	62
3.	分析と考察.....	63
3-1	かかりつけ医の有無を決める要因の分析.....	63

3 - 2 考察とまとめ.....	64
4. その他の結果.....	69
4 - 1 その他の項目ごとの結果.....	69
4 - 1 - 1 受けた医療の満足度（個別項目）.....	69
4 - 1 - 2 慢性疾患の診療を受けている人の受診状況や医療機関の選択.....	71
4 - 1 - 3 診療情報の共有について.....	75
4 - 1 - 4 治療方針の決定者.....	76
4 - 1 - 5 介護が必要になった場合に住みたい場所.....	77
4 - 1 - 6 医療機関の受診見合わせ.....	79
4 - 1 - 7 健康状態・生活満足度・生きがい.....	81
4 - 1 - 8 かかりつけ医への受診状況とかかりつけ医に関する意見.....	84
4 - 2 【補足】回答者のその他特性と母集団の比較.....	87
4 - 2 - 1 回答者のその他特性.....	87
4 - 2 - 2 回答者と母集団の比較.....	89
5. 【添付資料】 調査票と単純集計.....	90

※クロス集計表は日医総研ホームページに掲載。

1. はじめに

1-1 調査概要

調査目的

本調査は、第1回（2002年）から継続的に実施し、同一の質問項目から国民の意識の推移を把握すると同時に、新規項目を追加し、昨今の社会や医療に対する国民の考え方をとらえ、今後の医療政策に反映させることを目的とする。

表1 第1回～第6回調査

	調査手法	実施時期	回収数
第1回調査 (WP No. 50)	面接	2002年9月	N=2,084
第2回調査 (WP No. 137)	面接	2006年3月	N=1,364
第3回調査 (WP No. 180)	面接	2008年7月	N=1,313
第4回調査 (WP No. 260)	面接	2011年11月	N=1,246
第5回調査 (WP No. 331)	面接	2014年8月	N=1,122
	WEB		N=5,667
第6回調査 (WP No. 384)	面接	2017年4月	N=1,200

調査対象・手法・回収

- 調査地域：全国
- 調査対象：満20歳以上の男女個人 4,000人
- 抽出方法：電子住宅地図を用いた層化3段無作為抽出法
- 地点数：21大都市 45地点 その他の市 94地点 町村 18地点 計157地点
- 調査方法：面接員による個別面接聴取法
- 調査時期：2017年4月7日～16日
- 回収結果：1,200人（有効回収率30.0%）

※継続項目ではなく第6回で新たに追加した質問については図表に【新】と記載

調査内容とサマリー

本調査は、第1回からの比較を通じて、国民の医療に対する意識のなかで変わるもの、変わらないものに注目しつつ、新たな質問を設けて今の医療への考え方を把握した。特に、国民の医療に対する評価・要望・不安・満足度を俯瞰するとともに、医療の平等性、適正利用に対する意識、人生の最終段階における意思表示や在宅医療の普及の有無、医療介護の情報提供の適切性を調べた。また、国民にとっての「かかりつけ医」の属性、診療、医師患者関係、求める機能を明確にした。

サマリー

- ① 受けた医療への国民の満足度は過去調査と変わらず高水準（92%が満足又はまあ満足）を維持していた。医療制度など医療全般に対する満足度も向上した（74%）。また医療技術に対して極めて高い信頼感が示された（85%が評価）。
- ② 一方で、医療介護に関するさまざまな将来不安を抱えているのは従来から変わっておらず、特に、半数の人が将来の介護に対して不安を感じていた（52%）。
- ③ 医療保険制度のなかで、国民が医療の平等性を重視する傾向（74%）についても、過去の調査から一定して変わらないことを改めて確認した。
- ④ 「かかりつけ医」を持つ人の割合は、全体では56%で大きな変化はなく、70歳以上では82%であった。かかりつけ医を持つ人の7割は、その医師が健康全般に責任を持ってくれていると感じていた。また、かかりつけ医を持つ人は持たない人よりも健康意識が高いことも確認できた。
- ⑤ かかりつけ医に対する国民の期待は、多大かつ多様で、在宅医療や人生の終わり方の相談を期待する人が6割を占めた。
- ⑥ 国民の53%の人は適正な受診が行われていないと感じており、過剰な受診を慎むことに対する意識を持つ人が半数であることがわかった。
- ⑦ 一方で、人生の最終段階の医療の意思表示や地域包括ケアの内容など、国民が安心して過ごすためのさまざまな医療介護情報の提供の推進求められていた。

1 - 2 回答者の属性

表 2 居住地域

	人数	割合
北海道	60	5.0%
東北	91	7.6%
関東甲信越・北陸	357	29.8%
東京	127	10.6%
中部	124	10.3%
近畿	204	17.0%
中国・四国	109	9.1%
九州	128	10.7%
合計	1,200	100.0%

表 3 年代

	人数	割合
20～29歳	118	9.8%
30～39歳	158	13.2%
40～49歳	228	19.0%
50～59歳	182	15.2%
60～69歳	226	18.8%
70歳以上	288	24.0%
合計	1,200	100.0%

表 4 性別

	人数	割合
男性	552	46.0%
女性	648	54.0%
合計	1,200	100.0%

表 5 同居人数

	人数	割合
1人	142	11.8%
2人	378	31.5%
3人	236	19.7%
4人以上	438	36.5%
答えたくない・わからない	6	0.5%
合計	1,200	100.0%

表 6 職業

	人数	割合
農林漁業	24	2.0%
商工・サービス業	129	10.8%
事務職	201	16.8%
労務職	262	21.8%
自由業管理職	30	2.5%
専業主婦	299	24.9%
学生	22	1.8%
その他の無職	233	19.4%
合計	1,200	100.0%

表 7 加入している健康保険

	人数	割合
国民健康保険	461	38.4%
組合健保	313	26.1%
協会けんぽ	156	13.0%
共済組合	73	6.1%
後期高齢者医療制度	180	15.0%
その他	4	0.3%
覚えていない・わからない	13	1.1%
合計	1,200	100.0%

表 8 世帯年収

	人数	割合
300万円未満	288	24.0%
300万円～500万円未満	213	17.8%
500万円～800万円未満	224	18.7%
800万円～1,000万円未満	44	3.7%
1,000万円以上	42	3.5%
答えたくない・わからない	389	32.4%
合計	1,200	100.0%

表 9 最近の受診時期

	人数	割合
2週間以内	304	25.3%
1ヵ月以内	297	24.8%
3ヵ月以内	149	12.4%
半年以内	114	9.5%
1年以内	126	10.5%
3年以内	75	6.3%
3年より前	75	6.3%
一度も受診なし	55	4.6%
わからない	5	0.4%
合計	1,200	100.0%

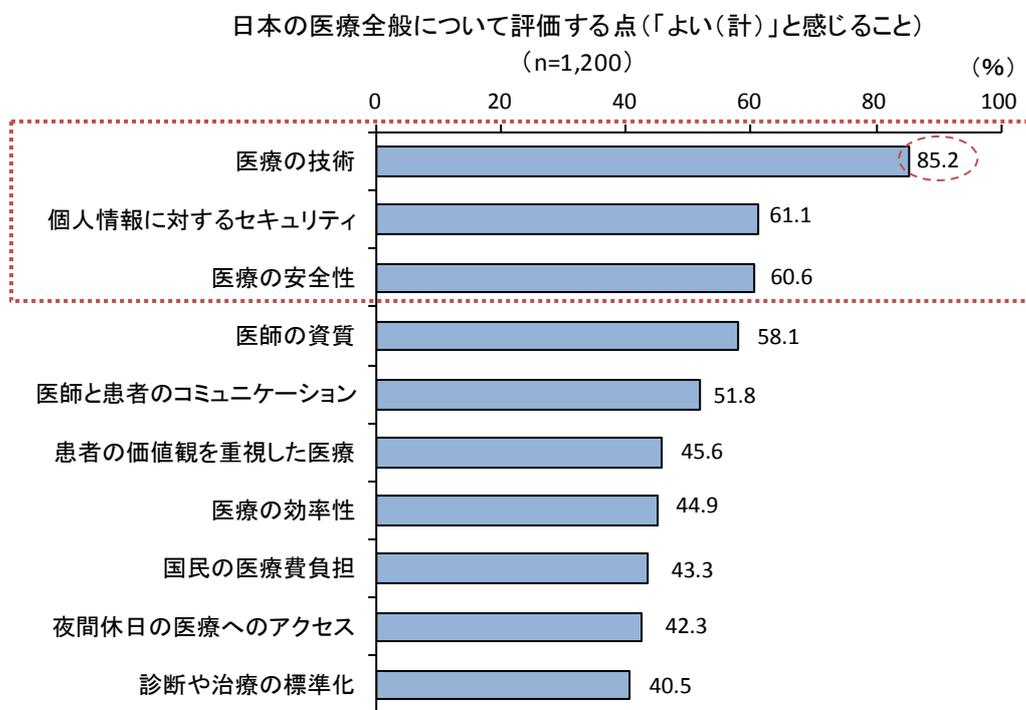
2. 調査結果

2-1 医療に対する評価・要望・不安・満足度

2-1-1 日本の医療全般についての評価

日本の医療全般についてどのように感じているかを項目別に尋ねると（中間回答を含む5段階評価）、医療の技術（提供される医療内容）に対する評価は極めて高く、85.2%の国民が「よい（計）」と回答した。また、個人情報に対するセキュリティ、医療の安全性（医療事故防止）についてもそれぞれ61.1%、60.6%の人がよいと回答した。医師の資質（信頼性や倫理性）は58.1%、医師と患者のコミュニケーションは51.8%であった。最も低かった項目は「診断や治療の標準化（医療機関の間での差やバラツキ）」で40.5%であった。

図1 日本の医療全般について評価する点（「よい（計）」と感ずること）【新】（新規調査項目）

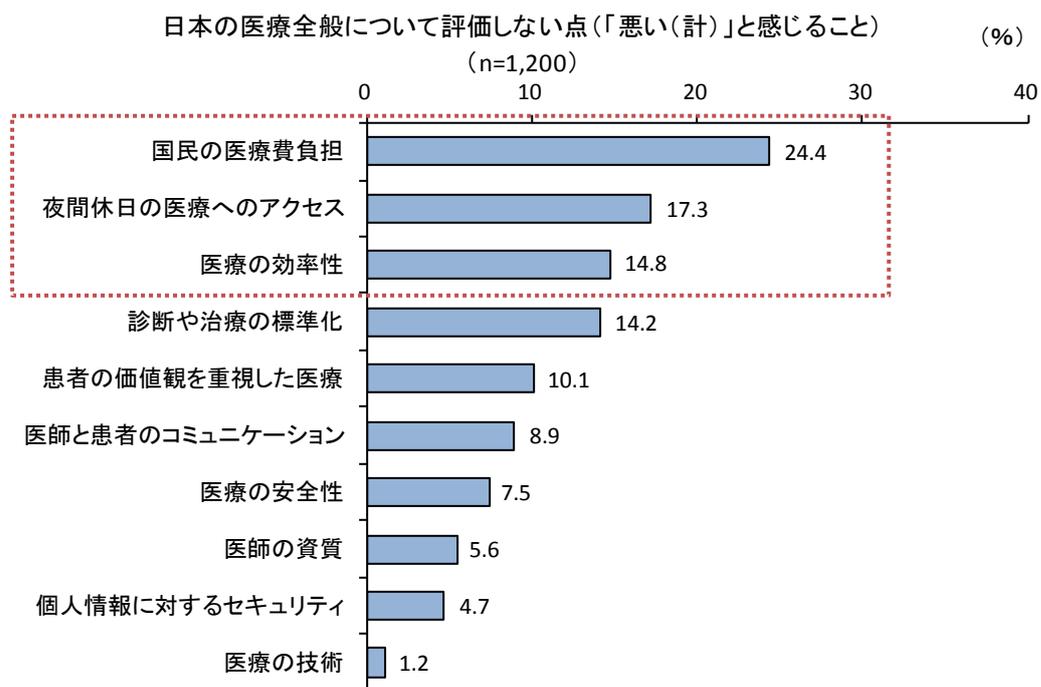


※選択肢は「よい」「まあよい」「どちらともいえない」「やや悪い」「悪い」の5択

質問時に但し書き説明（記載）をした項目は以下の通り。医療の技術（提供される医療内容）、医師の資質（信頼性や倫理性など）、医療の安全性（医療事故防止）、医療の効率性（重複検査が無いなど）、診断や治療の標準化（医療機関の間での差やバラツキがない）

反対に、評価していない点（「悪い（計）」と感じる）に注目してみると、「国民の医療費の負担」が最も高く 24.4%で、全体の約 4 分の 1 を占めた。続いて「夜間休日の医療へのアクセス」（17.3%）、「医療の効率性（重複受診が無いなど）」（14.8%）であった。

図 2 日本の医療全般について評価しない点（「悪い（計）」と感じること）【新】



2-1-2 国民が考える重点課題

国民が考える地域医療の重点課題を3つ選択してもらうと、トップ2項目は「高齢者などが長期入院するための入院施設や介護老人保健施設などの整備」と「夜間や休日の診療や救急医療体制の整備」であった。トップ2項目については第3回から同様の傾向を示している。ただし、夜間や休日の診療や救急医療体制の整備については、全体としてはやや低下の傾向がみられた。年代別に見ると、入院施設に対する要望は高齢者で高く、救急医療等に対するニーズと医療従事者の確保は若い世代で高い傾向がみられた。

医療従事者の資質の向上、地域の診療所と病院の連携は、上記の2項目に次ぐ課題となっていた。

図3 国民が考える重点課題（3つまで）

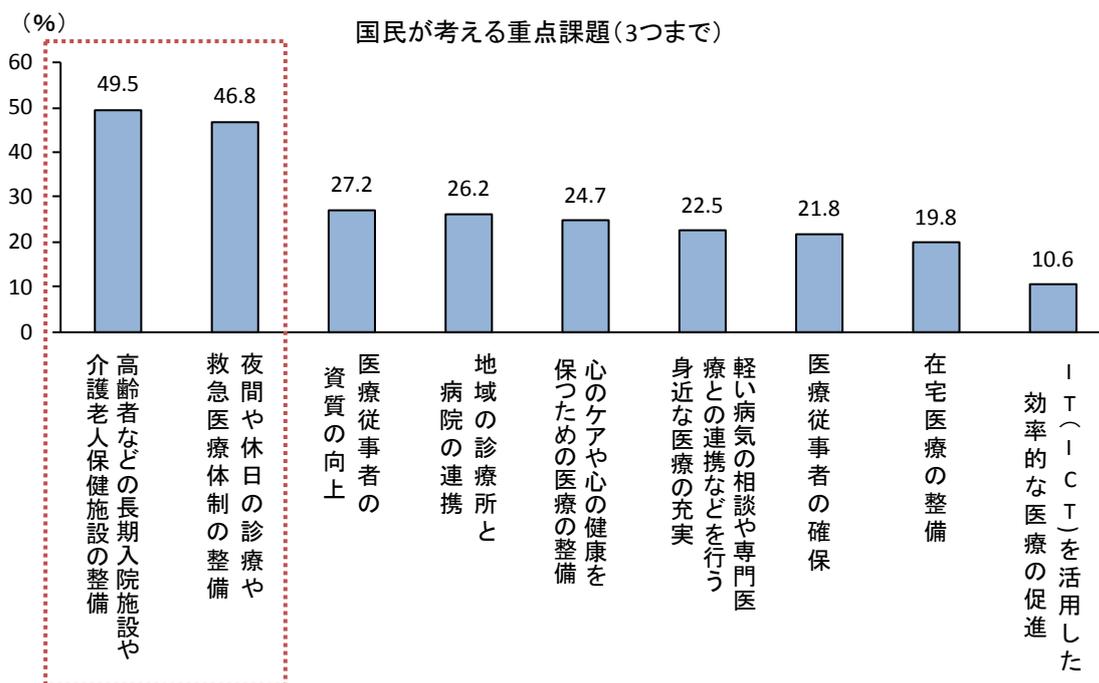


図 4 重点課題の推移 (第3回～第6回 共通項目)

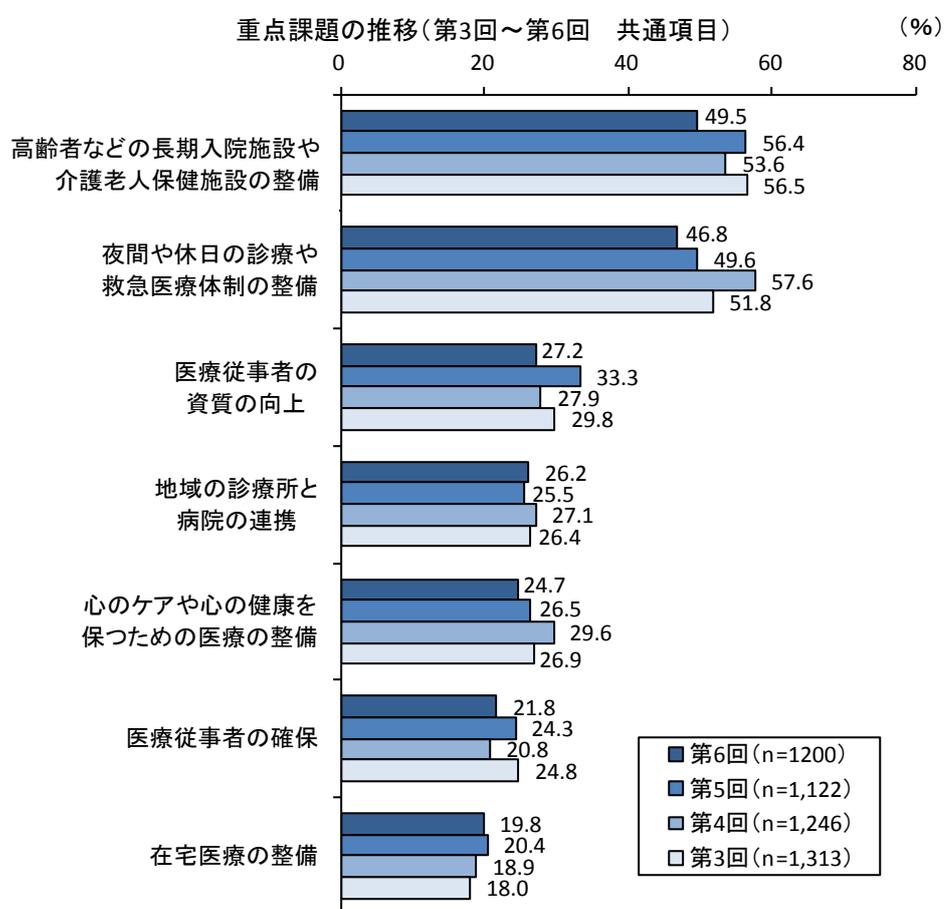
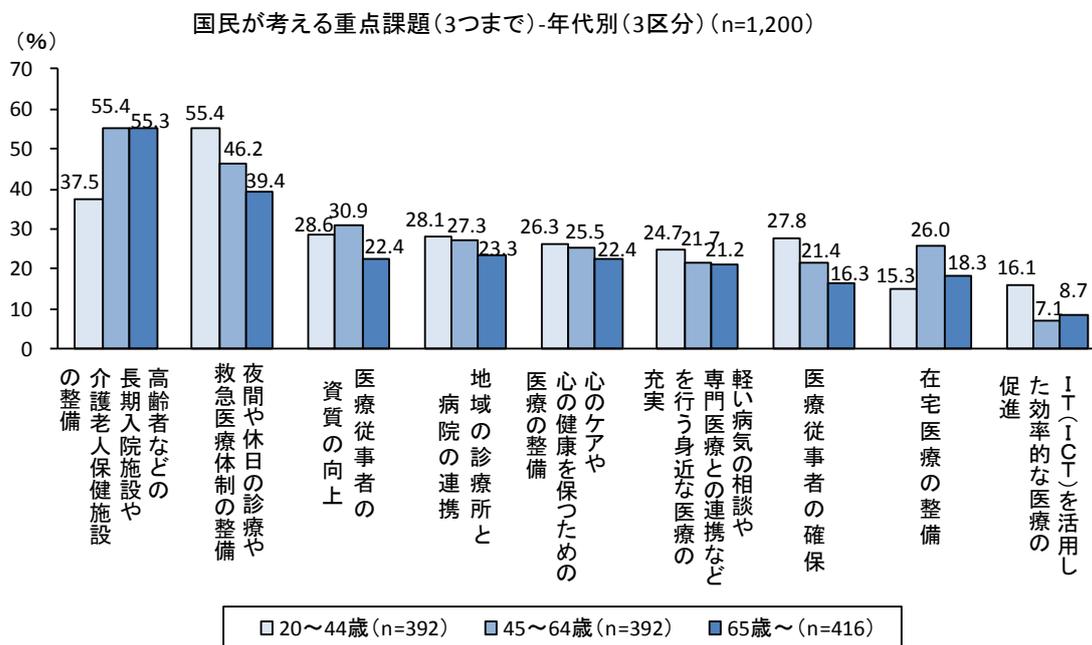


図 5 年代別にみた重点課題

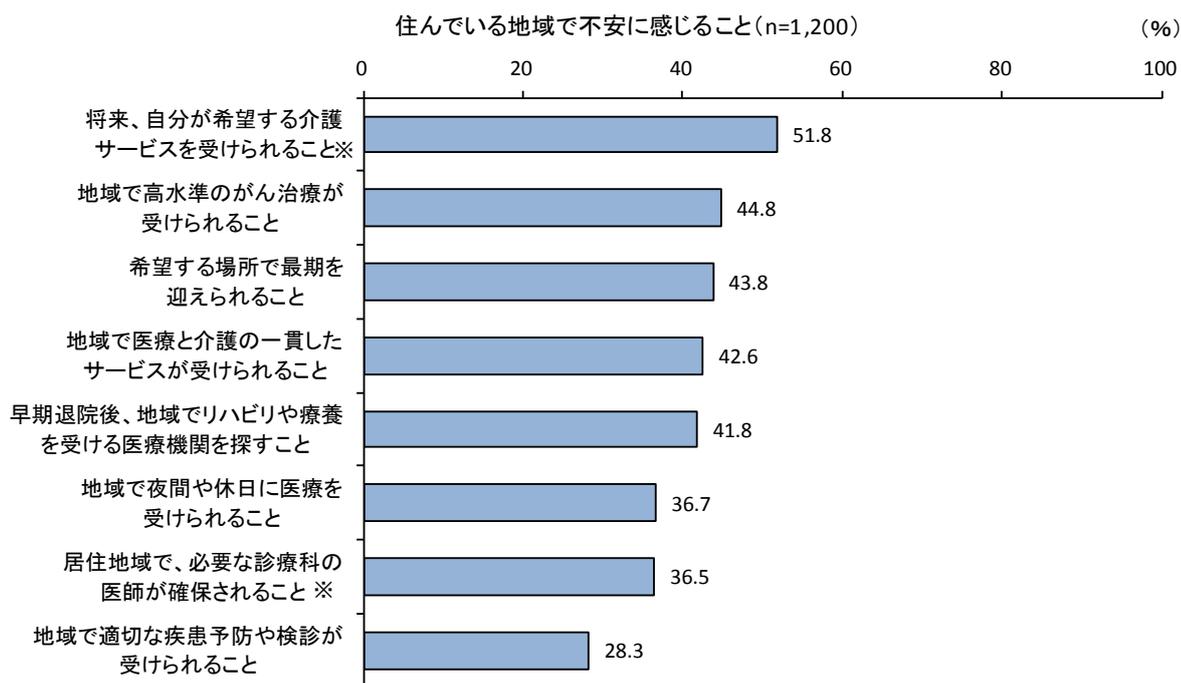


2-1-3 医療と介護に関する不安

自身が住んでいる地域で医療・介護に関して抱える不安の第1は、「将来、自分が希望する介護サービスを受けられること」で、約半数の51.8%にのぼった。また、「地域で高水準のがん治療を受けられること」(44.8%)、「希望する場所で最期を迎えられること」(43.8%)、「地域で医療と介護の一貫したサービスを受けられること」(42.6%)への不安も高い傾向が見られた。

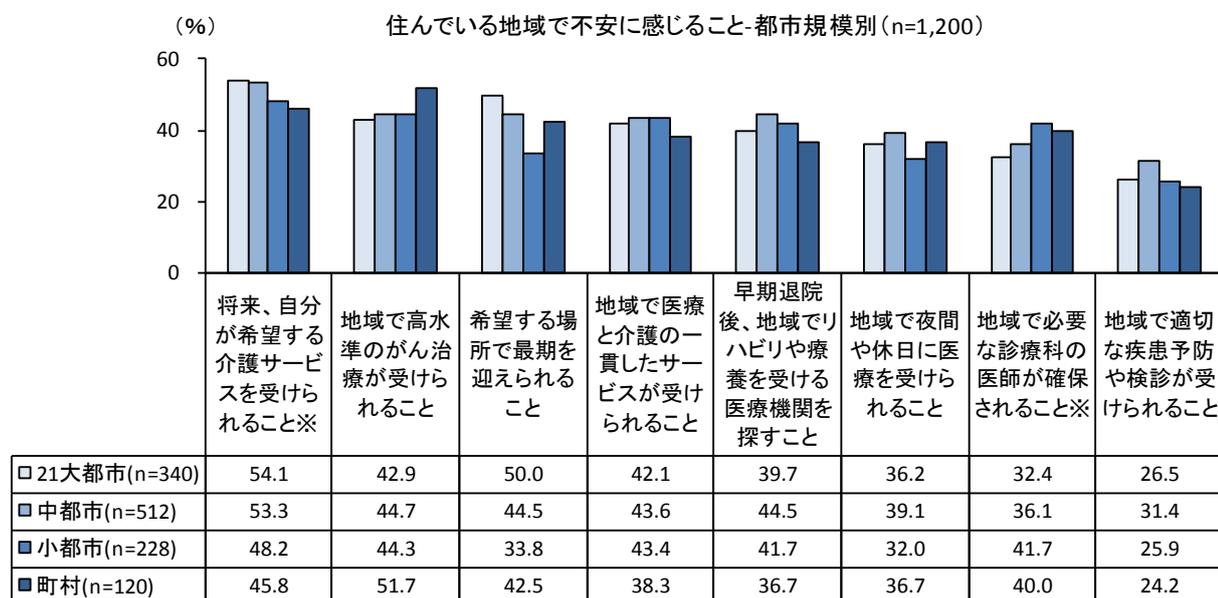
人口規模別の地域で見ると、将来の介護サービスに対する不安が大都市部でやや高く、町村などではやや低い傾向がみられた。また、年齢別では、全般に45～64歳の年代層で不安がやや高い傾向がみられた。前回調査と比較するとほぼ同様の傾向であった。

図6 住んでいる地域で不安に感じる事



※は第6回調査からの新規項目。「まったく不安を感じない」「あまり不安を感じない」「やや不安を感じる」「とても不安を感じる」の4件法。

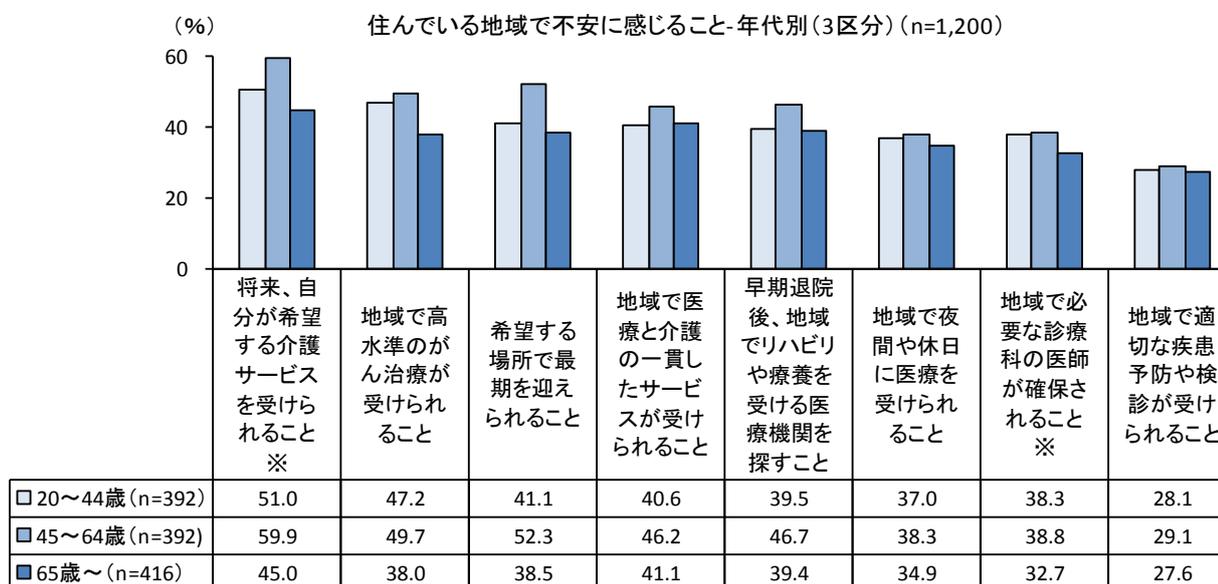
図 7 住んでいる地域で不安に感じること - 地域別



※は第6回調査からの新規項目

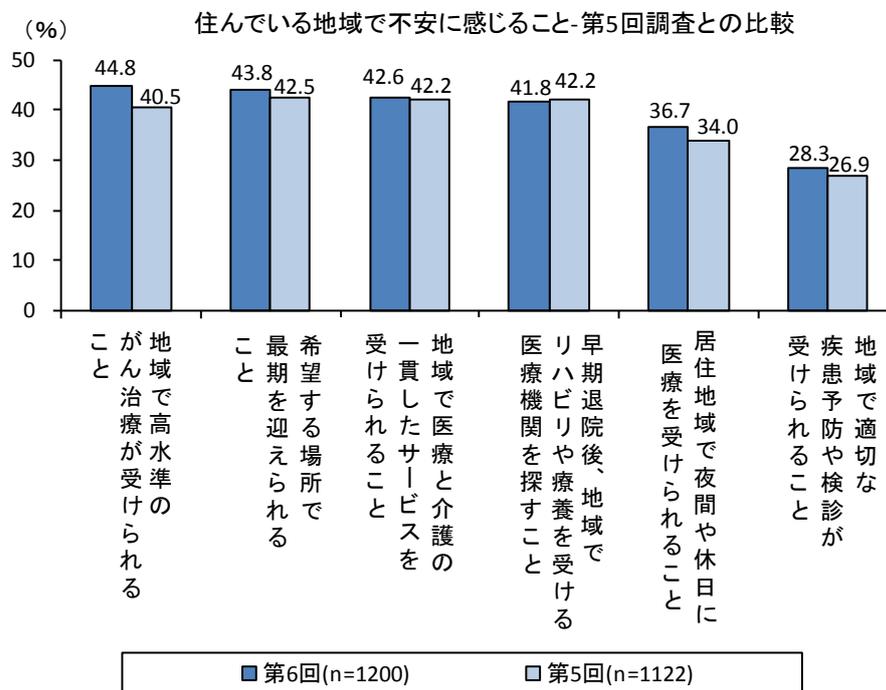
中都市…人口 10 万人以上で、21 大都市を除いた市。小都市…人口 10 万人未満の市

図 8 住んでいる地域で不安に感じること-年代別 (3 区分)



※は第6回調査からの新規項目

図 9 住んでいる地域で不安に感じること-第5回調査との比較



2 - 1 - 4 医療への満足度（受けた医療と日本の医療全般の満足度）

受けた医療と、日本の医療全般の満足度について、第1回からの推移をみるといずれも上昇している。第6回調査では、受けた医療へ満足している人（計）の割合は92.3%、医療全般に満足している人の割合は74.2%であった。ただし満足（計）のうち「まあ満足」の割合は受けた医療については63.5%で、「満足」の割合は28.8%であった。同様に、日本の医療全般についても「まあ満足」が59.3%、「満足」は14.8%であった。

図 10 受けた医療の満足度、日本の医療全般の満足度

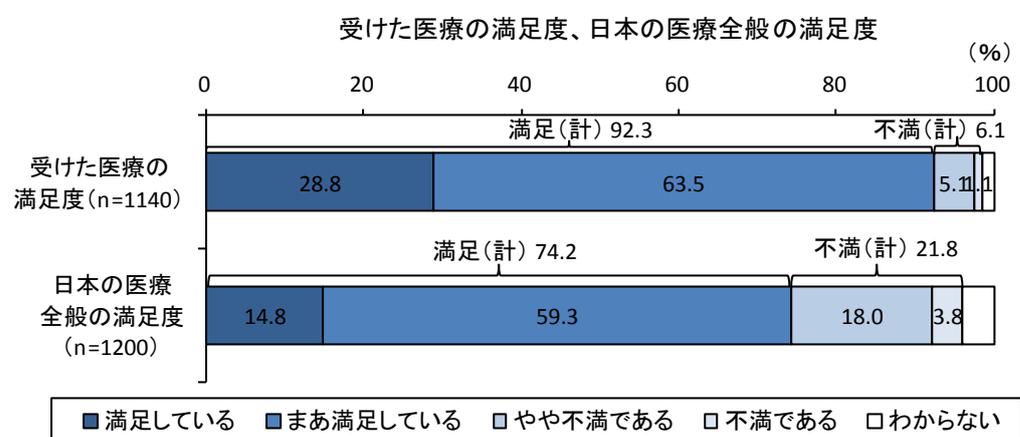
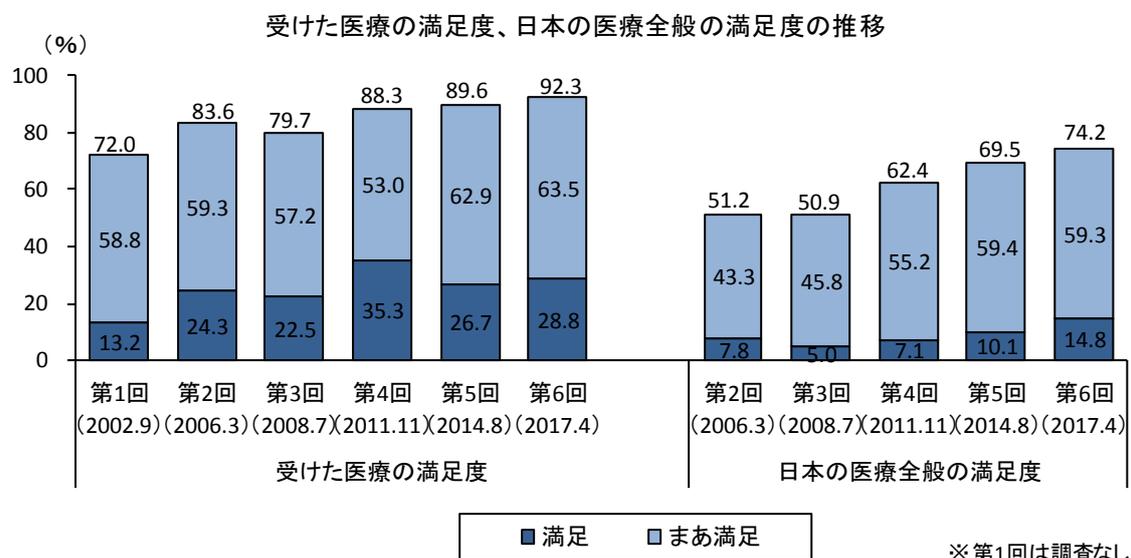


図 11 受けた医療の満足度、日本の医療全般の満足度の推移



日本の医療全般の満足度は、45～64歳が他の年代に比べて低い傾向が見られた。また、都市規模別にみると、大都市等などに比べて、町村での満足度がやや低い傾向が見られた。

図 12 日本の医療全般に満足している割合-年代別 (3 区分)

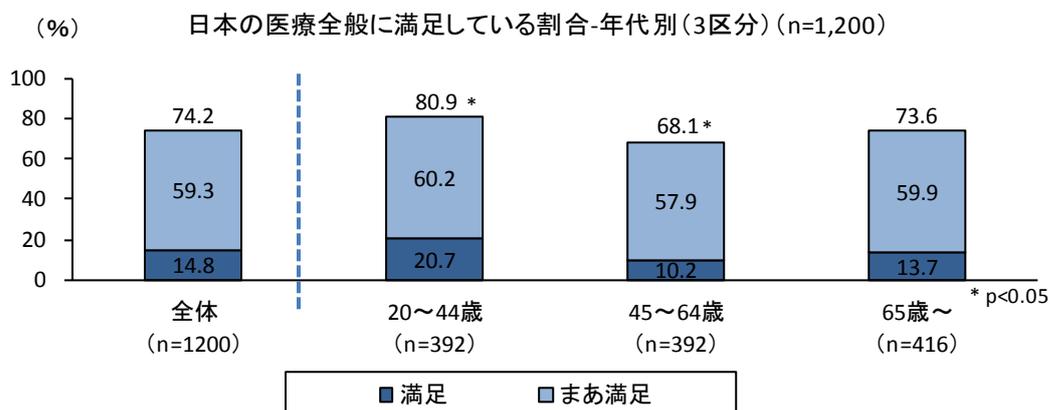
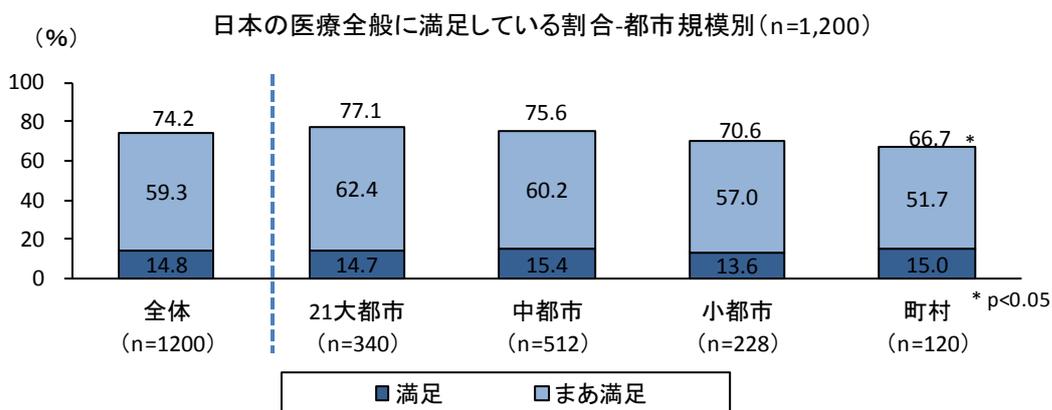


図 13 日本の医療全般に満足している割合 - 都市規模別



病院や診療所では「患者一人ひとりの性格や立場、本人の希望といった個別状況に応じた医療が行われていると思うか」については、73.9%がそう思う（計）と回答した。また、「医師は患者の症状を治すだけでなく、心のケアまで行っていると思うか」については47.3%がそう思う（計）と回答した。いずれも第1回から比較すると肯定的な回答が増加していた。医療者の対応の向上と医師患者関係の向上を示唆していると思われる。

図 14 個別医療

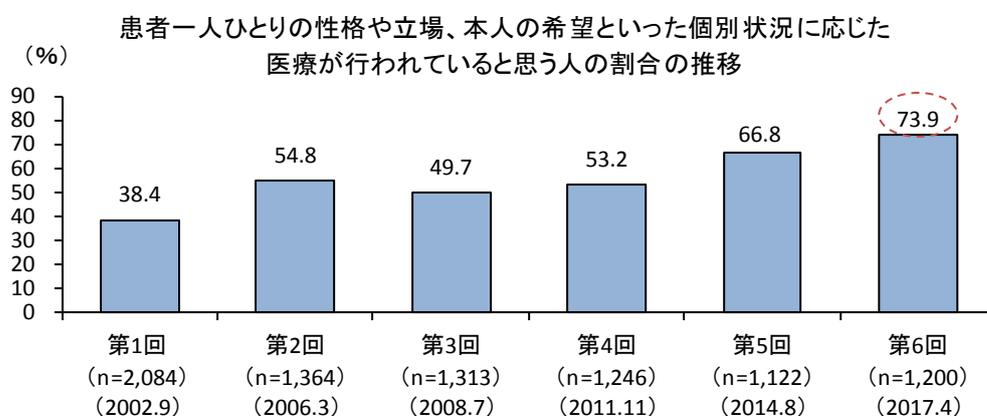
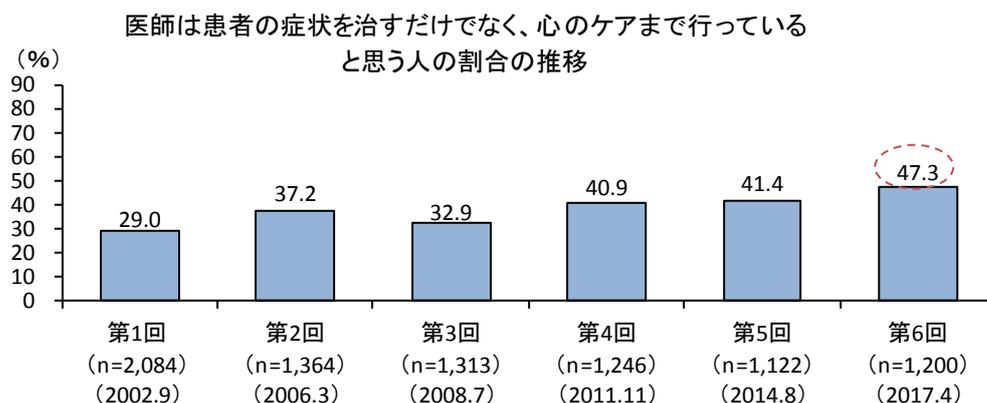


図 15 心のケア



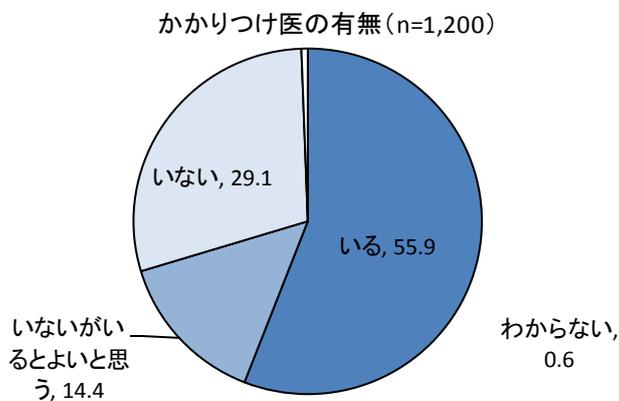
2-2 かかりつけ医

2-2-1 かかりつけ医の有無とかかりつけ医の属性

かかりつけ医の普及は、わが国の今後の地域医療の充実において重要な鍵となる。「かかりつけ医がいる」と回答した人は全体の 55.9%であった。ここでのかかりつけ医の定義は「健康のことを何でも相談でき、必要なときは専門の医療機関へ紹介してくれる、身近にいて頼りになる医師」としている¹。

かかりつけ医がいる人を年代別にみると、70 歳以上は 81.6%と高い割合を示し、一方、20～30 歳代は 31.5%であった。男女別でみると、女性はかかりつけ医がいる割合が 61.6%で男性は 49.3%であった。年代や性別による有意差が見られた。過去の推移をみると、僅かな増加傾向が見られた。

図 16 かかりつけ医の有無



¹ 調査員はこの定義に加えて、日本医師会・四病院団体協議会のかかりつけ医の定義「なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師」を口頭で伝えた。

図 17 かかりつけ医の有無 - 年代別

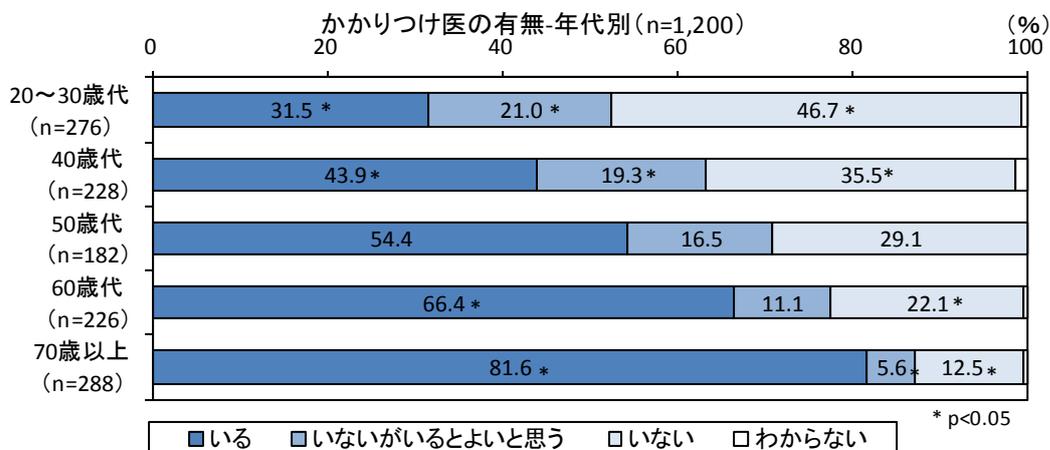


図 18 かかりつけ医の有無-男女別

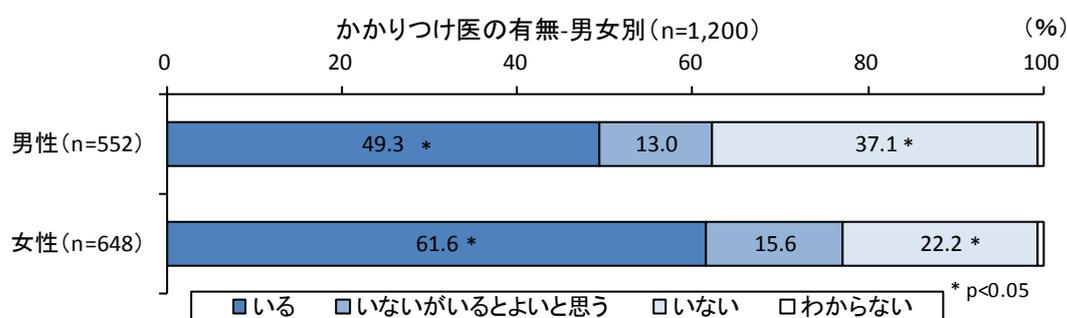
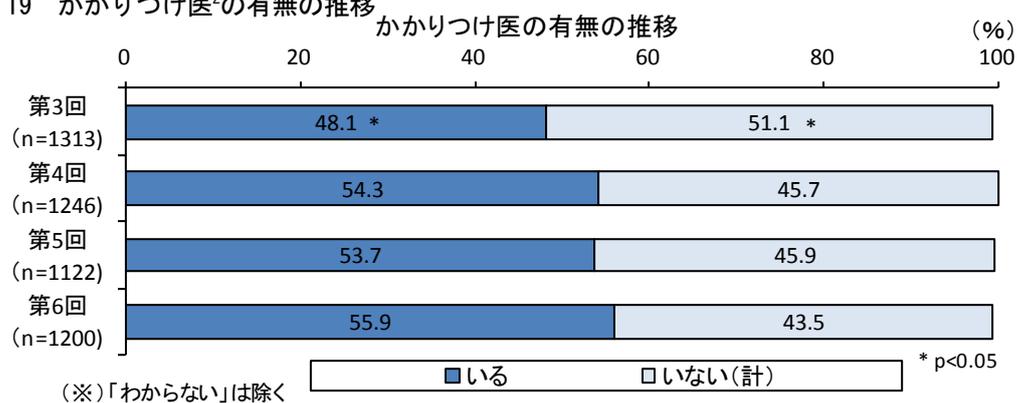


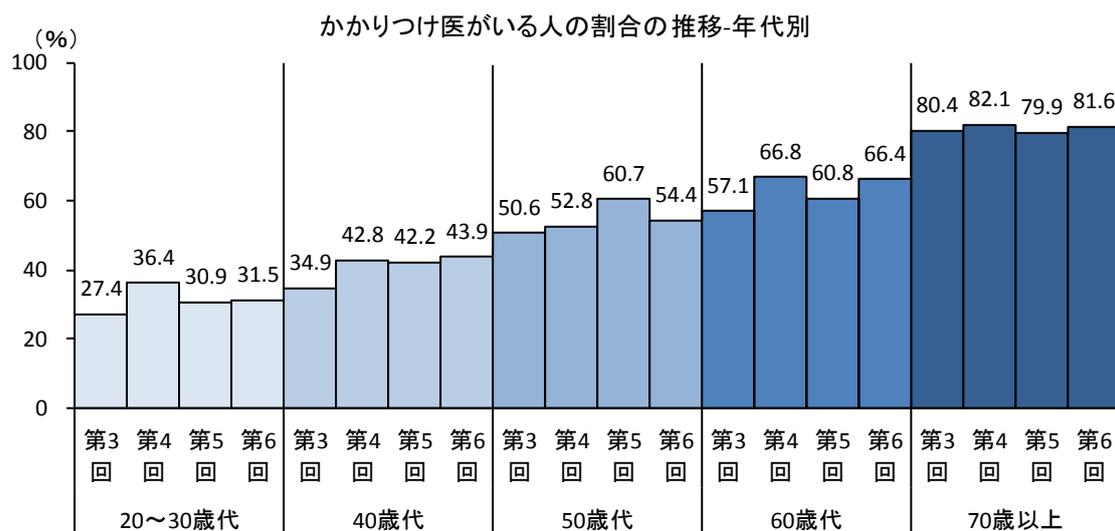
図 19 かかりつけ医²の有無の推移



² 第3、4回は「病気や健康度を総合的に（全人的で、最新の医療情報に詳しく、専門医の紹介や保険や福祉の分野にも対応できる）診療してくれる身近な医師」。第5、6回は「健康のことを何でも相談でき、必要なときは専門の医療機関へ紹介してくれる、身近にいて頼りになる医師」。

かかりつけ医がいる人の割合は、年代別にみると、若い年代でかかりつけ医がいる割合が微増している傾向が見られた。ただし、人口構造に合わせて若い人の回答者割合が低下しているため、全体での割合がほぼ同じにとどまっていると推測される。

図 20 かかりつけ医がいる人の割合の推移（年代別）



かかりつけ医の有無を健康状態別にみると、健康状態がよくないと回答している人の中でかかりつけ医がいる人の割合は85.0%と高い。一方、健康状態がよいと回答している人の間でも49.8%と約半数の人がかかりつけ医を持っていると回答している。

また、生活習慣病などの慢性疾患の診療を日常的に受けている人は90.3%がかかりつけ医がいると回答したが、日常的に診療を受けていない人についても43.8%がかかりつけ医がいると回答している。

図 21 かかりつけ医がいる割合 - 健康状態別

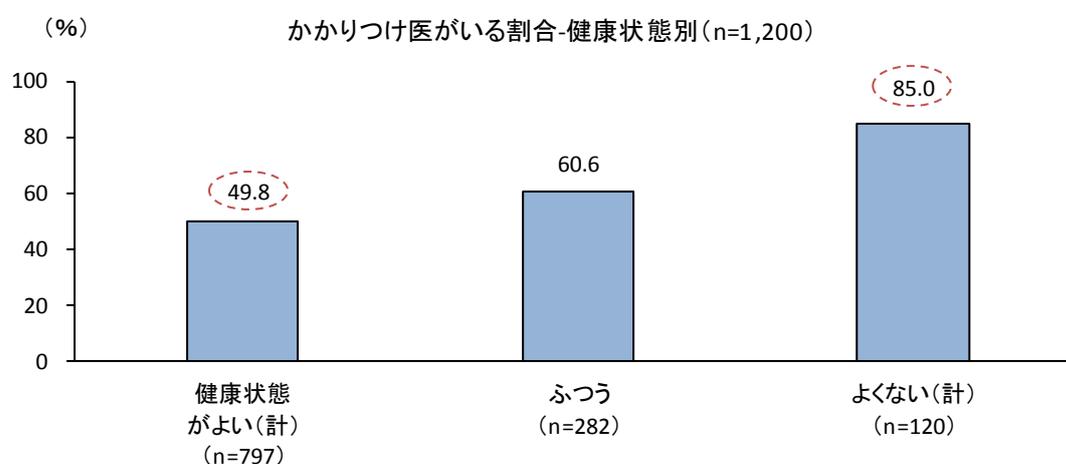
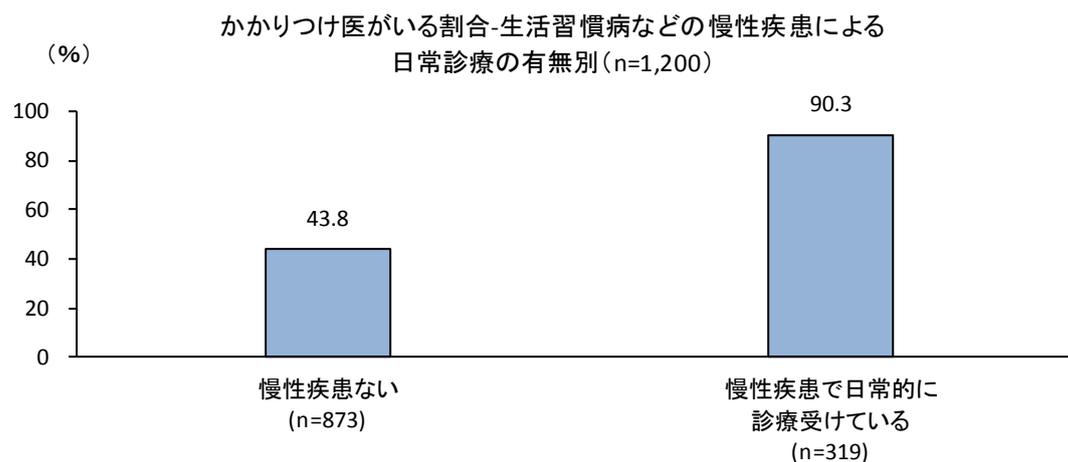


図 22 かかりつけ医がいる割合 - 生活習慣病などの慢性疾患による日常診療の有無別



かかりつけ医の人数、医療機関、診療科

かかりつけ医がいる人について、かかりつけ医の人数、医療機関、診療科などを改めて確認した。かかりつけ医の人数は、1人の人が7割弱の67.2%、2人が24.7%、3人以上が7.9%であった。この傾向は今までの調査と変わりなかった。

また、かかりつけ医が1人の人について、その医師が診療所の医師である割合は83.4%であった。かかりつけ医が中小病院の医師と回答した人は13.5%、大病院の医師が3.1%であった。

図 23 かかりつけ医の人数

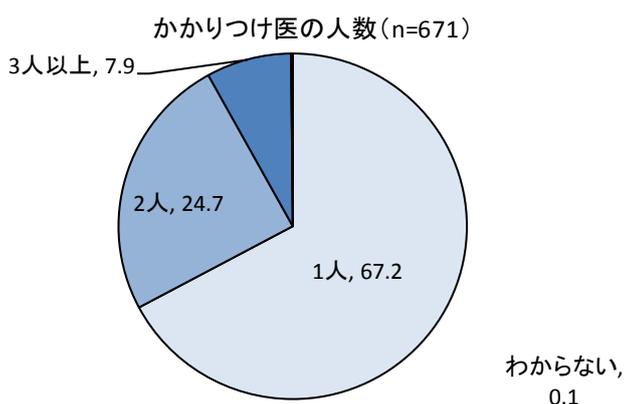
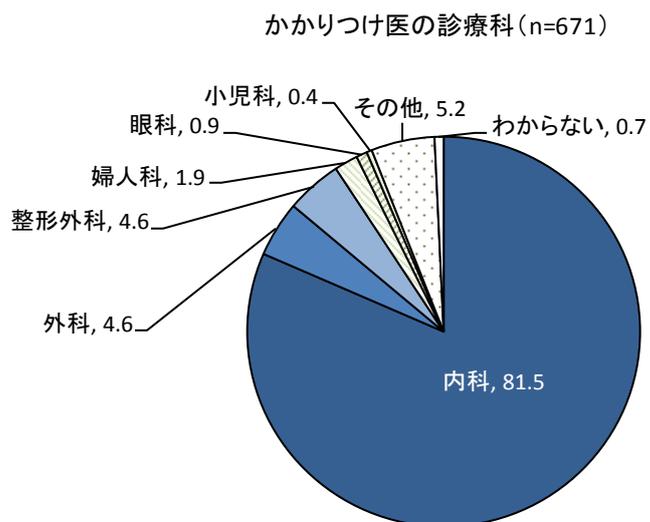


表 10 かかりつけ医の医療機関（複数回答） - かかりつけ医の人数別

かかりつけ医の人数	かかりつけ医の所属医療機関 (%)		
	診療所	中小病院	大病院
全体(n=651)	83.5	17.7	9.4
1人(n=451)	83.4	13.5	3.1
2人(n=166)	86.7	24.1	18.1
3人以上(n=53)	73.6	34.0	35.8

かかりつけ医がいる人についてその医師の診療科（2人以上いる人については、最もよく相談に行くかかりつけ医の診療科）を尋ねた。8割以上の81.5%の人のかかりつけ医は内科であった。2番目以降は、外科（4.6%）、整形外科（4.6%）であった。

図 24 かかりつけ医の診療科【新】

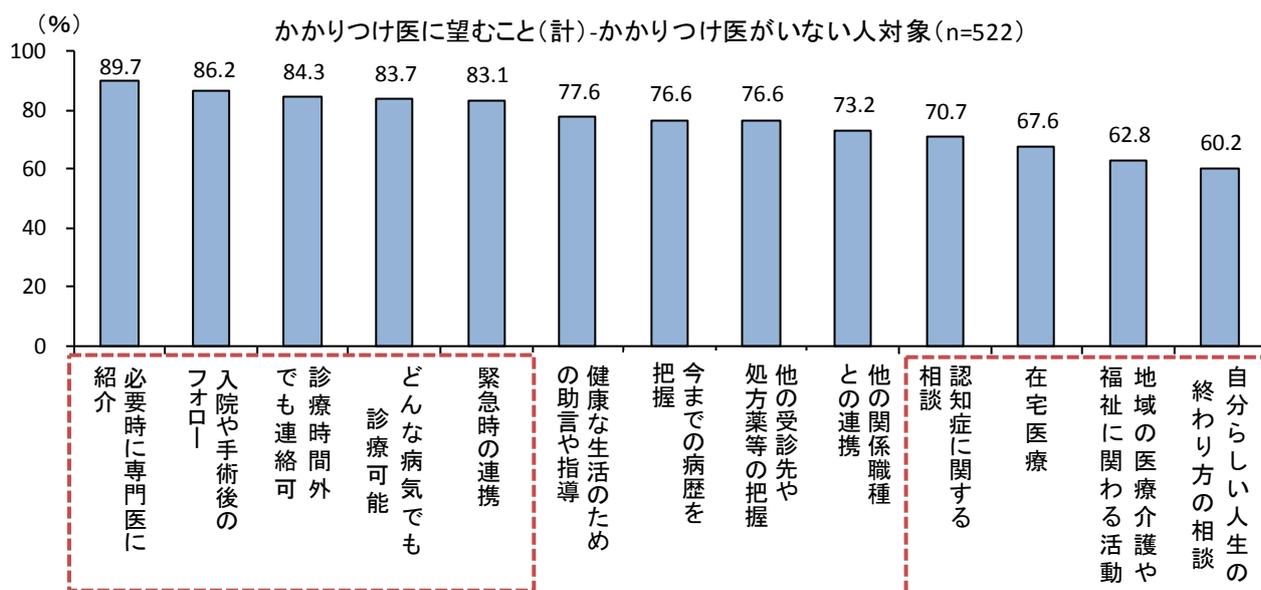


2-2-2 かかりつけ医への期待と実態

かかりつけ医に期待すること

かかりつけ医がない人がかかりつけ医に期待することは、複数回答で、「必要時に専門医に紹介する（89.7%）」が最も高く9割を占めた。また、「入院や手術後のフォロー（86.2%）」、「診療時間外での連絡（84.3%）」、「どんな病気でも診療可能（83.7%）」、「緊急時の連携（83.1%）」が8割を超えていた。「認知症に関する相談」は70.7%を占め、「在宅医療（67.6%）」、「地域の医療介護や福祉に関わる活動（62.8%）」、「自分らしい人生の終わり方の相談（60.2%）」も6割以上を占めた。

図 25 かかりつけ医に望むこと（計）-かかりつけ医のいない人対象【新】

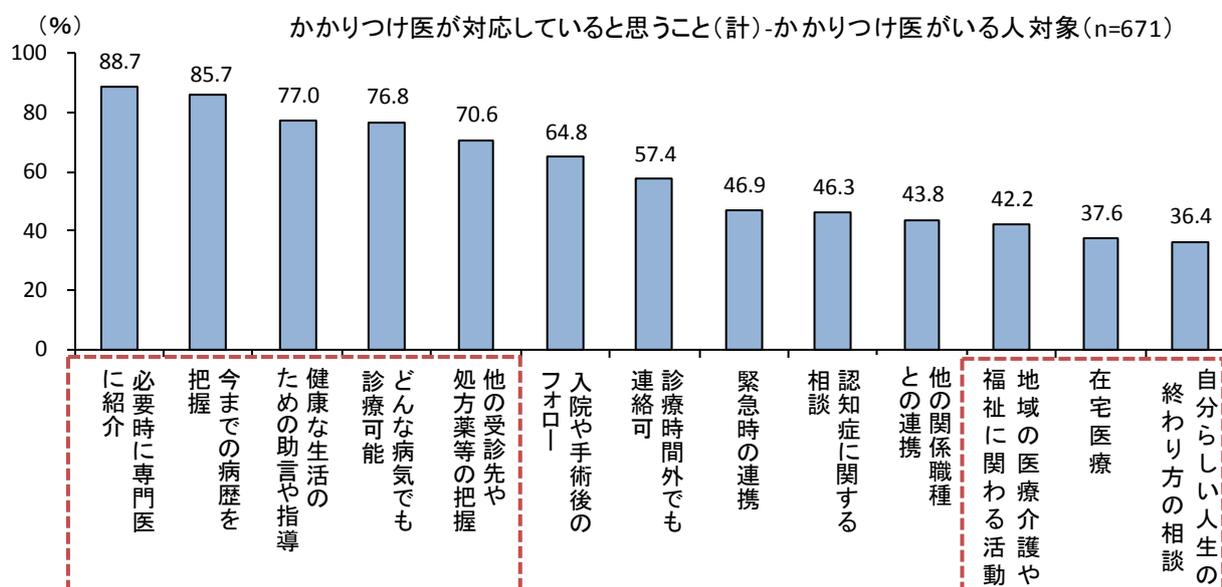


かかりつけ医に「望む」「まあ望む」「どちらともいえない」「あまり望まない」「望まない」の5択

かかりつけ医の診療の実態

一方、かかりつけ医のいる人を対象にその診療を把握するため、「あなたのかかりつけ医が対応していると思うか」を尋ねたところ、「必要時に専門医に紹介」が88.7%と高い割合であった。また、「今までの病歴を把握（85.7%）」、「健康な生活のための助言や指導（77.0%）」、「どんな病気でも診療可能（76.8%）」、「他の受診先や処方薬などの把握（70.6%）」が続いた。

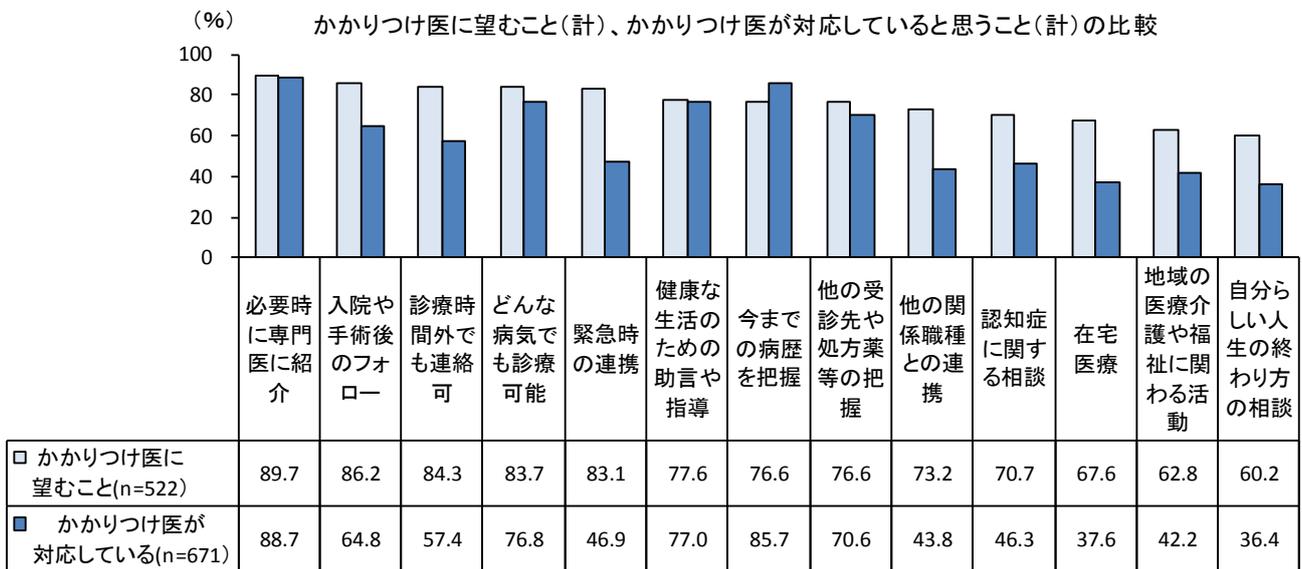
図 26 かかりつけ医が対応していると思うこと（計） - かかりつけ医がいる人対象（複数回答）【新】



※かかりつけ医が対応していると「思う」「まあ思う」「どちらともいえない」「あまり思わない」「思わない」の5択

一方、かかりつけ医がいない人の期待とかかりつけ医の実際の対応の比較を行ってみると、「地域の医療介護や福祉に関わる活動」については、望むが62.8%で、対応していると思うが42.2%、「在宅医療」を望むが67.6%で、対応していると思うが37.6%であった。また、「自分らしい人生の終わり方の相談」を望む人は60.2%、対応していると思う人は36.4%で、期待と対応の間にギャップが見られた。かかりつけ医がいる人のかかりつけ医への期待の大きさは、かかりつけ医がいない人の期待とは異なることも推測されるが、かかりつけ医に対する国民の期待の高さが示された。

図 27 かかりつけ医が対応していると思うこと（計）、かかりつけ医に望むこと（計）の比較



かかりつけ医に望むこと→かかりつけ医がいない人が、かかりつけ医機能として一般的に望むこと
 かかりつけ医が対応している→かかりつけ医を持っている人が、そのかかりつけ医が対応していると思うこと

年代別にみると、かかりつけ医がない人では、自分らしい人生の終わり方の相談をかかりつけ医に求める人が65歳以上で65.6%を占めた。一方、かかりつけ医がいる65歳以上の人の間では、その医師が対応していると思う割合が39.9%でギャップが示された。

図 28 かかりつけ医に望むこと (計) -年代別 (3 区分)

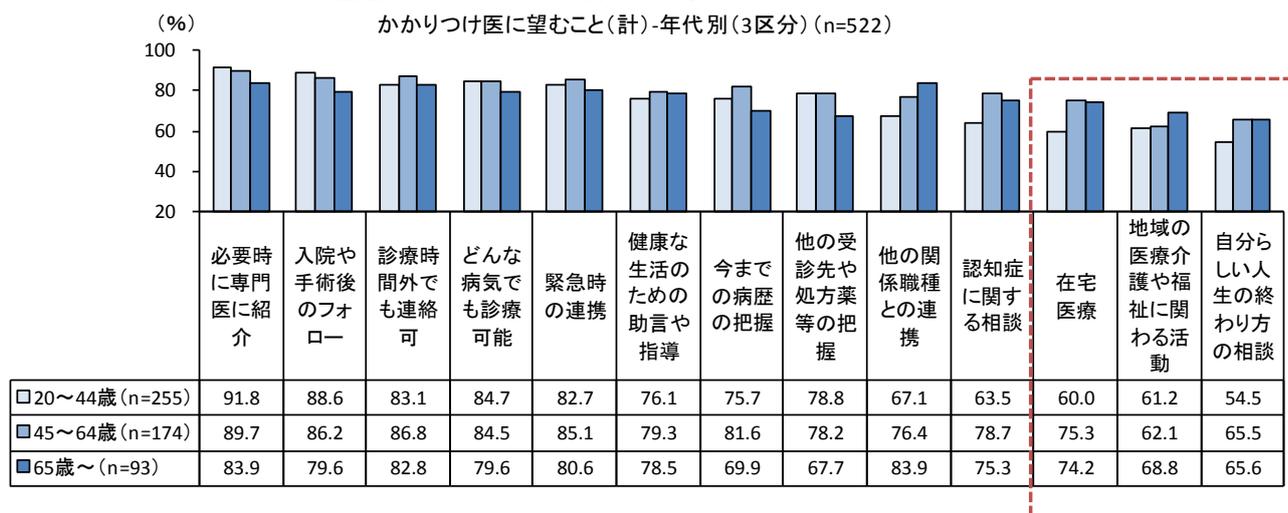
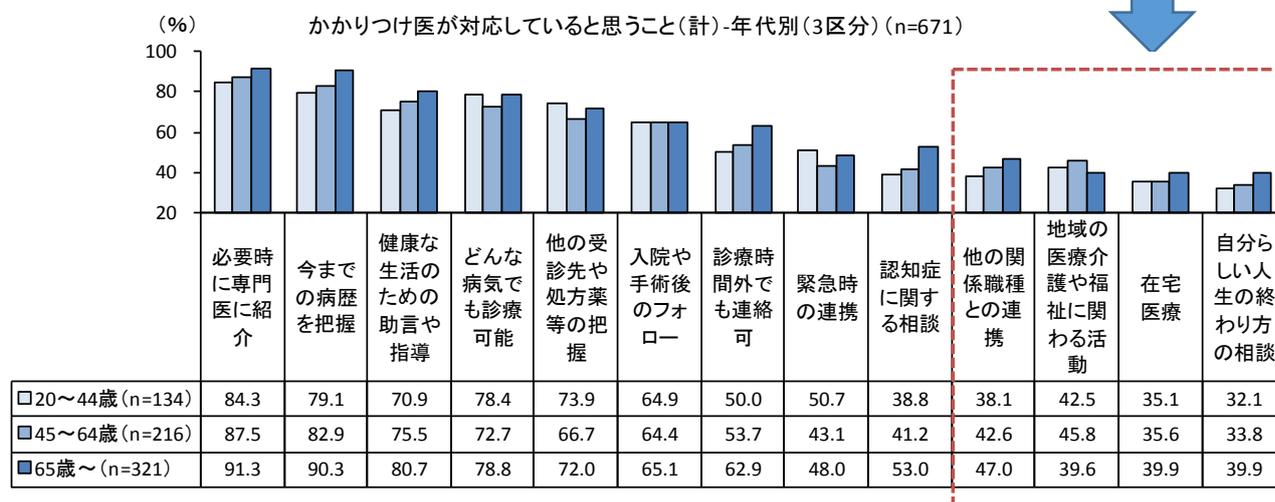


図 29 かかりつけ医が対応していると思うこと (計) -年代別 (3 区分)



2-2-3 かかりつけ医への受診と医師患者関係

かかりつけ医がいる人について、過去1年間の受診回数をみると、受診なしが10.7%、年に1～2回程度が22.2%、年3～10回程度が24.3%、月に1回程度が32.2%、月に2回以上が10.3%を占めた。全体では年に0回～10回程度の受診の人が半数以上を占めた。ただし、65歳以上では月に1回以上の人が6割を占めていた。

図 30 1年間にかかりつけ医を受診した回数【新】

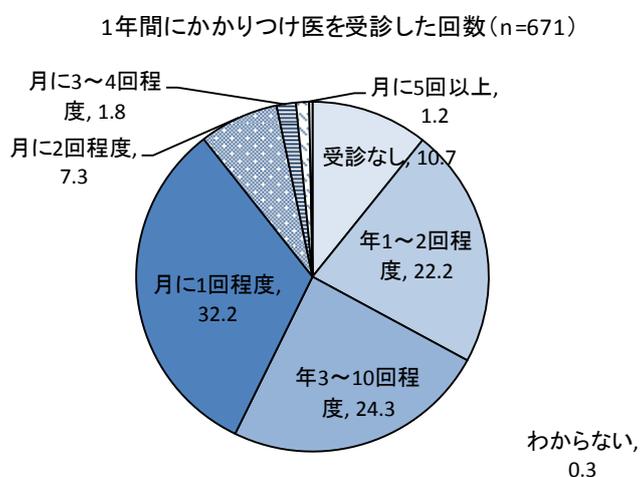
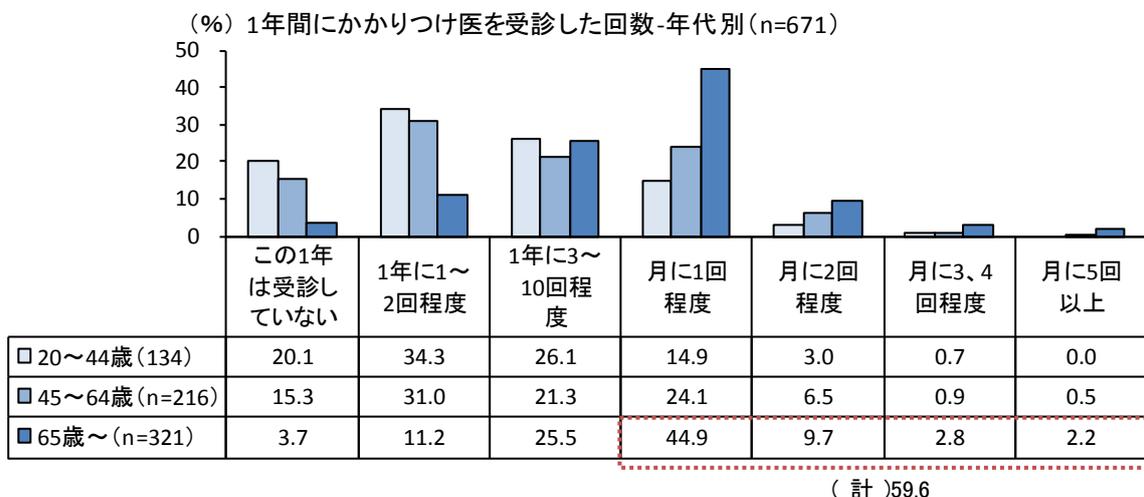


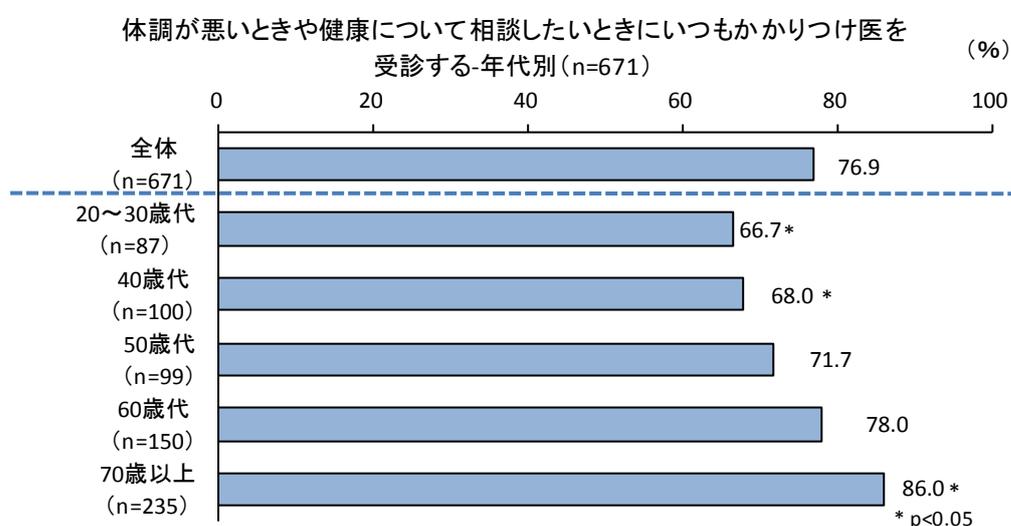
図 31 1年間にかかりつけ医を受診した回数 - 年代別



かかりつけ医がいる人に「体調が悪いときや健康について相談したいときにかかりつけ医を受診するか」を尋ねると、全体の76.9%が「いつもかかりつけ医に受診する」と回答した。一方、「専門医にかかりたいときにかかりつけ医に相談するか」については「いつもかかりつけ医に相談する」と回答した人は全体の52.9%にとどまった。ただし、いずれも年齢による違いが見られ、高齢になるほど高くなる傾向であった。

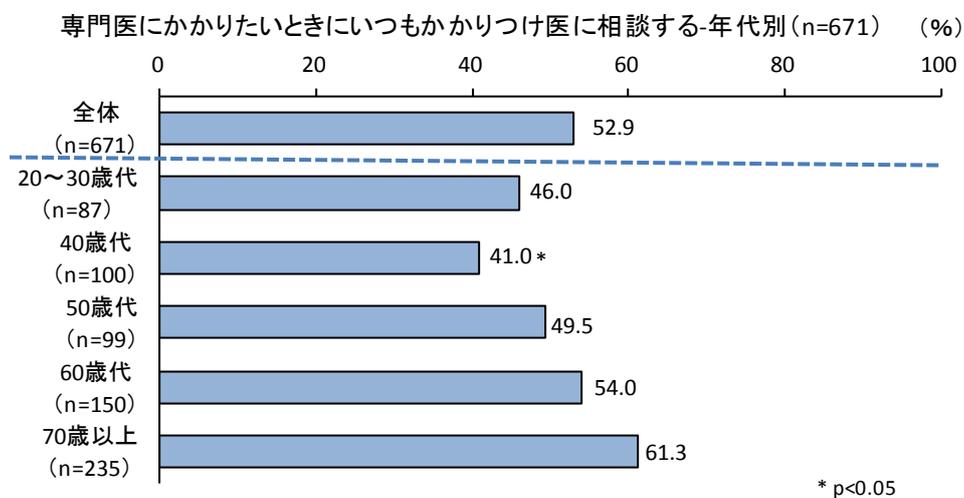
<かかりつけ医がいる人を対象>

図 32 体調が悪いときや健康について相談したいときにいつもかかりつけ医を受診する-年代別【新】



<かかりつけ医がいる人を対象>

図 33 専門医にかかりたいときにいつもかかりつけ医に相談する - 年代別【新】



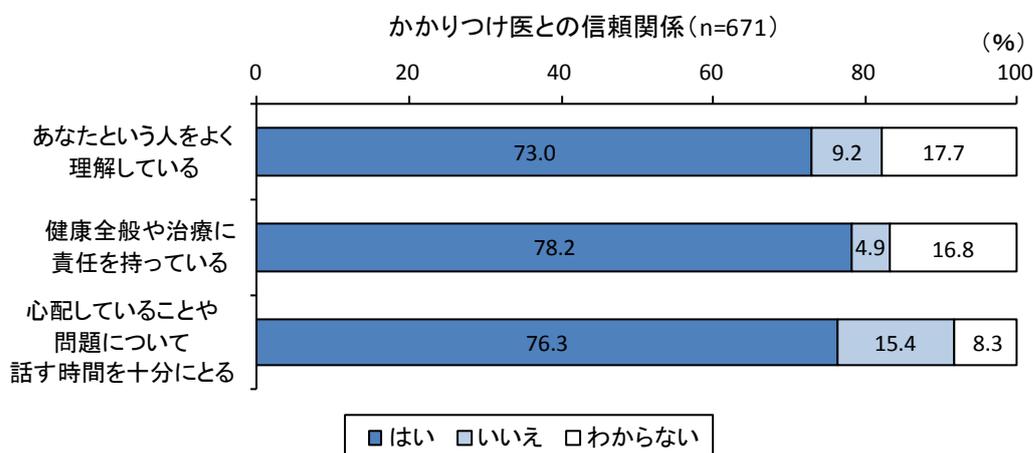
医師患者関係

患者にとっての「かかりつけ医」と患者自身の関係は、病態、年齢、診療科、地域、それぞれの考え方などさまざまな要因が関係し、多様な形であることが推測される。ただし、かかりつけ医が患者自身を理解してくれているという、患者側からの信頼感が重要であることは言うまでもない。

本調査では、かかりつけ医がいる人について³、JPCAT⁴の項目に基づいて、かかりつけ医との医師患者関係を測った。その医師が「あなたを理解している」、「健康全般や治療に責任を持つ」、「心配していることや問題について話す時間を十分にとる」の3点について「はい」、「いいえ」、「わからない」の3択で患者の視線を確認した。その結果、いずれについても7割強の人は、かかりつけ医が患者自身を「よく理解し」、「責任を持ち」、「話す時間を十分にとる」と回答した。ただし、「話す時間」については15.4%が「いいえ」と回答していた。また、3項目全てに肯定的回答を行った人は全体の58.6%で6割弱であった。

<かかりつけ医がいる人を対象>

図 34 かかりつけ医との信頼関係【新】



³ かかりつけ医が2名以上いる人については、最もよく相談に行くかかりつけ医について回答してもらった。

⁴ 本設問はJPCAT (Japanese version of Primary Care Assessment Tool) の「あなたの主治医について」の質問 A. 「医師との関係」より引用。「あなたの主治医について」は Johns Hopkins Primary Care Policy Center の B. Starfield, L. Shi らが開発したプライマリ・ケア質評価尺度 PCAT をもとに日本で開発された質評価尺度。© Primary Care Policy Center for Underserved Populations Johns Hopkins University, Takuya Aoki, Machiko Inoue, 2015. All rights reserved. https://docs.wixstatic.com/ugd/6c0e9c_53fcb1959975475b917fe6197a21c189.pdf

図 35 かかりつけ医との信頼関係 (再掲)

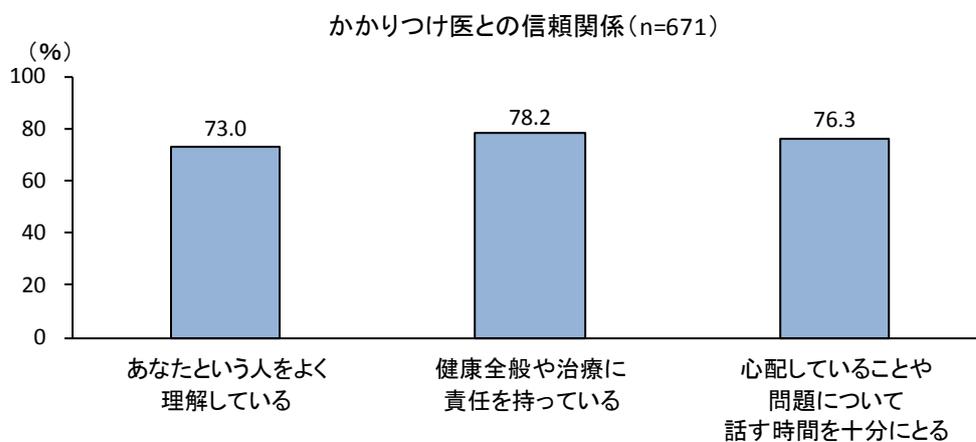
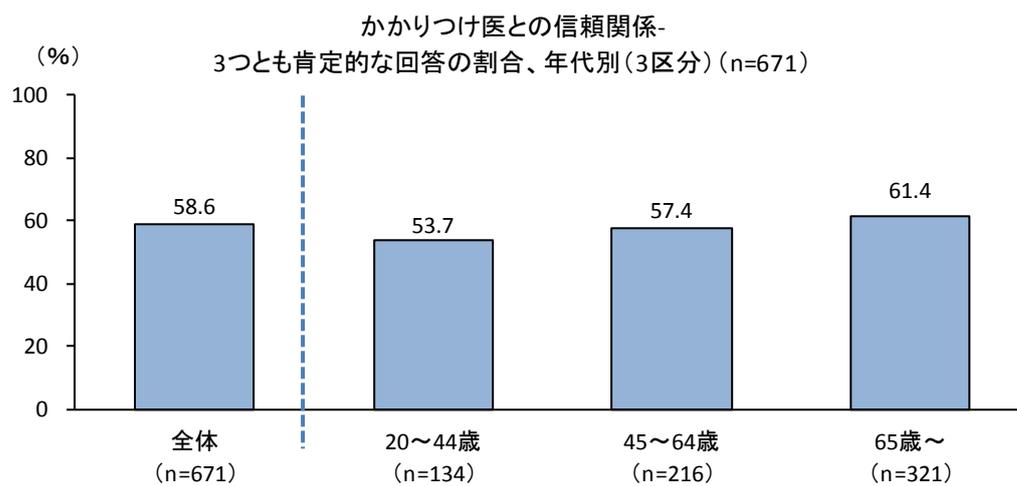


図 36 かかりつけ医との信頼関係-3 つとも肯定的な回答の割合、年代別 (3 区分)



2 - 2 - 4 その医師をかかりつけ医としている理由とかかりつけ医の探し方

その医師をかかりつけ医としている理由

かかりつけ医がいる人について、その医師をかかりつけ医としている理由を尋ねると、複数回答で、「病気の主治医である（あった）」経緯を持つ人が 58.9%で約 6 割を占めた。一方、「総合的に診てくれる」、「健康について幅広く相談できる」、がそれぞれ 24.0%、23.8%で、年代別にみても傾向に大きな違いはなかった。これらの重複を除いた主治医以外の理由の合計は 38.6%であった（表 11）。

図 37 その医師をかかりつけ医としている理由⁵（複数回答）【新】

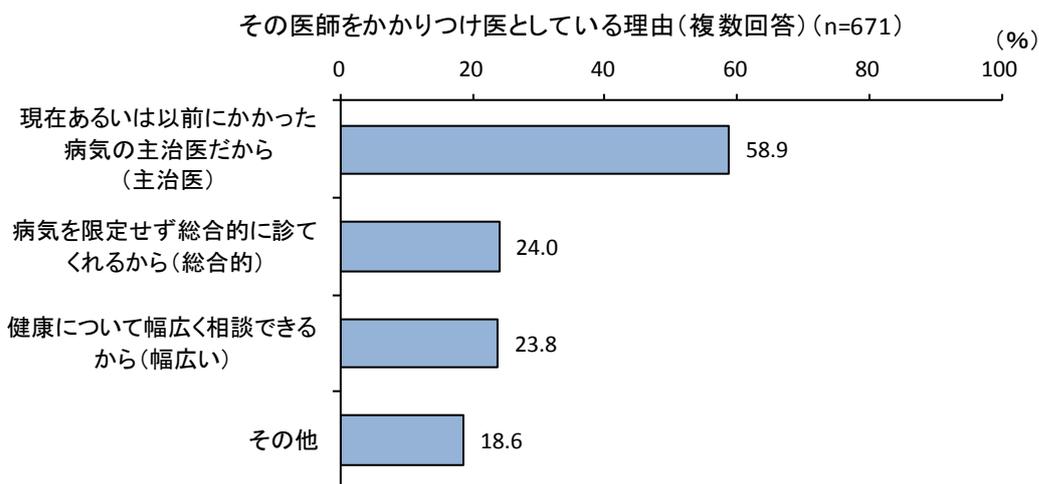


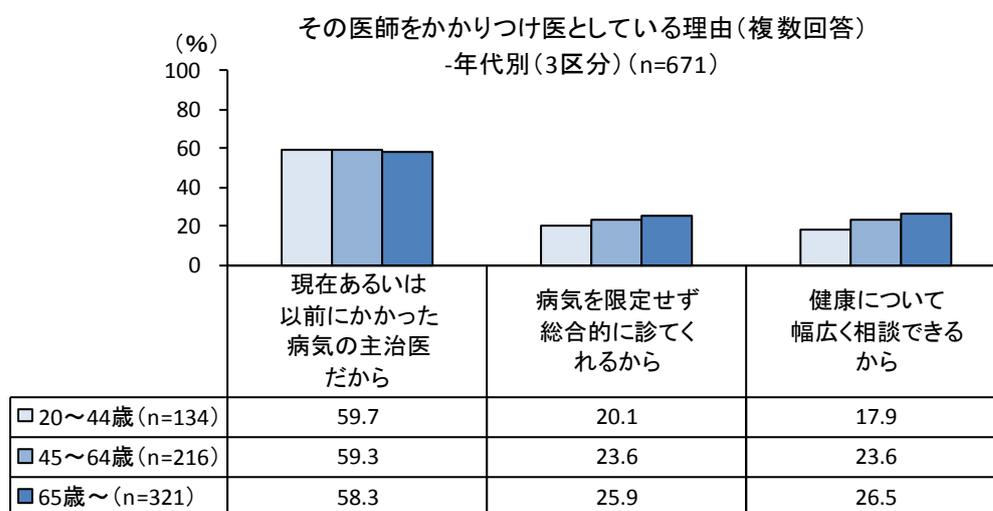
表 11 【再掲】その医師をかかりつけ医としている理由の複数回答の内訳

	人数	割合
病気の主治医だから	308	45.9
総合的に診てくれるから	71	10.6
幅広く相談できるから	72	10.7
主治医+総合的+幅広い	33	4.9
主治医+総合的	28	4.2
幅広い+総合的	29	4.3
主治医+幅広い	26	3.9
その他・わからない	104	15.5
全体	671	100.0

38.6

⁵ 「その他 (n=125)」のうち、66.4%は「近所だから (n=83)」。

図 38 その医師をかかりつけ医としている理由（複数回答）-年代別（3区分）



※「その他」は除く。

かかりつけ医をどのように探すのがよいか

かかりつけ医をどのように探すか（探せるか）については、今後のかかりつけ医の普及に向けて重要な視点となる。家族や知人からなどの紹介を除くと、全体では、「現在かかっている医師からの紹介」が 51.9%で、「経歴や専門分野を紹介するホームページ」が 41.3%であった。冊子は 18.6%、市区町村の医師会などからの紹介は 13.3%、認定証などの掲示が 11.7%であった。

年代によって探し方に違いがみられ、若年層ではホームページから探す割合が 6 割を超えた。また、年代が上がるにつれて現在かかっている医師から探す割合が増えていた。

一方、かかりつけ医がない人の間では、「現在かかっている医師からの紹介」が 38.3%で、「地域のかかりつけ医の経歴や専門分野を紹介するホームページ」から探すことが 52.3%であった。家族等からの紹介を除くと、かかりつけ医がない人の半数以上がホームページを手段と考えている状況であり、その中身についての精査が必要である。同時に、冊子や行政等からの紹介も住民のかかりつけ医選択ツールとなるように、さまざまな手段を講じる必要があるであろう。

図 39 かかりつけ医をどのように探すのがよいか（家族などからの紹介は除く）（3 つまで）【新】

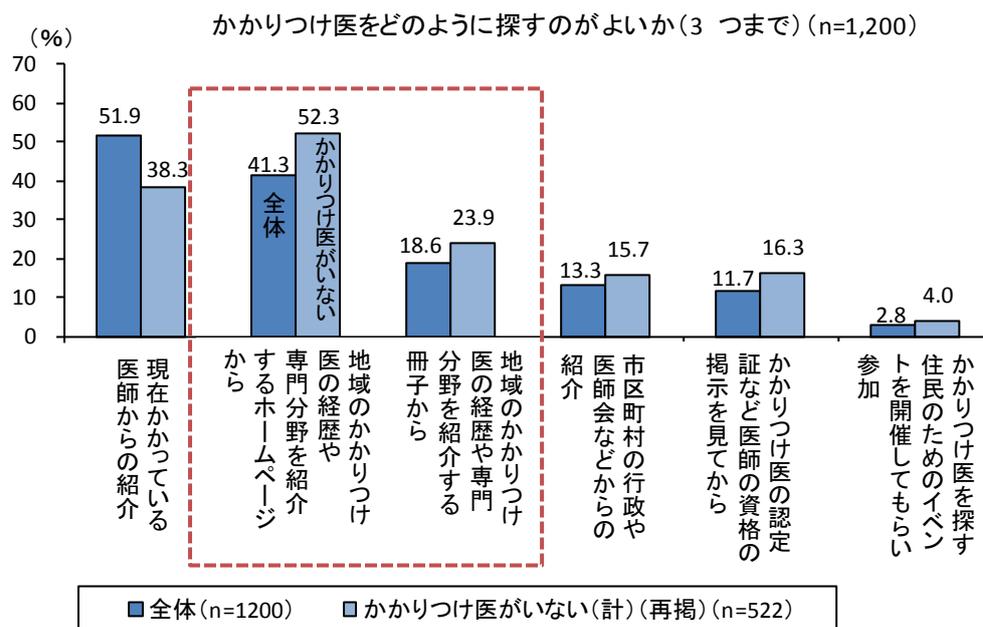
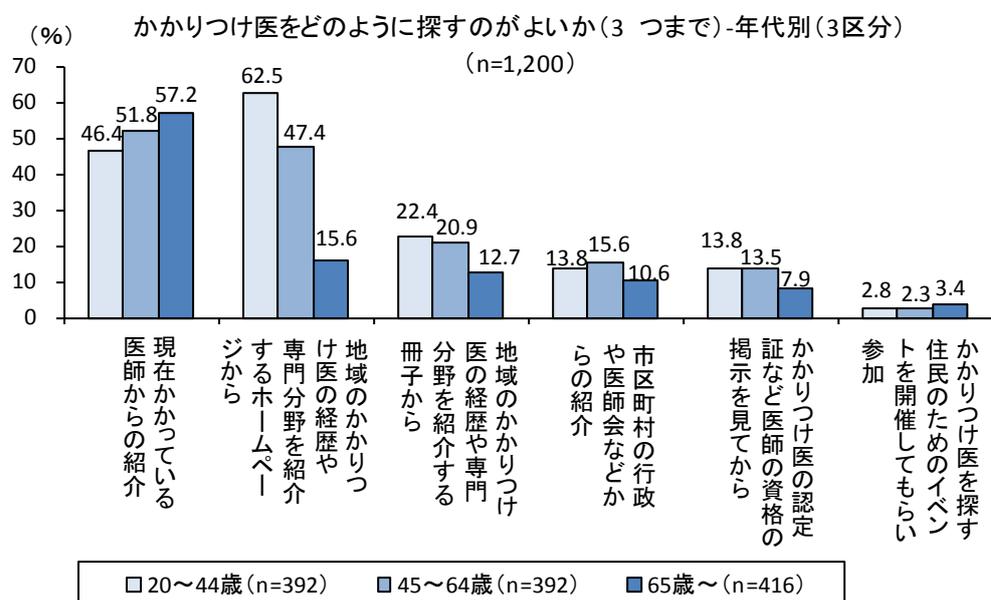


図 40 かかりつけ医をどのように探すのがよいか (3 つまで) -年代別 (3 区分)



かかりつけ医がない人の理由

かかりつけ医がない最大の理由は「あまり病気にかからない」(62.6%)、続いて「その都度、受診する医療機関を選んでいる」(32.6%)、「かかりつけ医をどのように選んでよいか分からない」(12.1%)であった。ただし、かかりつけ医が欲しいと思っている人の間では、「かかりつけ医をどのように選んでよいか分からない」が17.3%を占めた。

図 41 かかりつけ医がない理由（複数回答）

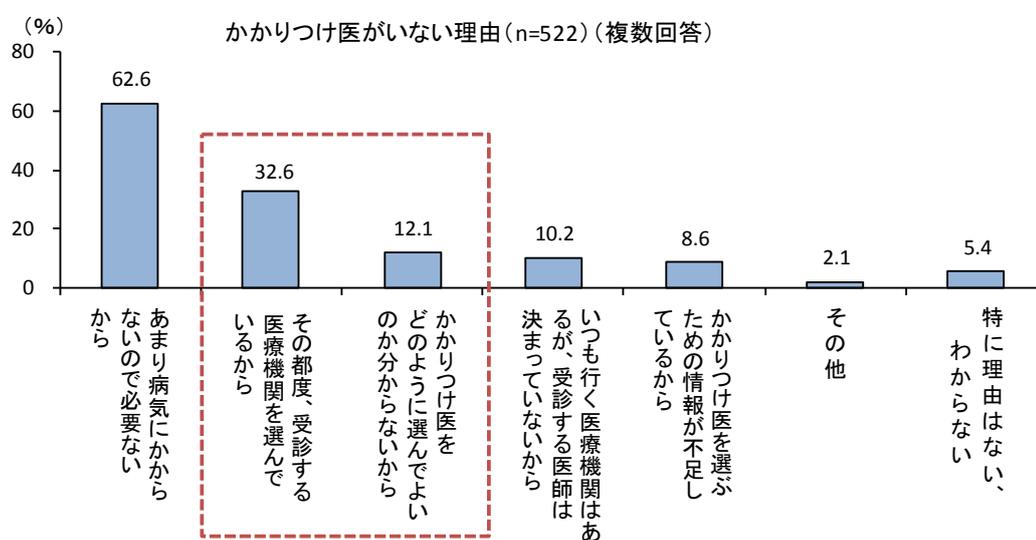


図 42 かかりつけ医がない理由（複数回答）-かかりつけ医はいないができればいいと思う、いない

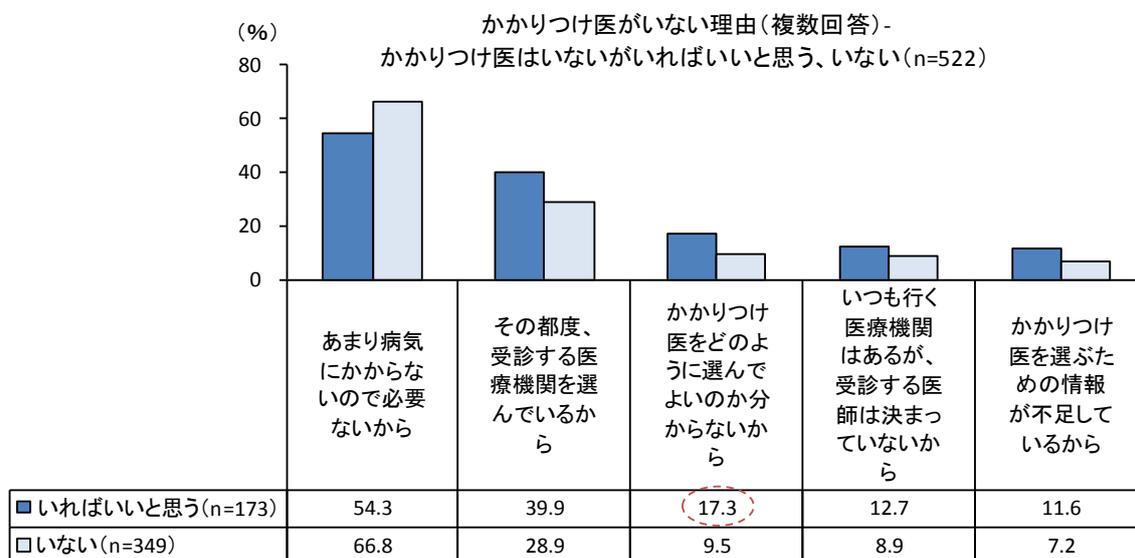
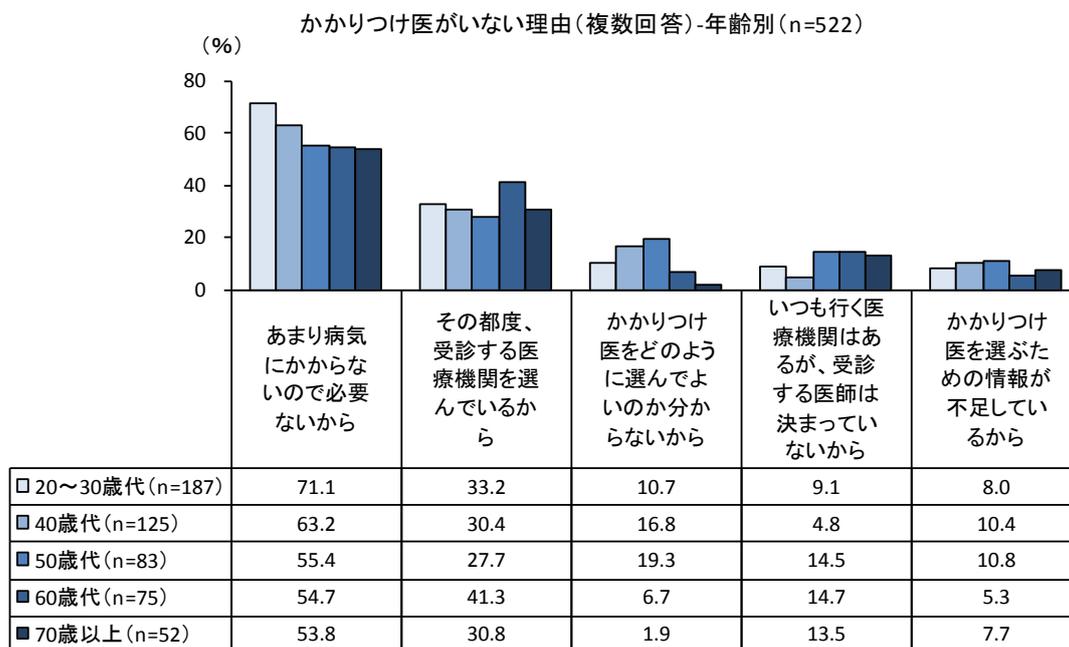


図 43 かかりつけ医がない理由（複数回答）-年代別

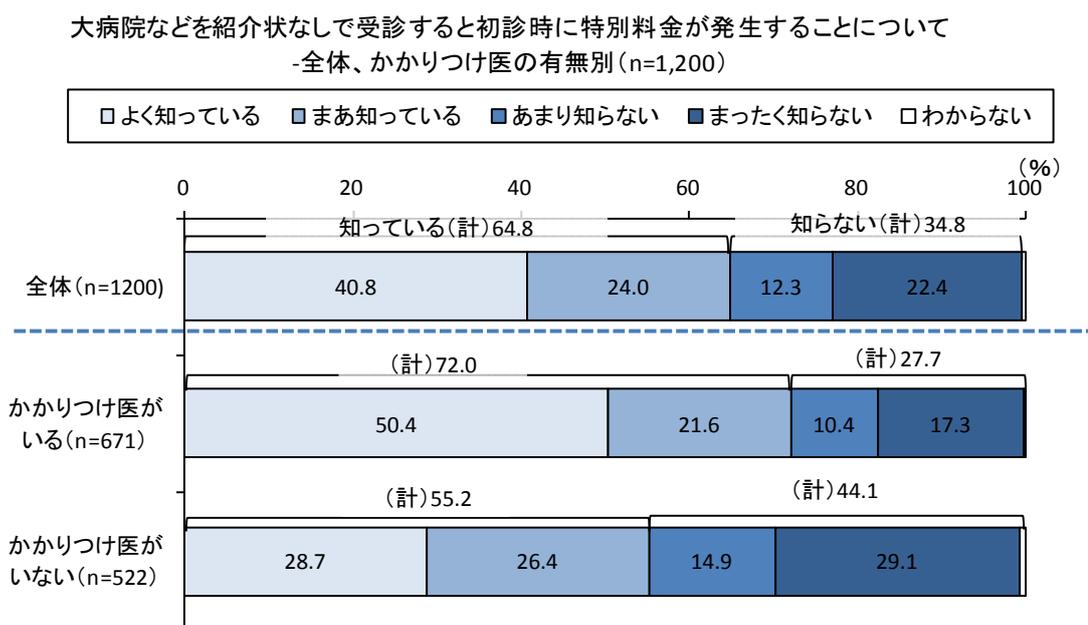


2 - 2 - 5 大病院の外来受診時の患者負担と医療機関の選択について

大病院の外来受診時の患者負担

500床以上の大病院などを紹介状なしで外来受診すると、初診時に5,000円以上の患者負担を支払うことについて、国民の周知度を確認した。全体では、「知っている」が64.8%、「知らない」が34.8%であった。かかりつけ医がいる人の中では、「知っている」が72.0%、かかりつけ医がいない人の中では55.2%で、かかりつけ医がいる人はいない人に比べて約17ポイント高い傾向がみられた。

図 44 大病院などを紹介状なしで受診すると、初診時に特別料金が発生することについて-全体、かかりつけ医の有無別【新】



医療機関の受診のあり方と選択

最初にかかりつけ医など決まった医師や医療機関を受診することに賛成する人の割合は67.3%にのぼり、自分の判断で選んだ医療機関を受診することに賛成の人の29.5%を大きく上回っている。この傾向は前回調査とほぼ同様であった。地域別にみると、地域による差はほとんど見られなかった。一方、かかりつけ医の有無別にみると、かかりつけ医がいる人は、最初に決まった医師や医療機関を受診することに賛成の人が73.9%、いない人は59.2%であった。

図 45 医療機関の受診のあり方について - 第5回調査との比較

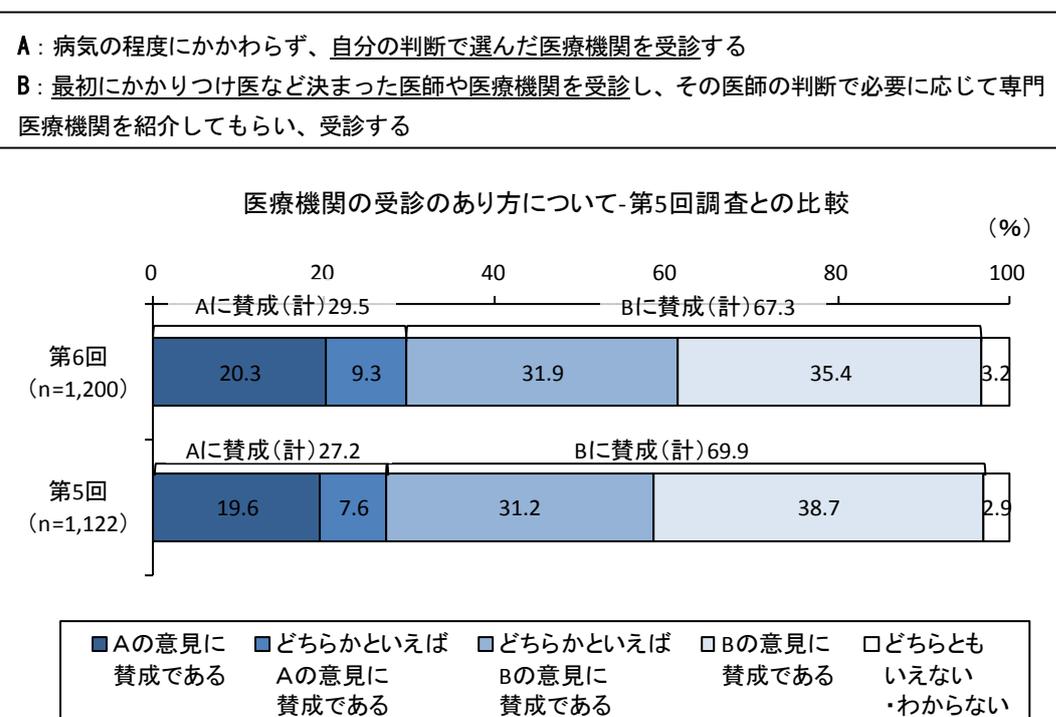
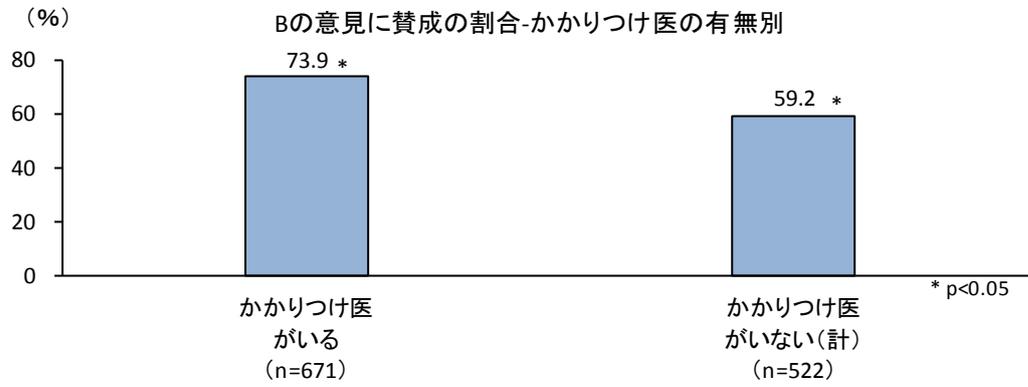


図 46 B の意見（最初にかかりつけ医などを受診して紹介してもらう）に賛成の割合 - かかりつけ医の有無別



2 - 2 - 6 健康への意識とかかりつけ医

人々の健康意識について聞くと、「健康のため積極的にやっていることがある」あるいは「生活習慣に気をつけている」人が、全体の56.1%を占めていた。高齢になるほど割合が増えている。

かかりつけ医の有無と健康への意識の違いをみると、かかりつけ医がいる人ほど健康に積極的に関わるあるいは生活習慣に気を付ける傾向があった。また、健康状態のよい、悪いの回答結果からそれぞれに比較すると、健康度の悪い人だけでなくよい人の間でも、かかりつけ医がいるとより健康に積極的に関わる傾向がみられた⁶。

図 47 健康への意識【新】

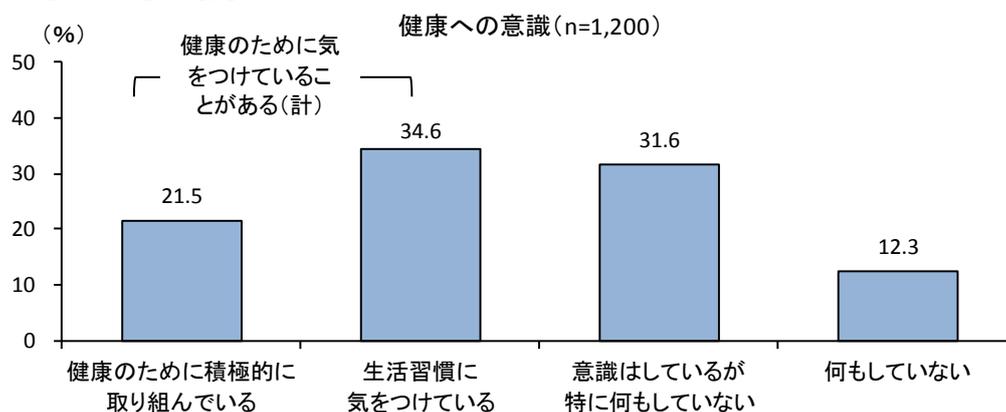
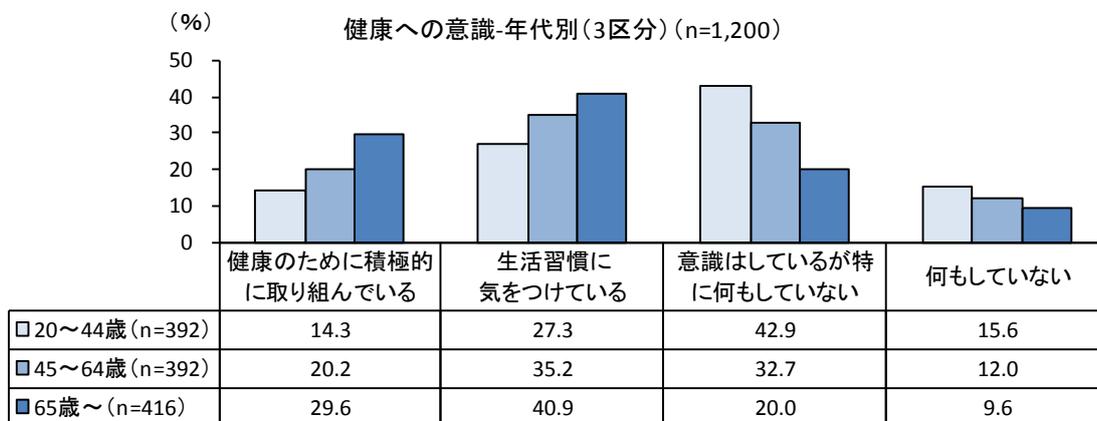


図 48 健康への意識-年代別 (3 区分)



⁶ 「4 - 1 - 7 健康状態・生活満足度・生きがい」に健康状態の結果を掲載。全体の66.4%がよいと回答。

図 49 健康への意識-かかりつけ医の有無別

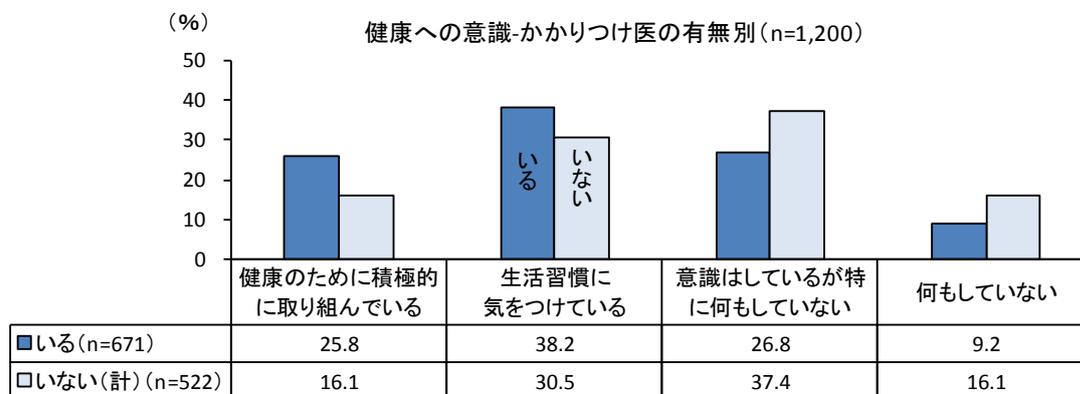
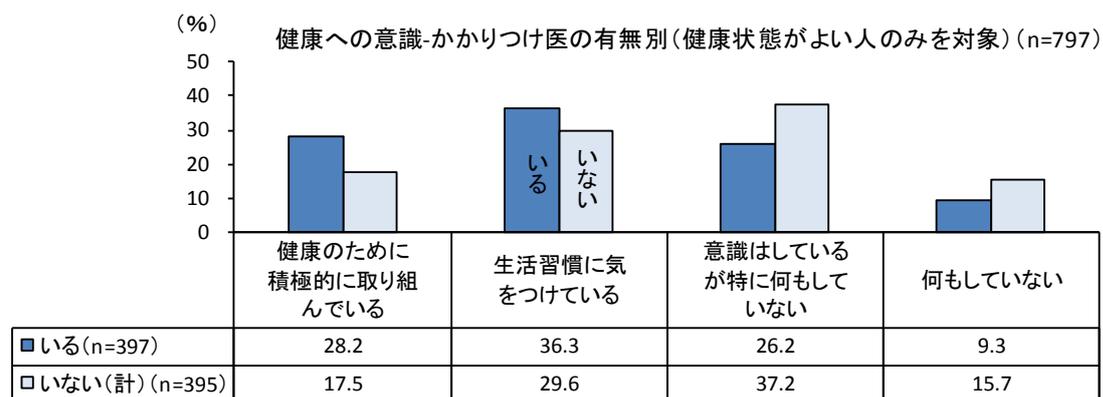


図 50 健康への意識 - かかりつけ医の有無別 (健康状態がよい人のみを対象)



2 - 3 医療の平等性・適正利用・社会保障への信頼

2 - 3 - 1 所得水準と医療の中身

所得差によって医療の中身が異なることに反対の人の割合（所得の高い低いにかかわらず、受けられる医療の中身は同じであるほうがよい）は全体の74.4%であった。一方、所得差によって医療の中身が異なることは仕方ない（所得の高い低いによって、受けられる医療の中身が異なることはやむを得ない）と考える人の割合は17.7%であった。

これらの割合については、第3回からほぼ一定して変わらないことから、7割から8割の人が医療についての平等性を重視していることがわかる。個人の所得水準が低い層では、中間層に比べて中身が異なることについて反対の割合が僅かに高い傾向がみられたが、明確な差は見られなかった。

図 51 所得水準と医療の中身についての考え方（第3回～第6回）

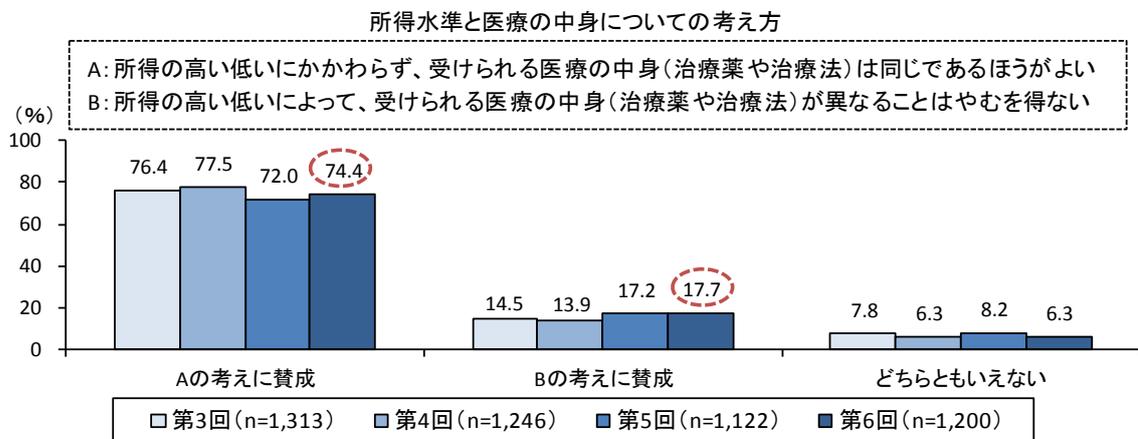
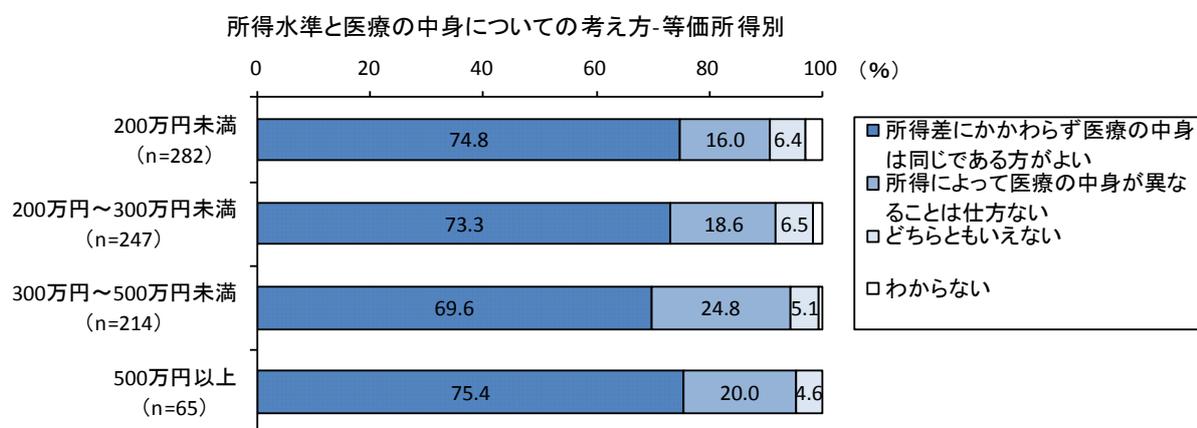


図 52 所得水準と医療の中身についての考え方 - 等価所得別⁷



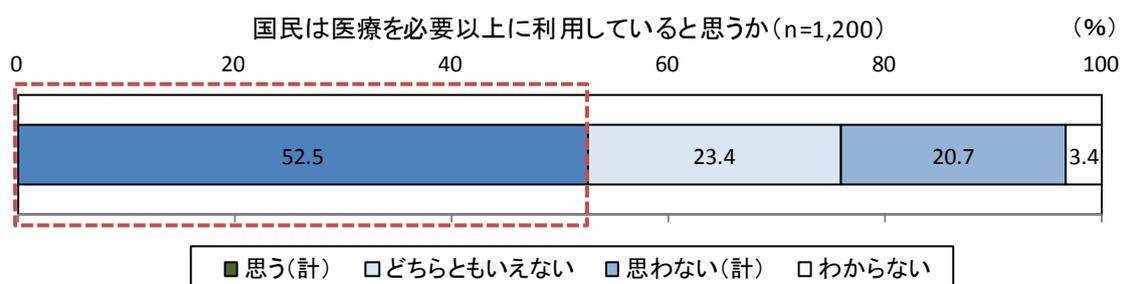
⁷ 世帯単位で集計した所得をもとに、世帯の構成員の生活水準を表すように調整した所得。世帯所得を世帯人員の平方根で除した式で表す。

2 - 3 - 2 医療の適正利用

少子高齢社会を迎えたわが国において、国の活力を高めるために社会保障の充実を図ることは極めて重要である。その一方で、社会保障の持続可能性に向けて、限られた資源を無駄なく利用することが必要である。医療においても、過剰でない適切かつ適正な医療提供が行われているか等の精査が求められている。

「国民は医療を必要以上に利用しているか」という質問に対して、国民の 52.5%がそう思うと回答した⁸。約半数の人は、一般に、必要以上の医療を利用していると考えており、この割合は年齢や地域による差が殆ど見られなかった。

図 53 国民は医療を必要以上に利用していると思うか【新】



※そう思う、どちらかといえばそう思う、どちらともいえない、どちらかといえばそうは思わない、そうは思わないの5択

⁸ 本設問は、国際研究組織 International Social Survey Programme (ISSP) が世界約 50 カ国の国民を対象に実施した「健康に関する国際比較調査 (2011)」と同一の質問。ISSP 調査の日本での結果は、「人々は、医療を必要以上に利用している」と「思う (そう思う+どちらかといえばそう思う)」と回答した人が 54%で、31 か国中、上から 14 番目であった。必要以上に利用していると思う割合が最も高かった国はスイスで 80%、次いでフランスの 71%であった。選択肢は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそうは思わない」「そうは思わない」の 5 択。

図 54 国民は医療を必要以上に利用していると思うか - 年代別 (3 区分)

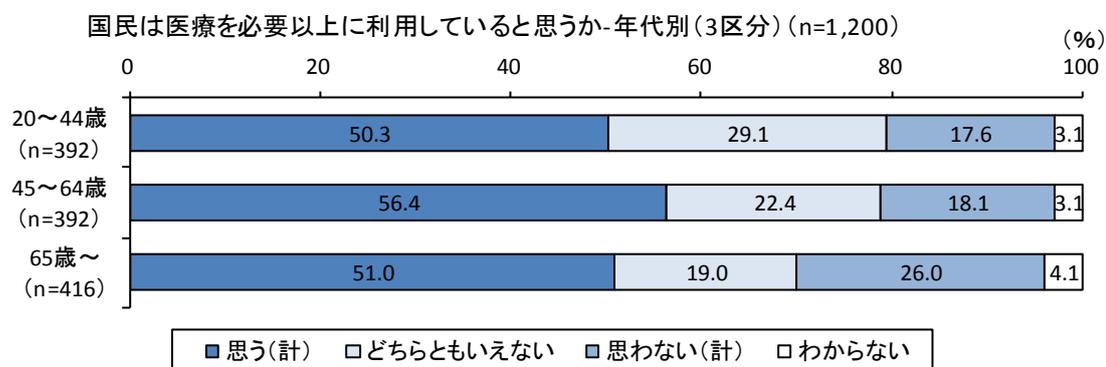
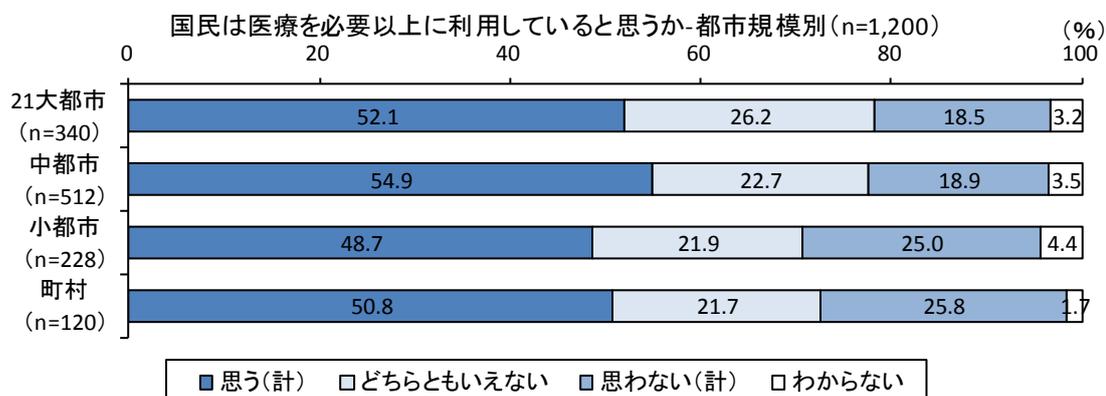


図 55 国民は医療を必要以上に利用していると思うか - 都市規模別



適正利用のために重要と思うこと

「国民は医療を必要以上に利用している」と回答した人にも「医療を適正に利用するために何が重要か」を複数回答で尋ねた。その結果、最も多い回答は「自身の健康管理を行う」で70%であった。続いて、「救急車を安易に呼ばない」(59.5%)、「かかりつけ医を持つ」(41.9%)、「同じ病気で医療機関を次々と受診しない(重複受診をしない)」(38.1%)であった。かかりつけ医を持つと回答した人は、年齢が上がるほど高くなる傾向がみられた。

図 56 医療の適正利用のために重要だと思うこと（複数回答）【新】

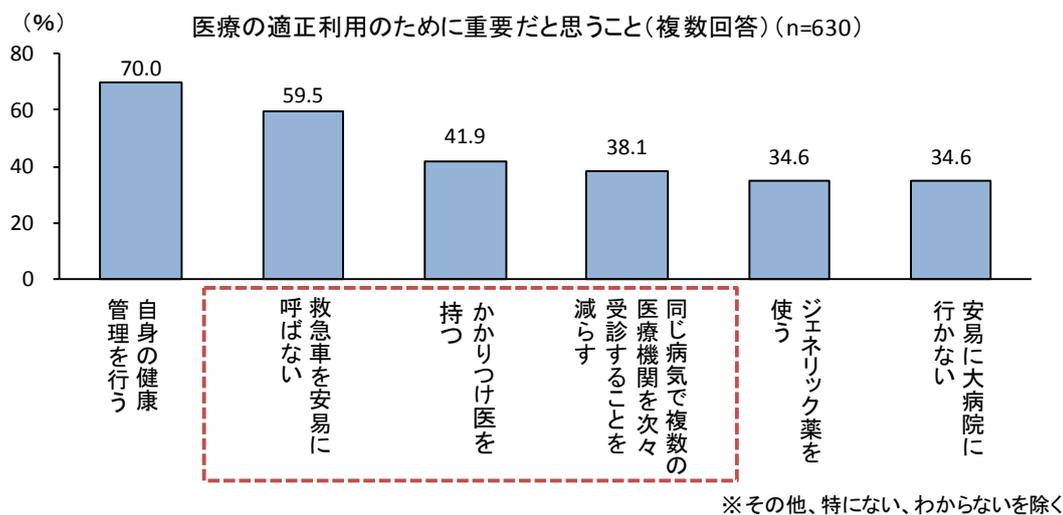
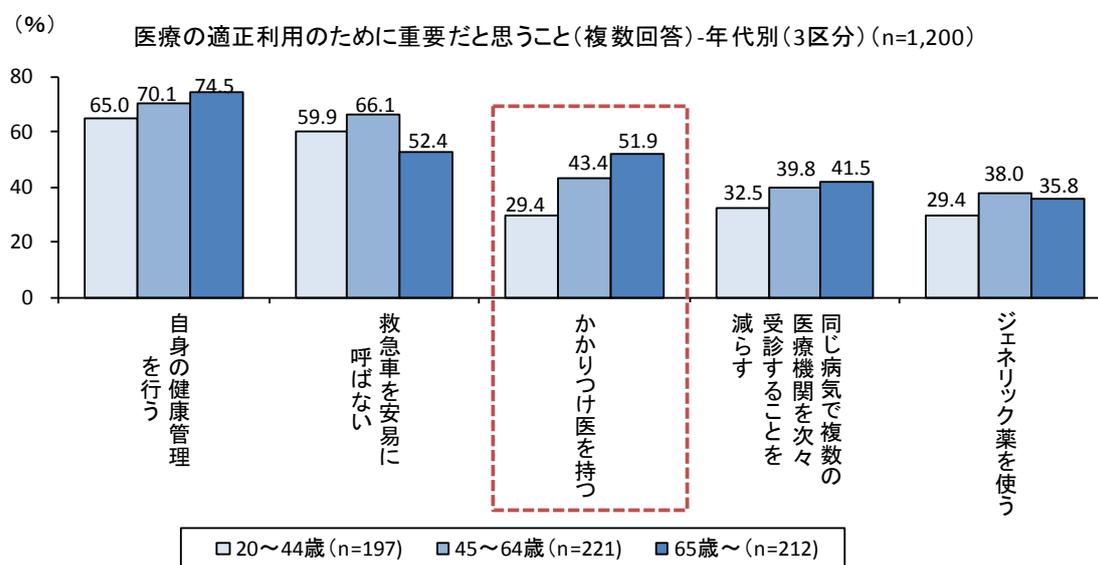


図 57 医療の適正利用のために重要だと思うこと（複数回答）-年代別（3区分）



2 - 3 - 3 社会保障に対する信頼度

社会保障に対する信頼感を尋ねた。「あなたは、医療・介護などの社会保障に関する国の政策を信頼しているか」という質問に対して、58.1%が信頼していると回答し、37.3%が信頼していない、と回答した。信頼していない人について、年代別に見ると、世代間の意識の違いがあり、50歳代が46.7%と高く、70歳以上は25.3%と低い傾向がみられた。

図 58 社会保障に関する国の政策への信頼度【新】

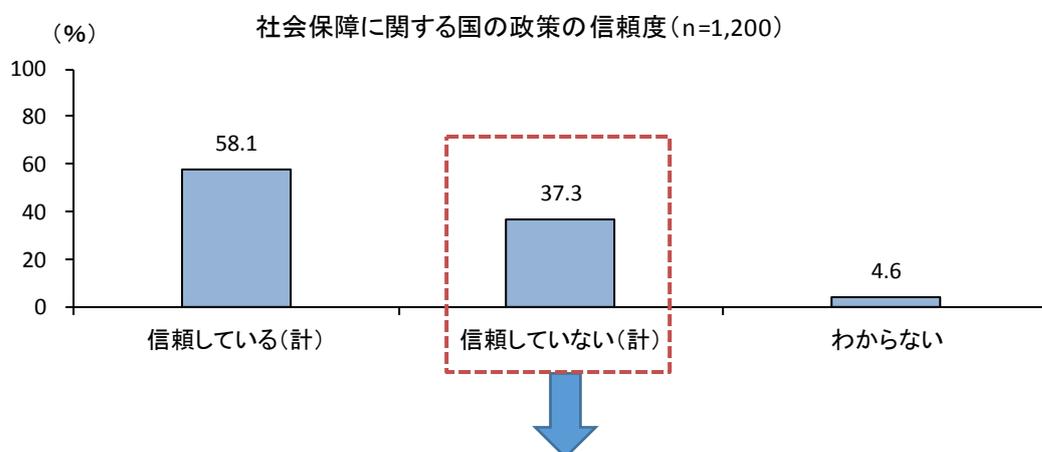
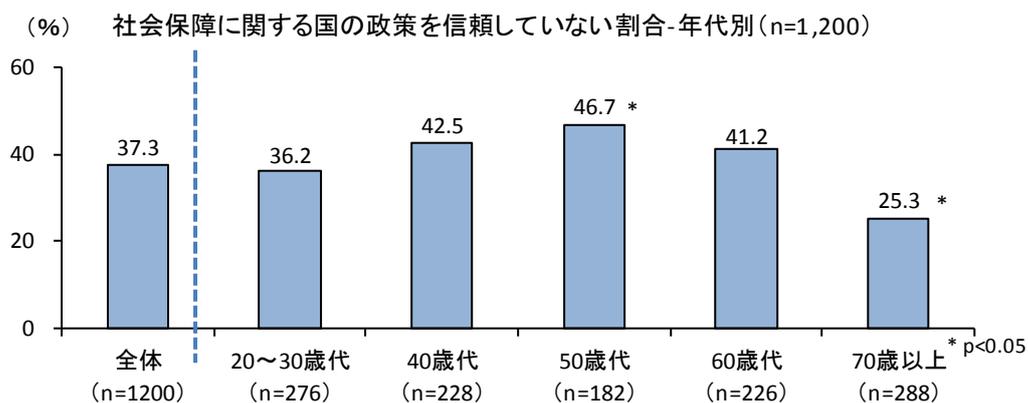


図 59 社会保障に関する国の政策を信頼していない人の割合 - 年代別



2 - 4 最終段階の医療の意思表示・療養の場所

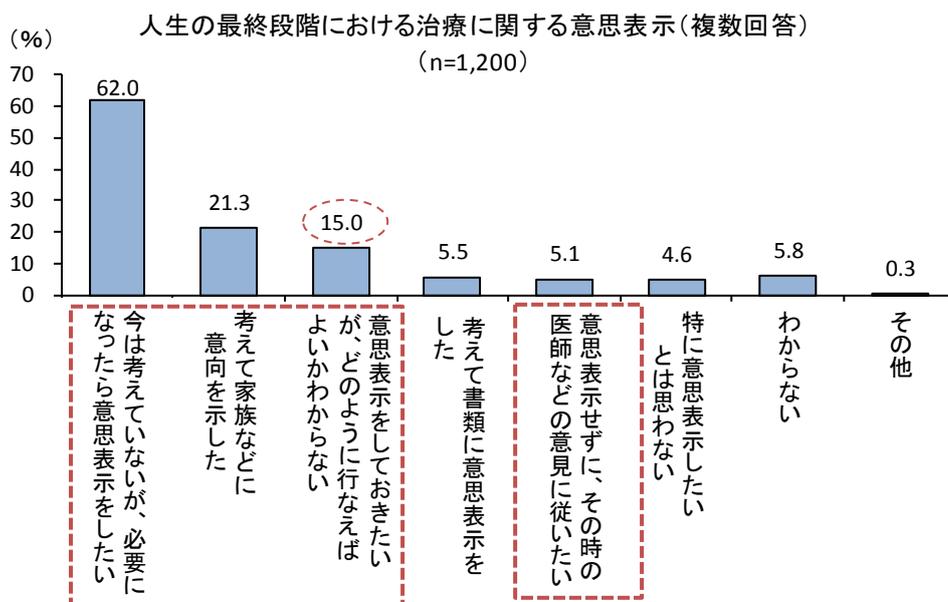
2 - 4 - 1 人生の最終段階における医療に関する考え方

多死社会を迎え、わが国では、国民の間で人生の最終段階における医療についての意識を高め、一人一人が納得のいく人生の終わりを迎えられるように啓発活動を行うことが求められている。

「元気なうちに治療に関する意思表示を行うこと」についてどのように考えるかを尋ねたところ、「今は考えていないが、必要になったら意思表示をしたい」と回答した人が全体の62.0%を占めた。「すでに考えて家族などに意向を示した」は21.3%で、全体の5分の1を占めた。また、「どのように行えばよいかわからない」という回答が全体の15%、「書類に意思表示を行った」は5.5%であった。さらに、「その時の医師などの意見に従いたい」人の割合は5.1%と低い割合であった。

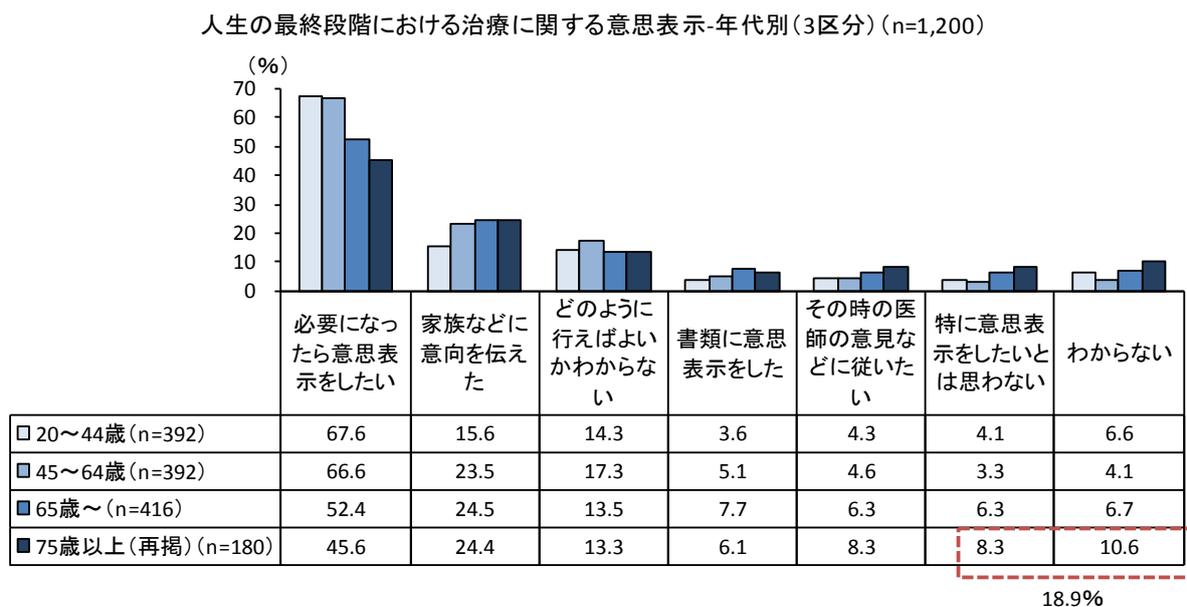
最終段階の医療をその時の医師に任せるのではなく、主体的に関わりたいという意識は高く、具体的な手法を含めた啓発活動の必要性が示された。

図 60 人生の最終段階における治療に関する意思表示（複数回答）【新】



75歳以上の人の間では、「意思表示をしたくない」と「わからない」は合わせて18.9%で約2割であり、個人の自由を尊重しつつも、情報提供や支援を行うことが必要と考えられる。

図 61 人生の最終段階における治療に関する意思表示 - 年代別 (3 区分)



2-4-2 最期までの療養の場所

治る見込みがない場合の最期までの療養生活の場については、「自宅で療養し、必要になれば医療機関に入院したい」が 32.8%、「自宅で療養し、必要になれば緩和ケア施設に入院したい」が 24.8%で合わせて 57.6%にのぼった。また、「最期まで自宅で療養したい」という回答は 19.6%で全体の 2 割を占めた。

第 5 回調査と比較すると、自宅での療養を基本とする割合の増加が見られた。在宅医療に関する認知度が高まったことを示していると考えられる。さらに、最期までの療養生活の場については、男女によって意識の違いが顕著に見られた。特に、女性は自宅で最期までを望む人が男性より少なく、必要になったときに緩和ケア施設や病院に入院することの要望が強い。すなわち、最期までを自宅で過ごすことについては、周囲の負担が大きく、一部を除くと、必ずしも現実的ではないという意見も多い。本人の希望に沿いつつ、最適な看取りの場について検討することが求められている。

図 62 治る見込みがない場合の最期までの療養生活の場

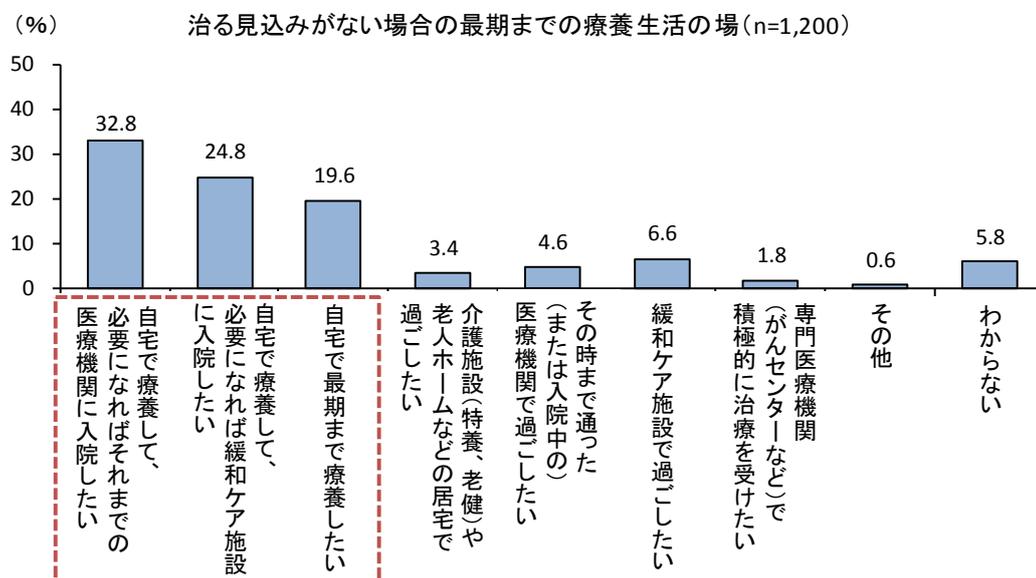


図 63 治る見込みがない場合の最期までの療養生活の場 - 第5回、第6回調査の比較

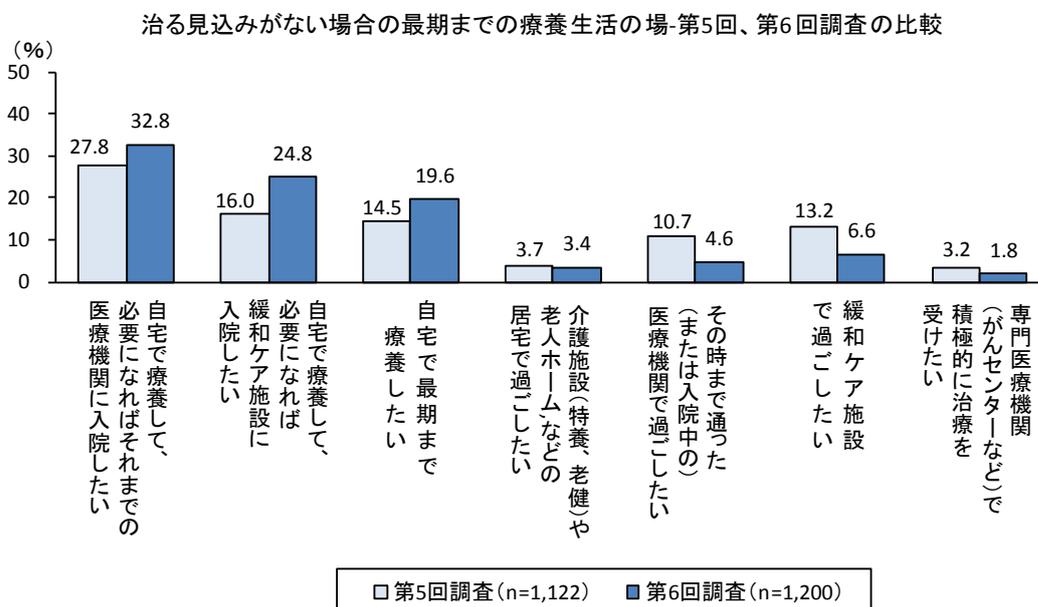
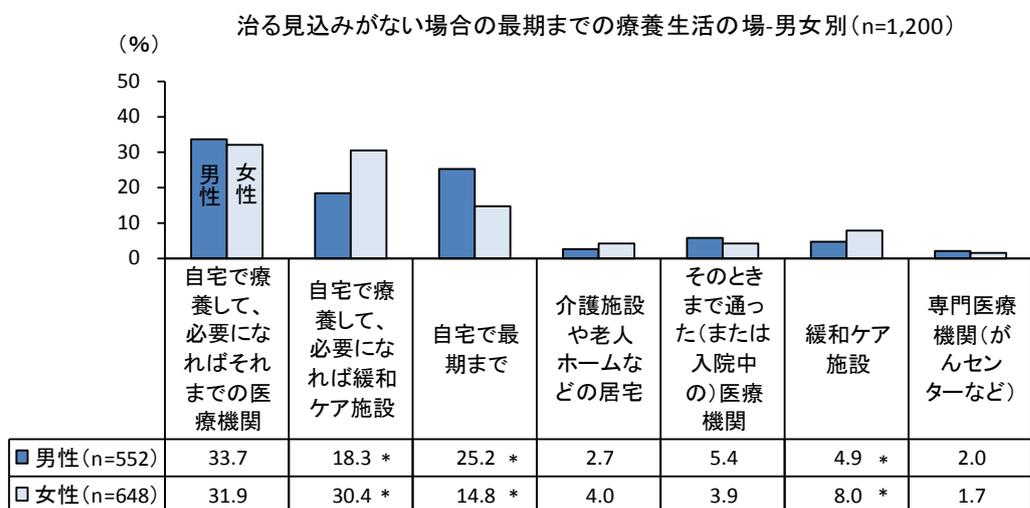


図 64 治る見込みがない場合の最期までの療養生活の場-男女別



* p<0.05

図 65 治る見込みがない場合の最期までの療養生活の場-年代別 (3 区分)

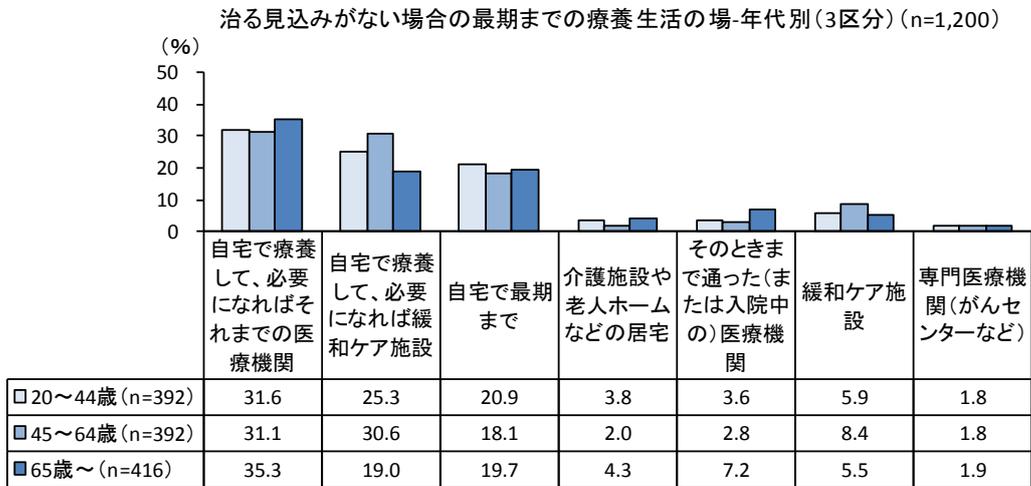
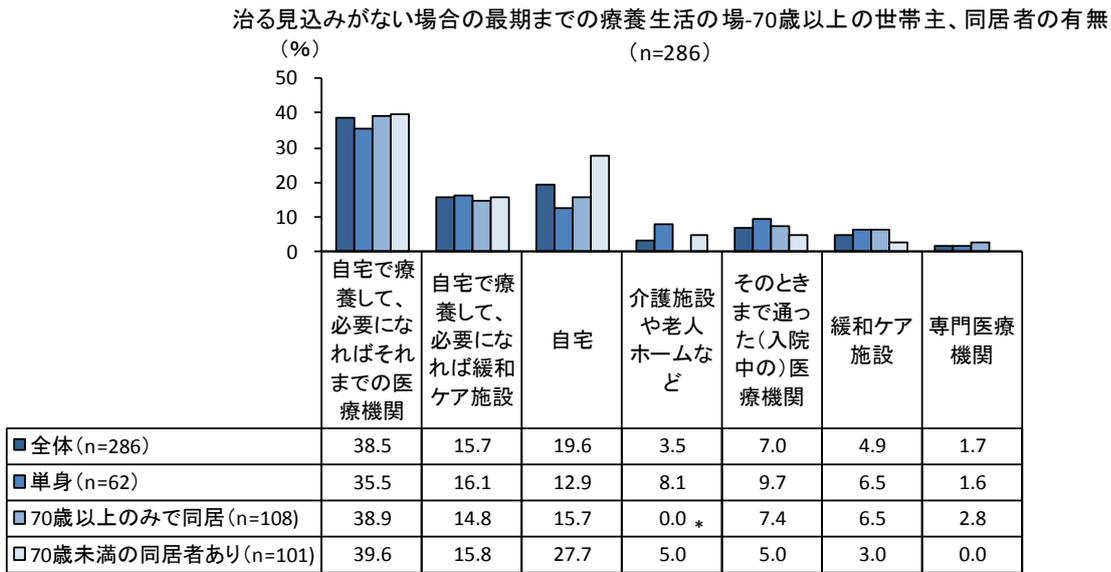


図 66 治る見込みがない場合の最期までの療養生活の場-70 歳以上の世帯主、同居者の有無



* p<0.05

2 - 5 医療・介護の情報への要望

2 - 5 - 1 医療・介護の情報一般

今後の医療介護の連携による地域包括ケアシステムを推進するには、行政や医療介護関係者のみならず、利用者である地域住民自身が地域で受けられる医療介護を理解し、活用していくことが重要で、そのための情報提供や支援が求められている。そこで、「あなたの住まいの市区町村では、医療や介護に関して必要な情報が十分にあるか」について尋ねた。全体の39.3%は「医療の情報がない(計)」と回答し、42.8%は「介護の情報がない(計)」と回答した。地域による差をみると、医療に関しては、大都市の住民が不足と回答する割合が高い傾向がみられた。大都市には医療機関の数や種類が多く、選択肢が多いことが背景にあると考えられる。

図 67 医療や介護に関する必要な情報が十分にあるか【新】

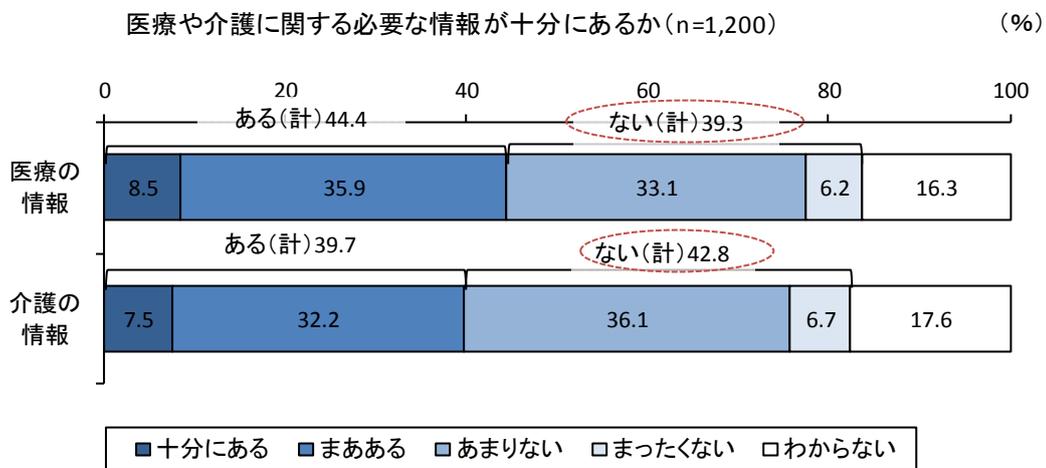


図 68 医療に関する情報が不足していると思う人の割合 - 都市規模別

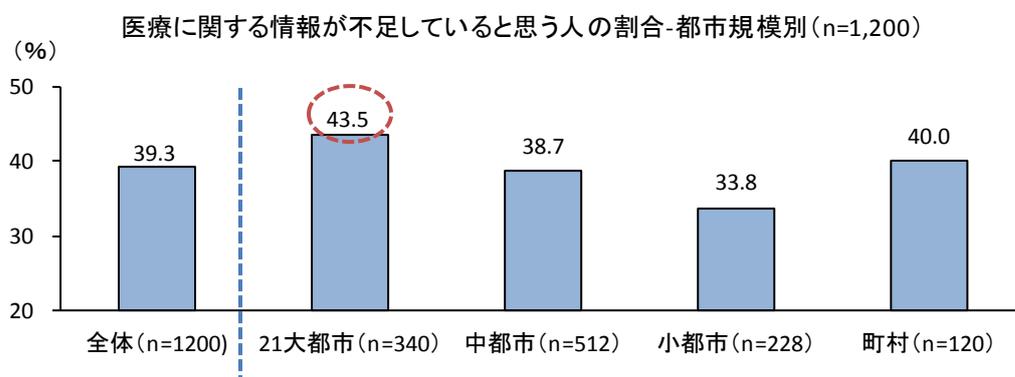
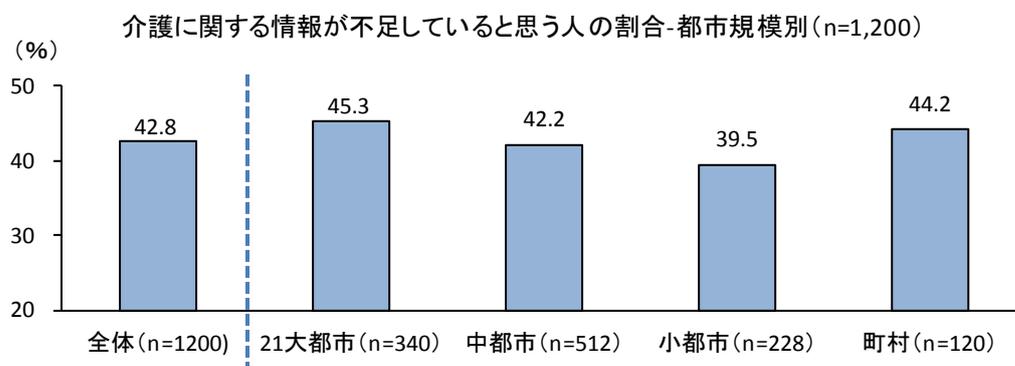


図 69 介護に関する情報が不足していると思う人の割合-都市規模別



2 - 5 - 2 介護に関して欲しい情報

介護に関する情報について、特にどのような情報を必要としているかを尋ねると（複数回答）、費用が 58.8%、サービス内容が 51.3%で、約半数が基本的な情報を求めている。また、手続きについても全体の 40.9%が必要としていた。年齢による大きな差はなく、全世代において介護情報への関心がみられた。

図 70 介護に関して欲しい情報（複数回答）【新】

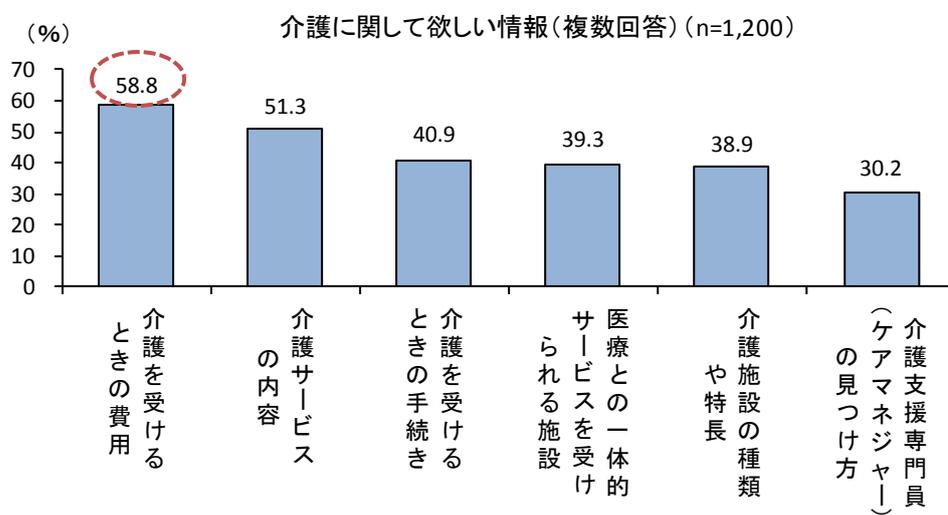
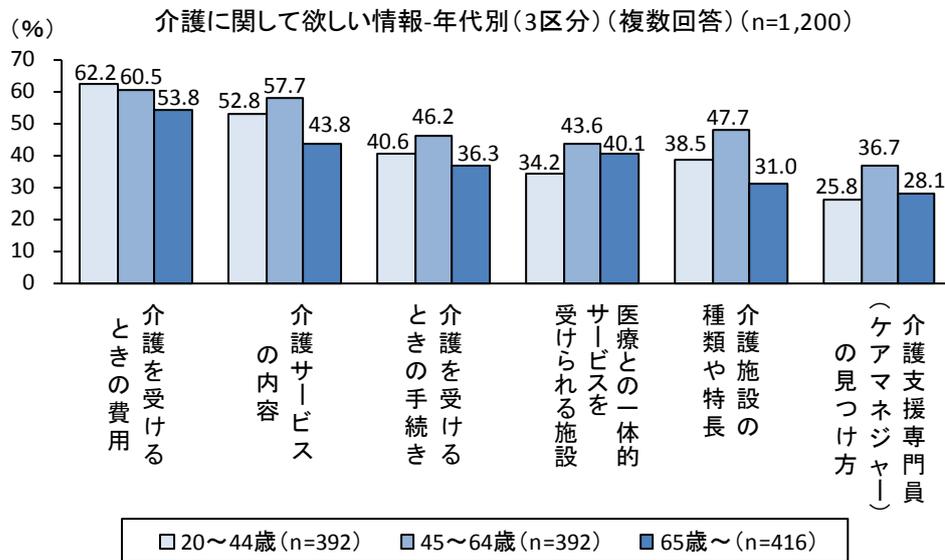


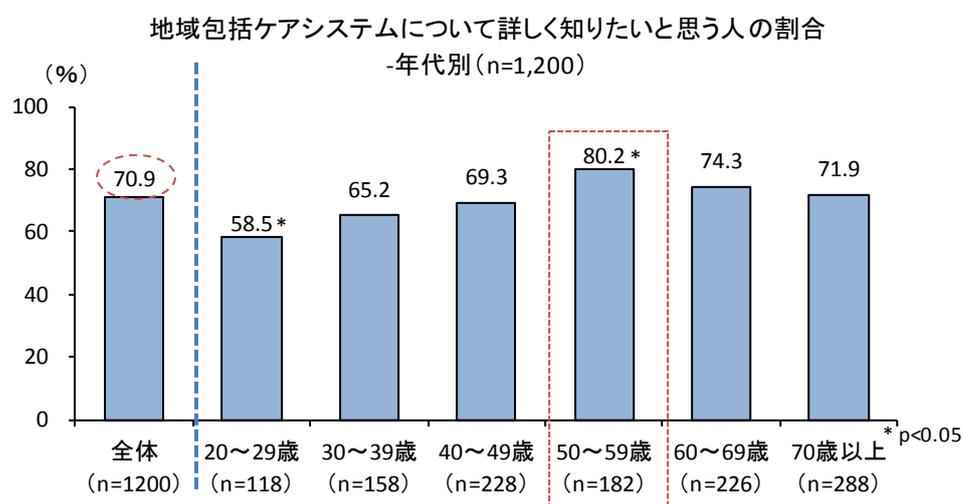
図 71 介護に関して欲しい情報-年代別（3区分）（複数回答）



2 - 5 - 3 地域包括ケアシステム

高齢者などが要介護状態になっても住み慣れた地域で暮らせるよう、医療・介護の連携を推進するために地域包括ケアシステムと呼ばれる仕組みを作っていることを紹介したうえで、地域包括ケアシステムについて詳しく知りたいかを尋ねた。すると、知りたい（計）と回答した人は全体の 70.9%にのぼった。年齢別にみると、50 歳代で特に高い傾向が見られた。

図 72 地域包括ケアシステムについて詳しく知りたいと思う人の割合-年代別【新】



2-5-4 在宅医療についての知識

在宅医療・在宅療養⁹について知っている人は全体の約3割であった。一方、訪問介護について知っている人は全体の6割にのぼった。

図 73 在宅医療・在宅療養について知っていること【新】

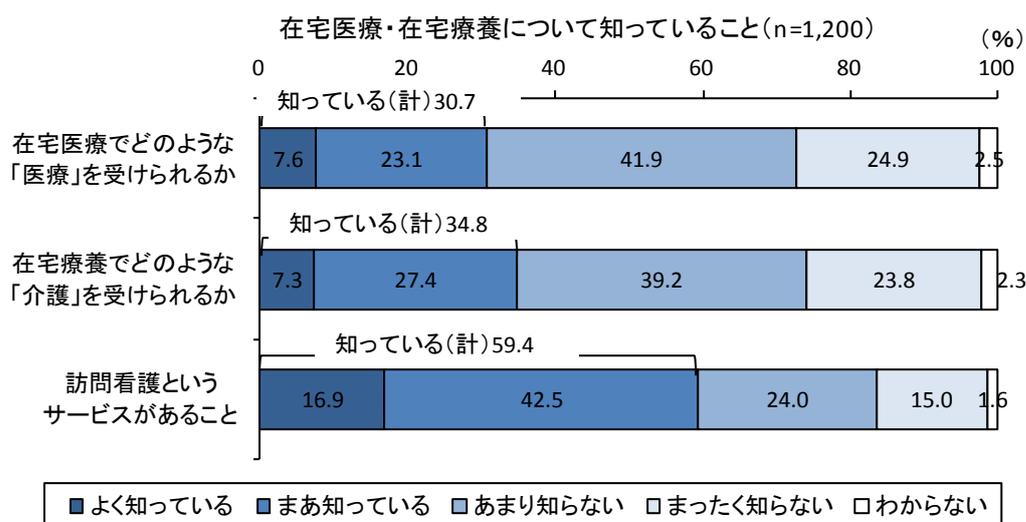
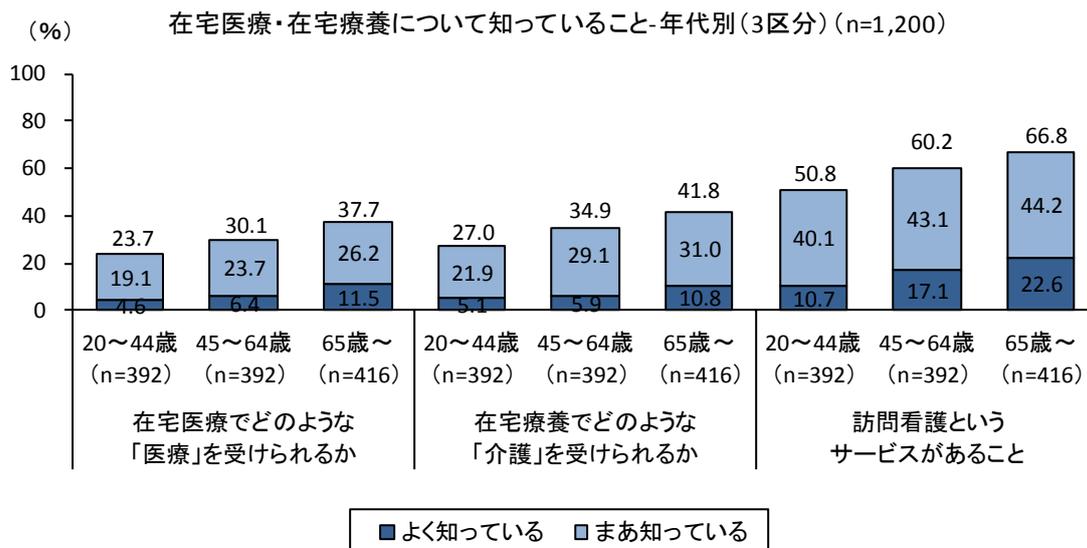


図 74 在宅医療・在宅療養について知っていること - 年代別 (3 区分)



⁹ 質問は「高齢者を含めて療養が必要な患者さんのために、医師、看護職員、介護士などが自宅などを訪問する在宅医療・在宅療養が推進されています。ここにあげた(1)～(3)についてご存じですか」

3. 分析と考察

3-1 かかりつけ医の有無を決める要因の分析

本調査では「かかりつけ医」がいる人の割合は55.9%であったが、日常的な診療が必要であること以外にどのような要因が「かかりつけ医」を持つことに繋がるかを把握すれば、今後のかかりつけ医普及に生かすことができる。そこで、かかりつけ医がいる・いないを決定する要因についてロジスティック回帰分析¹⁰を行った。結果は、本調査の対象者については、かかりつけ医がいる・いないを決める要因として、年代、大病院の外来受診の際の患者負担、性別、健康状態、医療医学への関心、保険者の影響がみられた。

大病院の外来受診の際の患者負担があることを知っている人は、知らない人よりもかかりつけ医を持つ傾向が1.291倍高いという結果であった。大病院などの初診外来受診時の患者負担が、外来の機能分化とかかりつけ医の普及を推進していることが推測される。

SPSS 出力

	係数	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	オッズ比
年代	.358	.055	42.637	1	.000	1.430
大病院外来受診患者負担	.255	.060	17.883	1	.000	1.291
性別	.520	.135	14.871	1	.000	1.682
健康状態	.236	.071	11.179	1	.001	1.267
医療医学への関心	.251	.088	8.181	1	.004	1.285
協会けんぽ	-.870	.316	7.555	1	.006	.419
組合健保	-.675	.293	5.314	1	.021	.509
国保	-.500	.258	3.750	1	.053	.607
高卒	.253	.146	3.031	1	.082	1.288
都市規模1	.311	.240	1.675	1	.196	1.364
共済組合	-.456	.375	1.483	1	.223	.634
都市規模2	.273	.228	1.434	1	.231	1.314
中卒	.298	.274	1.180	1	.277	1.347
都市規模3	.136	.254	.285	1	.593	1.145
定数	-.129	.507	.065	1	.799	.879

-2 対数尤度	Snell R 2 乗	Nagelkerke R 2 乗
1349.371 ^a	.202	.270

	予測値		
	かかりつけ医		
	なし	あり	%
なし	318	198	61.6
あり	151	511	77.2
%			70.4

¹⁰ 変数の説明 (bはダミー変数のベースラインを示す)：年代 (20歳代～70歳以上)、性別 (女性、男性b)、大病院外来受診患者負担 (知っている、知らない)、健康状態 (よくない、あまりよくない、ふつう、まあよい、よい)、医学医療への関心 (ある、ない)、医療保険 (後期高齢者b、協会けんぽ、健康組合保険、国保)、都市規模 (町村b、小都市、中都市、21大都市)、学歴 (大卒b、高卒、中卒)

3-2 考察とまとめ

第7次医療計画や医師偏在対策を含む医療提供体制の見直しが検討されるなかで、医療の受け手側の国民・患者のニーズを理解し、国民の視点も取り込んだ議論を行うことが重要である。本調査では以下の点について、国民の意識とニーズの把握を試みた。

1. 超高齢社会を迎えたわが国において、国民の医療への期待、不安、満足度を把握

日本の医療全般に対して、医療の技術、個人情報に対するセキュリティ、医療の安全性を評価する人が多く見られた。特に医療の技術（提供される医療内容）に対しての信頼感が高いことが判明した。反対に、医療費負担、夜間休日のアクセス、診断や治療の標準化（医療機関の間での差やバラツキ）についての評価はやや低い傾向がみられた。

また、地域医療に関して国民が考える重点課題は、「高齢者などの長期入院施設や介護施設の整備」と「夜間休日の診療や救急医療体制の整備」が上位2項目で、これらについては、年齢の違いはあるものの、全体としては過去の調査から変わらない傾向を示した。

一方、医療と介護への将来については、前回調査同様、不安を抱える人が多く見られた。特に、将来、自分が希望する介護サービスを受けられることに不安を感じる人が約半数の51.8%にのぼった。また、希望する場所で最期を迎えられることについて43.8%が不安と回答した。介護については人口規模の大きい都市部で不安が高く、希望する最期の場所、地域に必要な診療科の医師が確保されることについては、人口規模が小さい地域で不安が高い傾向が見られ、地域の医療介護資源の状況を表していると思われる。

医療に対する国民の満足度は、第2回目調査以降継続して上昇してきており、受けた医療については92.3%が満足（内訳は満足が28.8%、まあ満足が63.5%）、医療全般に対しては74.2%が満足（内訳は満足が14.8%、まあ満足が59.3%）であった。医療に関してさまざまな課題はあるものの、全体として、医療者や医療全般に対する国民の理解が深まっていることを示唆している。

2. 「かかりつけ医」の属性や国民の受診状況を把握し、医師患者関係、求める機能と現状を明確化

地域の医療介護の今後の充実に向けて、かかりつけ医が果たす役割は極めて大きく、かかりつけ医に対して大きな期待が寄せられている。「かかりつけ医がいる」と回答した人は全体の55.9%であったが、高齢になるほど増加し、70歳以上では8割を超えていた。また、かかりつけ医がいる人のうち、7割はかかりつけ医が1人のみで、かかりつけ医の8割が診療所、診療科は8割が内科であった。一方、体調が悪いときや健康について相談したいときに必ずそのかかりつけ医を受診する人は約8割、専門医にかかりたいときに必ずかかりつけ医を受診する人は約5割であった。

かかりつけ医との医師患者関係は良好で、全体の75%前後の人が、自身のかかりつけ医は「自分のことを良く理解してくれている」、「健康や治療全般に責任を持ってくれている」、「心配していることや問題について話す時間を十分とってくれる」と考えていた。ただし、かかりつけ医に期待することと、実際に対応できていることとの間で、いくつかの項目についてギャップが見られた。特に、診療時間外の連絡や、緊急時に他の医師との連携を行うこと、また最期の看取りや認知症への対応に対する期待は大きい。これらの期待に応えていくには、日医かかりつけ医機能研修制度を含めた医師研修のさらなる充実や、かかりつけ医同士の連携体制を支援する地域の取り組みが急務と思われる。特に、かかりつけ医が1人で医療介護の全ての期待に応えていくことは現実的でなく、今後の体制整備の検討が必要である。

3. 医療の平等性についての意識を確認し、医療の利用に関する意識を把握

所得に関係なく人々が平等に医療を受けられるという医療の平等性、公共性は、わが国の医療の基本であることが改めて確認された。所得の高い低いにかかわらず受けられる医療の中身は同じであるほうがよい、と回答した人は74.4%であるのに対し、所得の高い低いによって受けられる医療の中身が異なることはやむを得ないと回答した人は17.7%で、これらの割合は第3回から変わっていない。格差社会と言われる中でも、医療を平等に受けることに対して国民の意識に変化が生じていないことが明らかになった。

一方、医療の受け方について、過剰受診など医療が適正に利用されていないという意識を持つ国民が半数を超えている。「国民は必要以上に利用していると思うか」に対して、52.5%がそう思うと回答し、救急車を安易に呼ばない、かかりつけ医を持つなどのほか、コンビニ受診の削減などが必要と考えていた。少子高齢化の中で社会保障の充実を図るべきではあるが、限られた資源を適正に使うことは重要である。このような意識を国民全体に広げると同時に、医療者の側の意識も高めていくことが重要である。

4. 人生の最終段階における医療の意思表示の状況や在宅医療の認知度の変化を確認

最終段階の医療について、「今は考えていないが、必要になったら意思表示をしたい」と回答した人が全体の約6割を占め、家族などに意向を伝えた人は2割であった。一方で、「意思表示のやり方がわからない」人が15%を占めており、今後の普及活動が課題と思われる。さらに、「意思表示せずに、その時の医師などの意見に従いたい」という人は5.1%に過ぎず、最終段階の医療についても主体的に関わることを望む傾向が見られた。

治る見込みがない場合の最期までの療養生活の場は、「自宅で療養後、必要になれば医療機関や緩和ケア施設に入院」することを望む人が前回調査より増加し、また、「自宅で最期まで療養」したいという人も前回より増加した。男女による意識の違いはあるものの、国民の間で在宅医療への理解が進み、普及しつつあることが影響していると推測される。ただし、在宅医療を受けられる人は、環境や回りの支援の有無などにより、全ての人が受けられるという状況でないことは事実である。本調査で国民の考える重点課題の第1位である「長期入院できる施設の整備」と並行して進めることも重要である。

5. 医療介護に関する情報提供の現状を把握し、国民への啓発活動の必要性を検討

地域の医療や介護の情報を地域住民に正確に伝えることは行政の重要な役割である。医療や介護に関する必要な情報が十分でないと考えた人はそれぞれ全体の4割であった。特に、介護に関わる費用やサービスの内容を求める人の割合が高かった。一方、地域

包括ケアシステムについて詳しく知りたいと思う人の割合は7割であった。今後の地域包括ケアシステムの構築と普及にあたって、それぞれの地域の行政や医師会が、地域住民にしっかりと情報提供を行う必要があると思われる。

まとめ

- 地域の医療提供体制の充実に向けて、受け手側の国民の視点を取り入れていくことが重要である。
- 医療に対する高い満足度は、医療制度への理解と医師患者関係の向上を示唆していると思われる。また、医療の平等性は国民の意識に根付いており、わが国の医療制度の基本部分といえる。
- 長期の入院施設と救急医療の重要性に対する意識は高く、将来の介護への不安を初め、医療介護に対するさまざまな不安もみられた。地域事情を考慮した、さらなる対応が求められている。
- かかりつけ医に対する国民の期待や診療の実態を踏まえて、いっそうの研修の推進が望まれる。また、医師1人での全ての対応を行うことは現実的でなく、かかりつけ医同士の連携の構築が必須と思われる。そのうえで、より多くの人がかかりつけ医を持てるよう普及活動を推進し、国民の健康増進を図ることが必要である。
- 医療の適正利用の視点を持ち合わせる国民も多く、社会保障の持続可能性の観点からも、国民、医療者に広く普及させていくべきである。
- 人生の最終段階の医療の意思表示、地域包括ケアシステムなど、国民への啓発活動が必要とされており、行政のみならず医師会の関与も期待される。

調査の制約について

本調査結果の制約は、以下の点である。まず、第1回からの継続調査で、個別面接手法を採用しているが、回答者の傾向に一定程度の偏りがあることは否めない。ただし、WEB調査との回答傾向の違いについては、第5回調査でWEB調査も並行して行い結果の検証を行った。郵送法やWEB調査法を含めてどの調査手法にもそれぞれの特徴や課題があることは周知の通りである。次に、調査実施機関である日本医師会の名前は回答者に示されることはないが、「医療に関する意識調査」という調査名であるため、医療に対する意識が高い人が回答者となる可能性が高い。この点については、医療に対する関心が高いか低いかを、設問の中に入れることでその違いを一定程度確認することを行った。最後に、回答者には、社会的に厳しい状況にある方や健康を害している方などは対象外となり、国民全ての層が含まれていない点がある。この点についても一般的なアンケート調査の限界と捉えている。

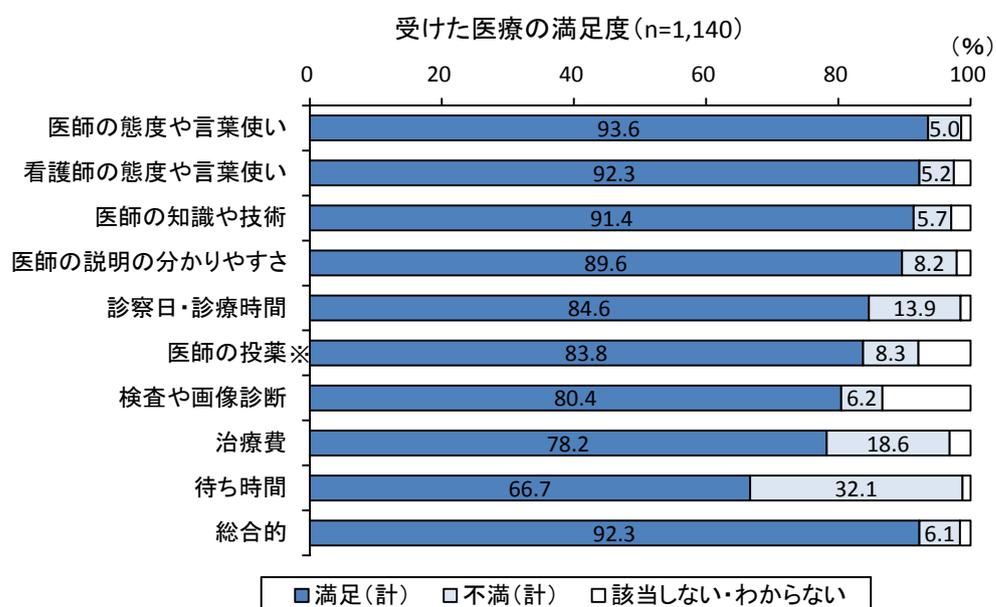
4. その他の結果

4-1 その他の項目ごとの結果

4-1-1 受けた医療の満足度（個別項目）

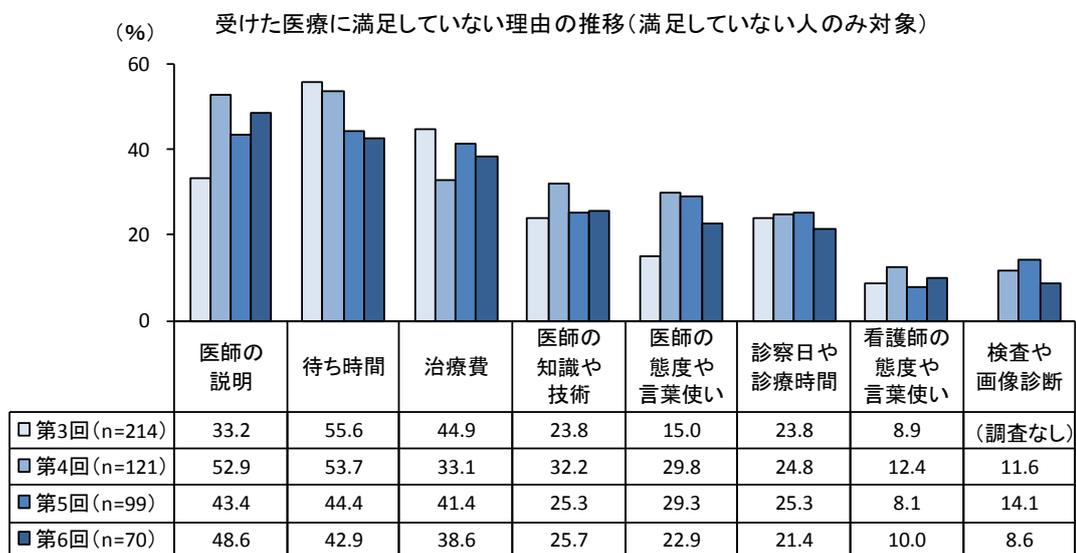
受けた医療の満足度は総合的には92.3%が満足（計）であったが、項目別（9項目）にみると、満足が最も低い項目は「待ち時間」で66.7%、続いて「治療費」で78.2%であった。一方、不満の高い項目について第3回調査からの推移をみると、N数は少ないが、待ち時間については不満と回答した人の割合の減少傾向がみられた。

図 75 受けた医療の満足度



※は第6回調査からの追加項目

図 76 受けた医療に満足していない理由の推移（満足していない人のみ対象）



4 - 1 - 2 慢性疾患の診療を受けている人の受診状況や医療機関の選択

慢性疾患などで診療を受けている人の割合

本調査ではかかりつけ医の定義を回答者に示したうえで、かかりつけ医の特性や診療について把握したが、一般に、慢性疾患などで日常的に診療を受けている医療機関が有るかどうかが、また、ある場合は診療情報の共有や医療機関の選択方法について併せて聞くことで、人々の受診の状況を確認した。慢性疾患などで日常的に診療を受けている医療機関の有無を尋ねると、全体の26.6%が有ると回答した。75歳以上の高齢者では58.3%であった。日常的診療を受けている人の90.3%はかかりつけ医がいると回答した。また、日常的診療を受けていない人も43.8%はかかりつけ医がいると回答した。

図 77 慢性疾患などで日常的に診療を受けている医療機関の有無 - 年齢別【新】

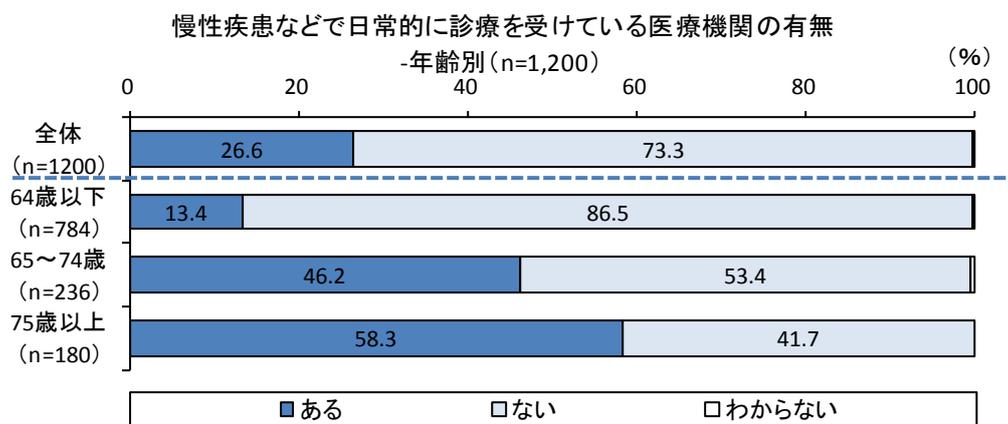
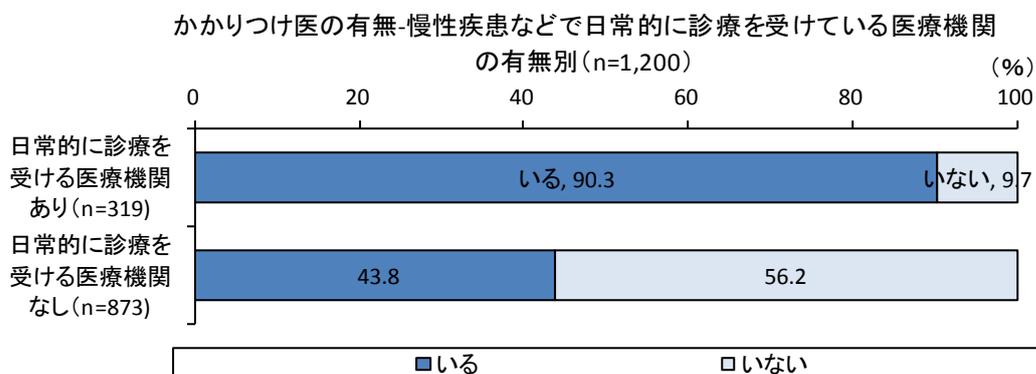


図 78 かかりつけ医の有無-慢性疾患などで日常的に診療を受けている医療機関の有無別 (再掲)



慢性疾患などで日常的に診療を受けている医療機関の数は、1施設が70.8%、2施設が19.4%、3施設以上が9.4%であった。複数の医療機関にかかる理由は、複数の疾患があることが大多数で84.8%を占め、かかっていた医師からの紹介（14.1%）を除くと、安心感が5.4%、特性に応じた選択が5.4%であった。

図 79 慢性疾患などで日常的に診療を受けている医療機関数

慢性疾患などで日常的に診療を受けている医療機関数

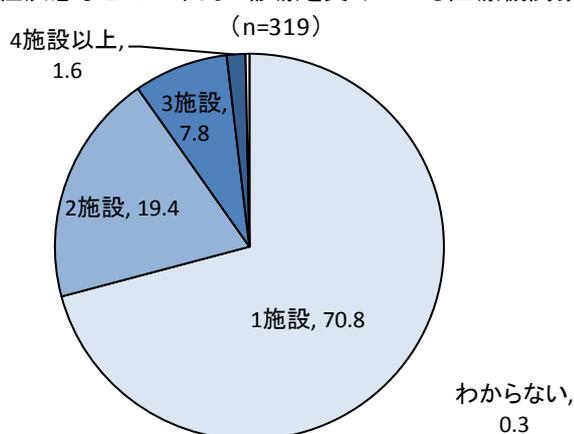
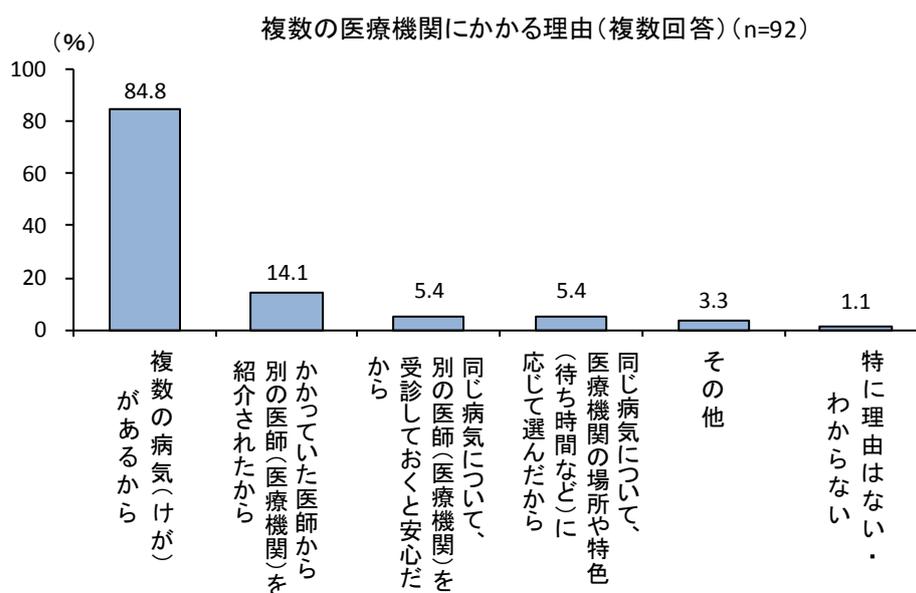
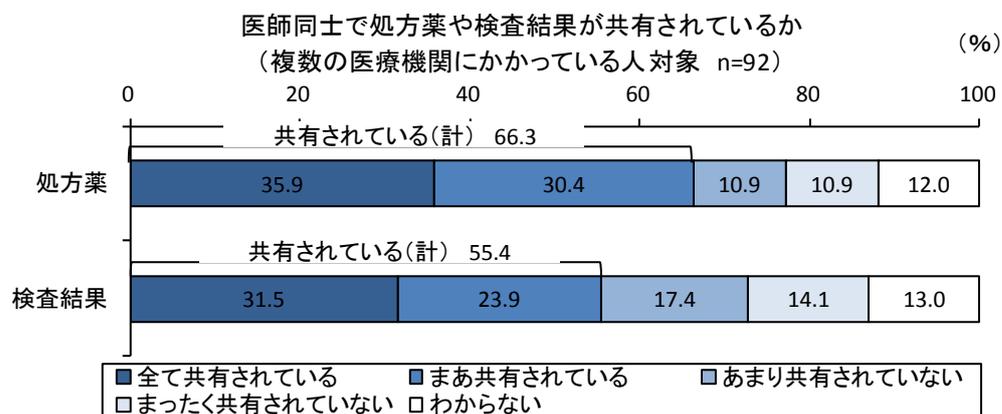


図 80 複数の医療機関にかかる理由（複数の医療機関にかかっている人のみ）【新】



複数の医療機関の医師同士で処方薬や検査結果が共有されているかについては、それぞれ 66.3%、55.4%の人が肯定的であった。

図 81 医師同士で処方薬や検査結果が共有されているか【新】



医療機関の選択

一方、医師や医療機関の選択は、「医師などからの紹介で選ぶ」ことを好む人が全体の39.3%で約4割、自分で選ぶのが良い人が31.6%で約3割であった。高齢の人ほど医師などからの紹介で選ぶことを好む傾向が強くなっている。

図 82 医師や医療機関をどのように選ぶか【新】

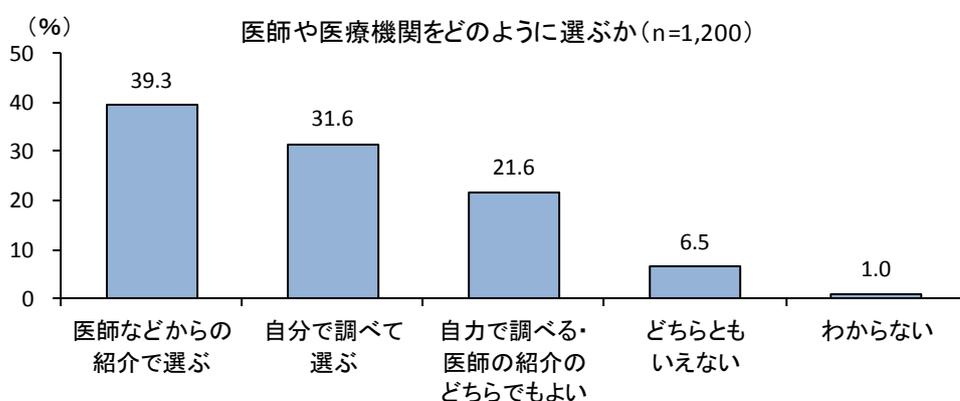
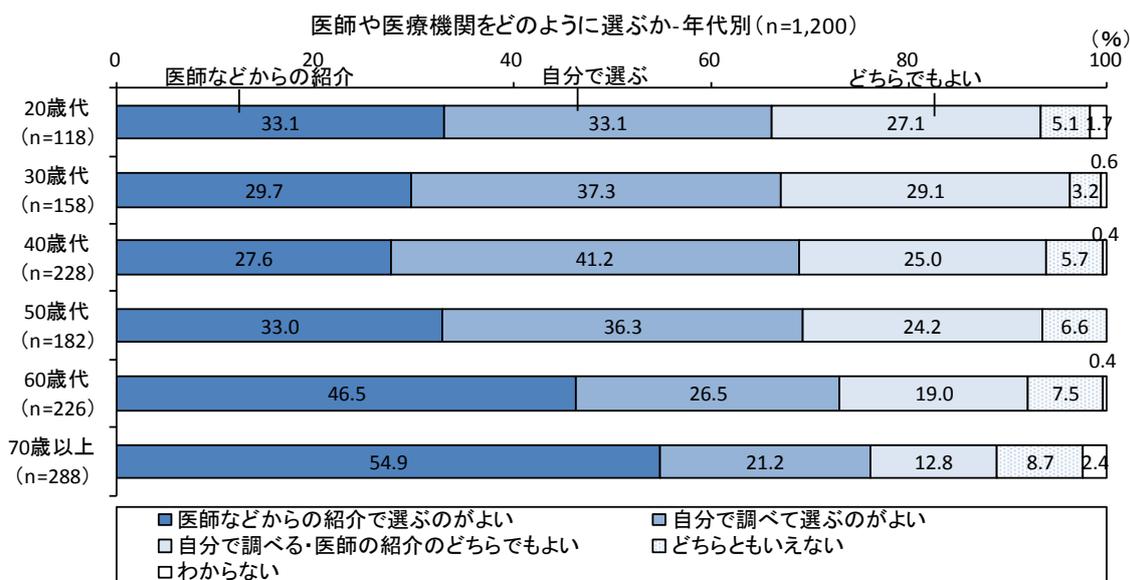


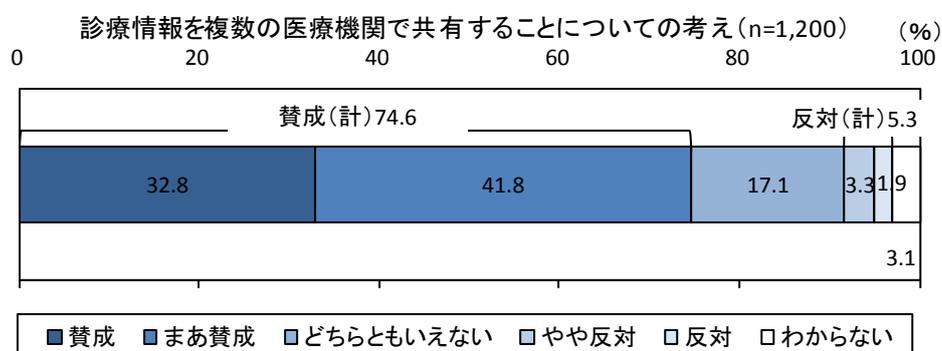
図 83 医師や医療機関をどのように選ぶか - 年代別



4 - 1 - 3 診療情報の共有について

効率的かつ効果的な医療提供に向けては、医療者が医療連携を行い、患者の診療情報を共有することが必要である。診療情報の共有についての考えを尋ねると、自身の診療情報が医療機関の間で共有されることについて、国民の74.6%が賛成と回答した。どちらともいえないが17.1%で、反対は5.3%に過ぎなかった。

図 84 診療情報を複数の医療機関で共有することについて【新】



4 - 1 - 4 治療方針の決定者

比較的重い病気の治療方針の決定については、医師と相談しながら自身で決める、が50.9%、医師の説明を聞いて同意するが24.5%であった。説明を聞いて医師の判断に任せるは19.7%、医師の説明は聞かずにすべて医師に任せるは1.1%であった。年齢による違いはあるものの、医療に関わる主体性の強さが示されている。

図 85 比較的重い病気の治療方針の決定について

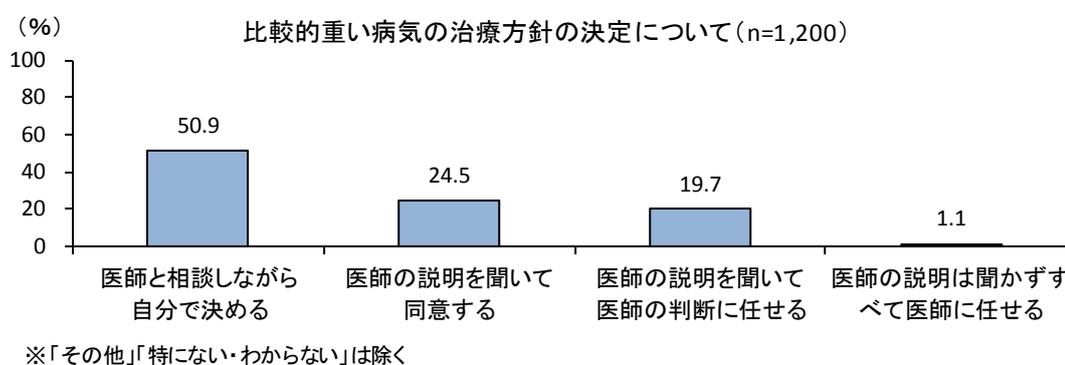
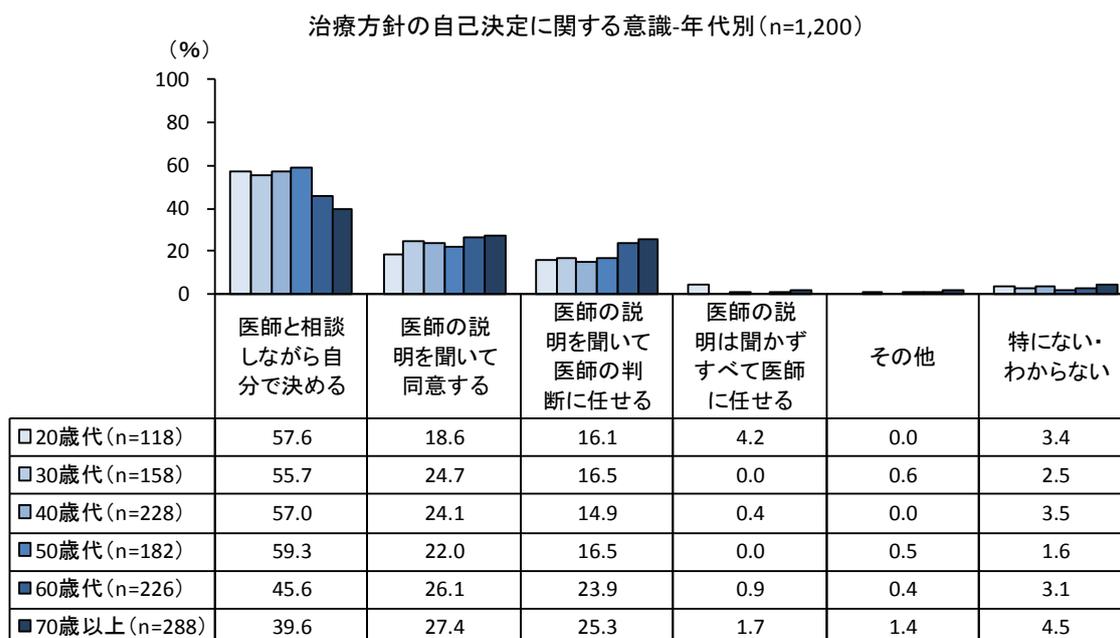


図 86 治療方針の自己決定に関する意識-年代別



4-1-5 介護が必要になった場合に住みたい場所

高齢で介護が必要になった場合に住みたい場所は自宅が52.4%であった。男女による違いは大きく、男性は62.1%、女性は44.1%であった。

前回調査と比較すると、自宅で過ごすことを望む人の割合は前回調査から微増していた。一方、老健などの介護施設に住みたい人の割合は微減していた。

図 87 高齢で介護が必要になった場合にどこに住みたいか

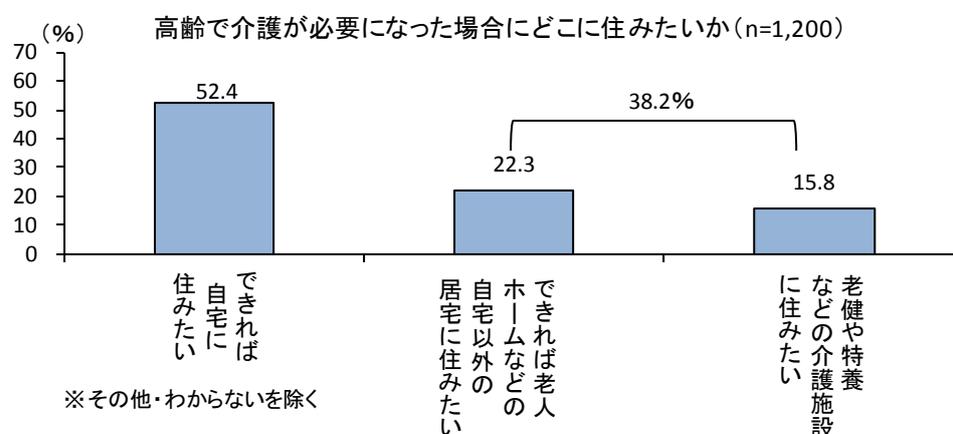


図 88 高齢で介護が必要になった場合にどこに住みたいか-男女別

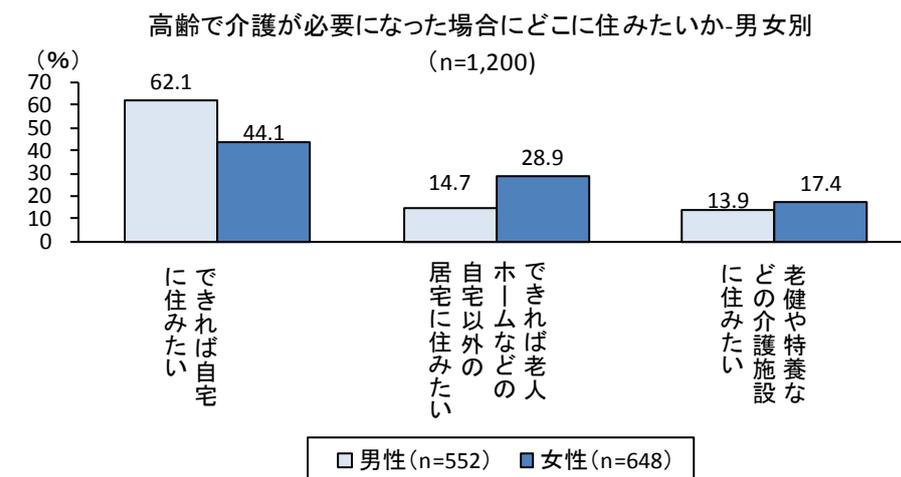
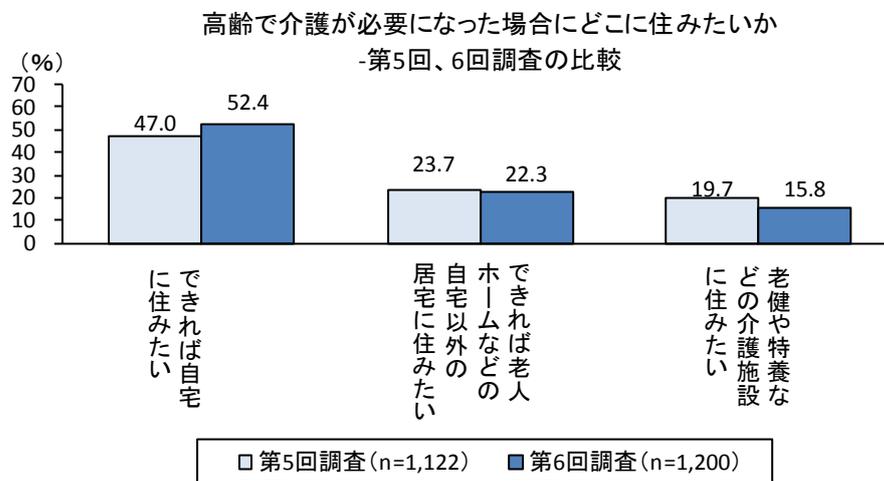


図 89 高齢で介護が必要になった場合にどこに住みたいか - 第5回調査との比較



4-1-6 医療機関の受診見合わせ

医療の受診見合わせの理由の1つに医療費の問題があると言われる¹¹⁾。過去1年間に、具合が悪いのに費用がかかるという理由で医療機関に行かなかったことがあるか（新規調査項目）を尋ねると、全体の5.0%の人が「ある」と回答した。個人の所得別でみると、低所得の層での割合が7.8%と高い傾向がみられた。また、健康状態別にみると、健康状態が悪いと回答している人の間で9.2%を占めた。

図 90 過去1年間に具合が悪いが費用がかかるという理由で医療機関の受診を見合わせたことがある割合 - 等価所得別

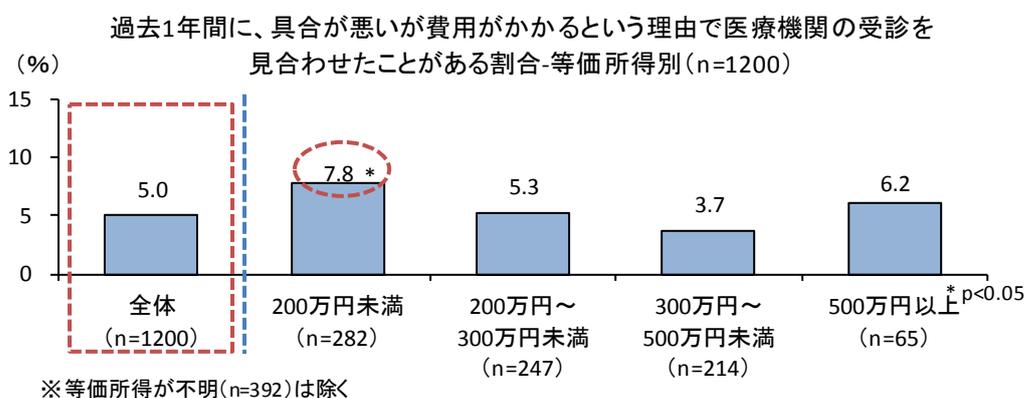
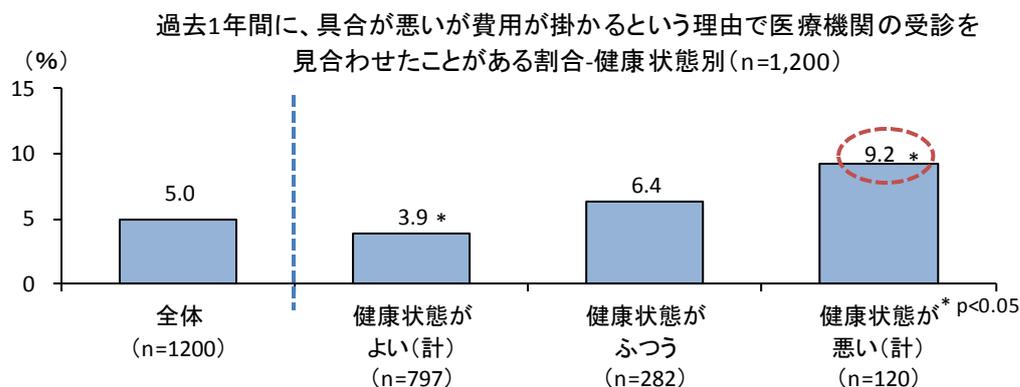
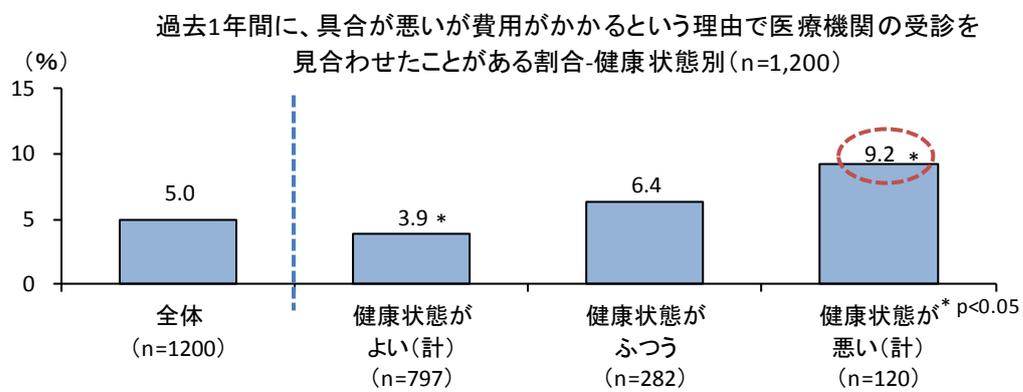


図 91 過去1年間に具合が悪いが費用がかかるという理由で医療機関の受診を見合わせたことがある割合 - 健康状態別



¹¹⁾ 日本医療政策機構の「日本の医療に関する2007年世論調査報告」では「過去12ヶ月以内に、費用がかかるという理由で、医療を受けることを控えたことがありますか?」を尋ねており、高所得・高資産層で16%、中間層で25%、低所得・低資産層で40%が「具合が悪いところに医療機関に行かなかったことがある」と回答している。(2007年1月 n=1,076人) 郵送調査。一方、ドイツの慢性疾患患者を対象に行った医療差し控えは、14.1%が差し控えを行ったが、差別など医療に対する否定的な経験が最も影響しており、医療費の影響度は必ずしも高くなかった。(2013年10月 n=15,565)

図 92 過去1年間に、具合が悪いが費用がかかるという理由で医療機関の受診を見合わせたことがある割合-年代別 (3 区分)



4-1-7 健康状態・生活満足度・生きがい

健康状態

現在の健康状態は、全体では「よい」が 66.4%で、70 歳以上の高齢者では 54.2%であった。また、生活満足度は 84.3%が満足（計）と回答した。満足度は過去の調査からも 8割前後と高い水準である。

図 93 現在の健康状態

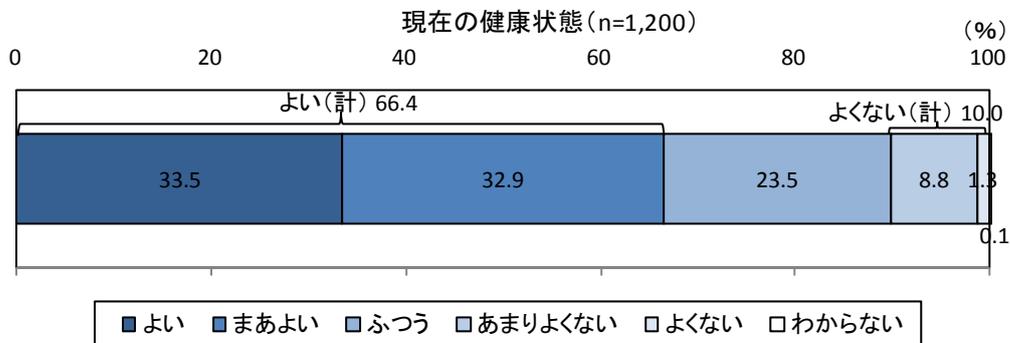
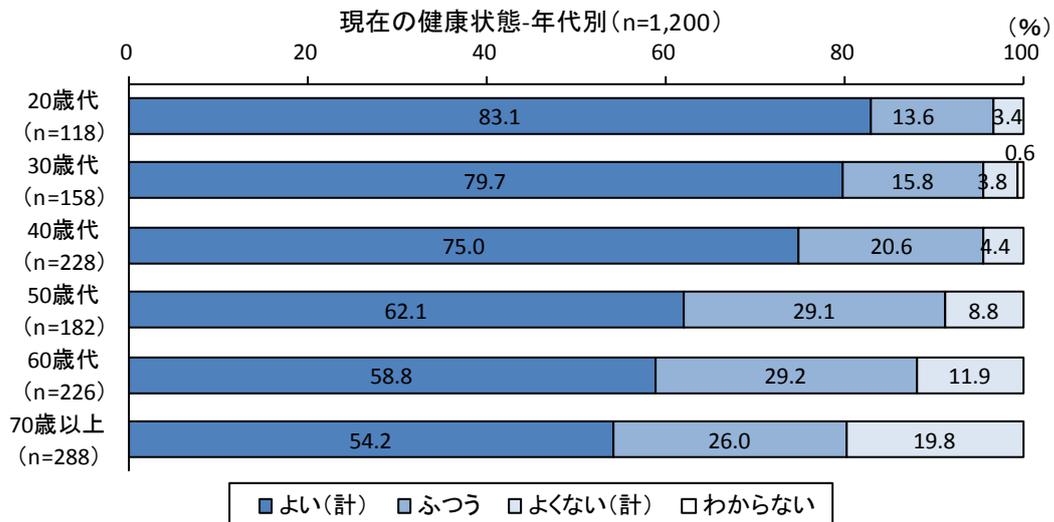


図 94 現在の健康状態 - 年代別



生活満足度

図 95 生活満足度

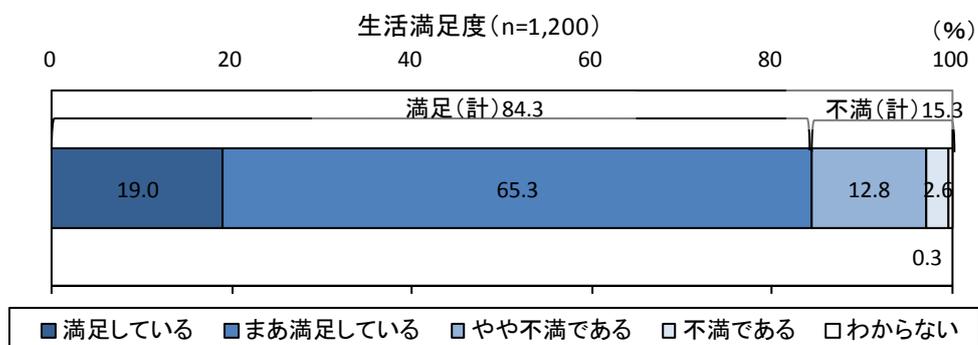
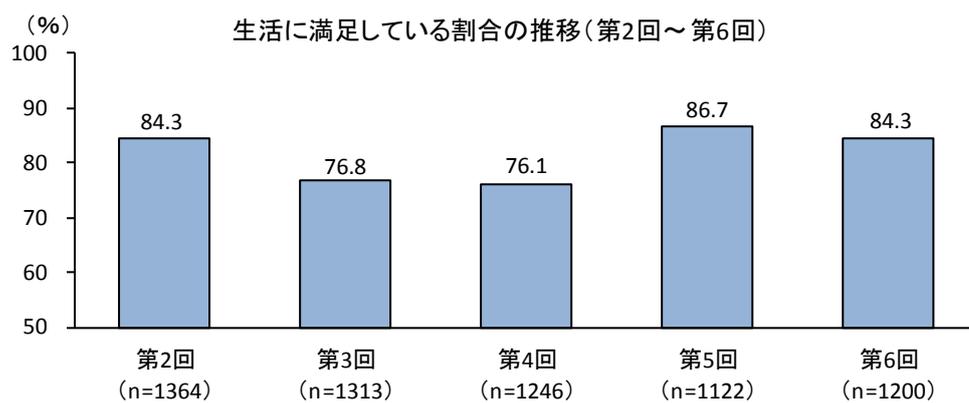


図 96 生活に満足している割合の推移 (第2回～第6回)



生きがい

生きがいについては、「ある（計）」と回答した人が全体の 83.3%を占め、70 歳以上の高齢者についても 77.1%と高い傾向を示した。

図 97 「生きがい」となるものがあるか【新】

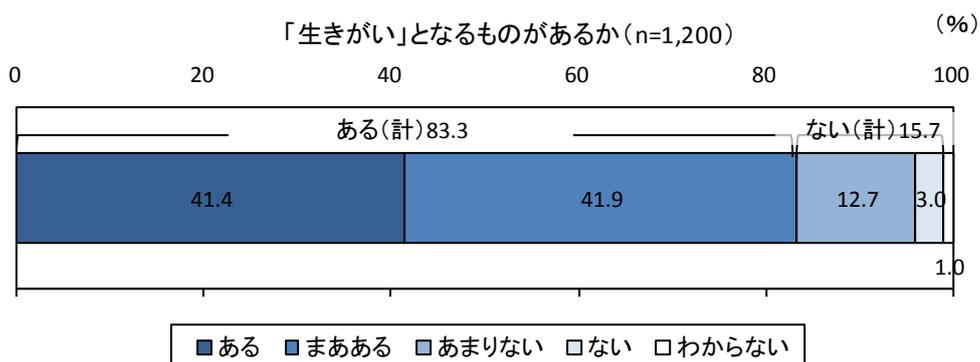
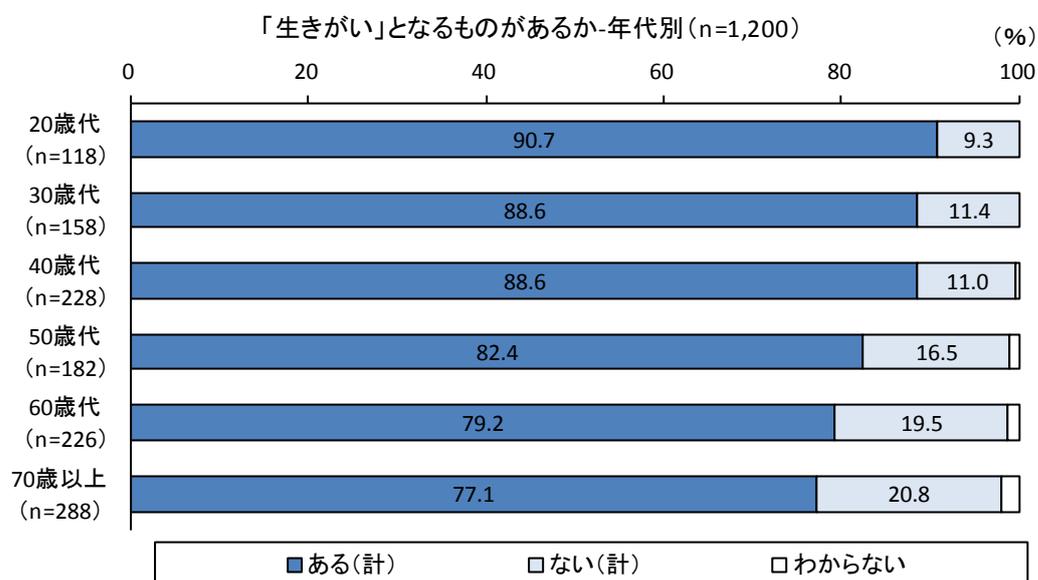


図 98 「生きがい」となるものがあるか - 年代別

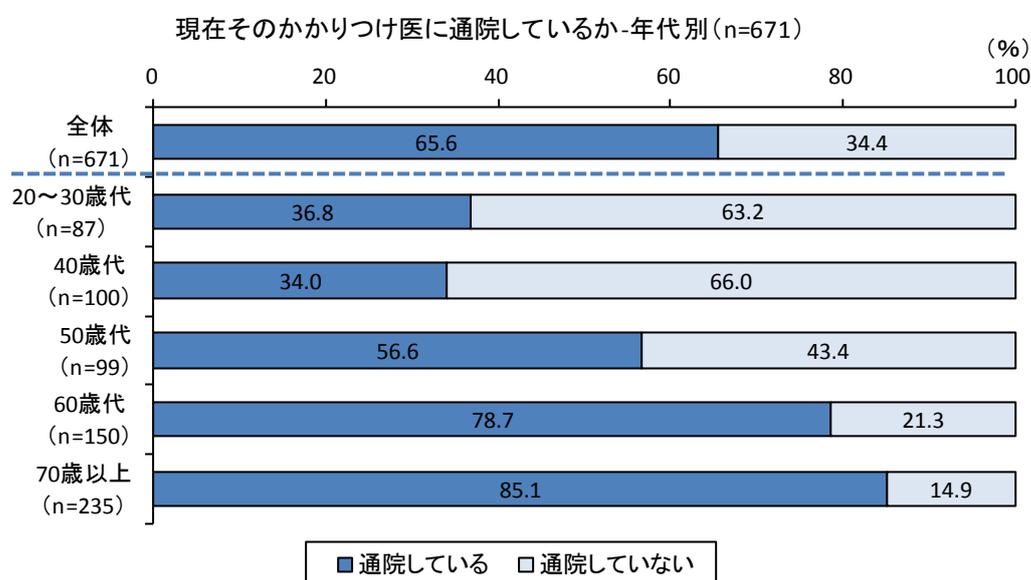


4 - 1 - 8 かかりつけ医への受診状況とかかりつけ医に関する意見

かかりつけ医への通院

かかりつけ医がいる人の中で、現在、かかりつけ医に通院している人の割合は、全体の65.6%であった。年代別にみると、20歳代～40歳代の若い世代が40%未満であるのに対し、60歳以上で78.7%、70歳以上で85.1%と高い傾向がみられた。

図 99 現在そのかかりつけ医に通院しているか-年代別



かかりつけ医への要望・期待

面接調査員がかかりつけ医に関する意見を回答者に尋ねたところ、回答者1,200人のうち、263名が自由回答での意見提供を行った。うち154名はかかりつけ医がいる人、49名はいないがいるとよいと思う人、58名はかかりつけ医がいない人であった。結果の一部は以下の通り。

<医師・患者関係に関して> (113件)

- **親身な態度・信頼関係・総合的に診てくれる** 63件
 - ・患者の話をしっかり聞いてもらいたい (60代・女性・いない)
 - ・医療介護全般の幅広い知識 (30代・男性・いない)
 - ・近隣にあり、人的にコミュニケーションよくとれる医師がほしい (50代・男性・いない)
 - ・総合的に診療出来る医師が増える事を望む (20代・女性・いないがほしい)
 - ・親身になり経験豊かな開業医が増えてほしい (30代・女性・いないがほしい)
 - ・もう少し時間をかけて診て欲しい (70代・女性・いる)
 - ・早口なので聞き取りにくい (40代・女性・いる)
 - ・病状の説明をもう少し丁寧に教えて欲しい (30代・女性・いる)
 - ・人の方を見ないでパソコンばかりを見ているし、パソコンに向いて対話する (70代・女性・いる)

- **なんでも相談できる** 50件
 - ・診断の結果で今は大丈夫だとしても今後気をつけること等のアドバイス (30代・女性・いないがほしい)
 - ・身近ですぐ相談できること (50代・女性・いない)
 - ・内科が専門なので他の科の相談が出来ないのでどのような科でも相談できる体制をとってもらいたい (70代・男性・いる)
 - ・健康について総合的な相談ができるとよいと思う (50代・女性・いる)

<医療体制に関して> (159件)

- **処置、他の医療機関との連携、情報提供** (52件)
 - ・総合病院とのパイプ (40代・男性・いない)

- ・ざっくばらんにお話出来て、治療に関してハッキリ答えて頂ける先生（80代・女性・いない）

- ・間違いのない病名の診断（50代・男性・いない）

- ・入院や手術などのあとに、その病院と連携してフォローすること（40代・男性・いない）

- ・大きい病院を紹介してくれる（男性・70代・いる）

- ・もし病気になった時により病院を紹介してくれること（女性・70代・いる）

- **緊急時の対応、休日夜間時間外診療等（50件）**

- ・子どもがいます。小児科の夜間休日診療対応（30代・男性いないがほしい）

- ・夜間休日や休診日の緊急時に連携が取れば良い（70代・女性・いないがほしい）

- ・いつでも連絡が取れるようにしておいて欲しい（50代・女性・いる）

- ・満足しています。木曜日診療している（60代・女性・いる）

- ・24時間気兼ねなく相談できる体制が整えばいいと思う（60代・女性・いる）

- ・緊急のとき診てもらえる（日曜日など）が心配です（70代・女性・いる）

- **在宅医療（7件）**

- ・終末期でも在宅医療が一人暮らしでも可能であるようにして欲しい（60代・女性・いる）

- ・往診して欲しい（60代・女性・いる）

- **<その他>（21件）**

- ・かかりつけ医のを見つけ方が分からない（60代・男性・いない）

- ・どの病気のとときにどんな医者がよいのか見つける方法が分からない（40代・女性・いないがほしい）

- ・医者が忙しすぎる（40代・女性・いる）

- ・先生の健康維持が大切（60代・男性・いる）

- ・長生きして欲しい（70代・女性・いる）・長く続けて欲しい（70代・女性・いる）

4 - 2 【補足】回答者のその他特性と母集団の比較

4 - 2 - 1 回答者のその他特性

図 100 直近に受診した医療機関

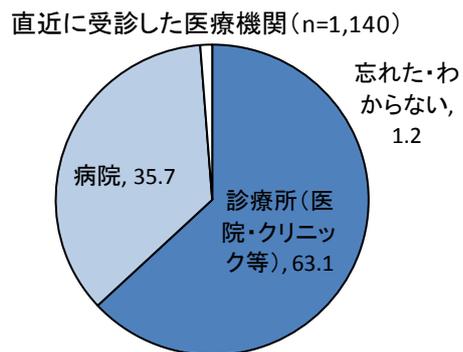


図 101 かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師を持っているか【新】

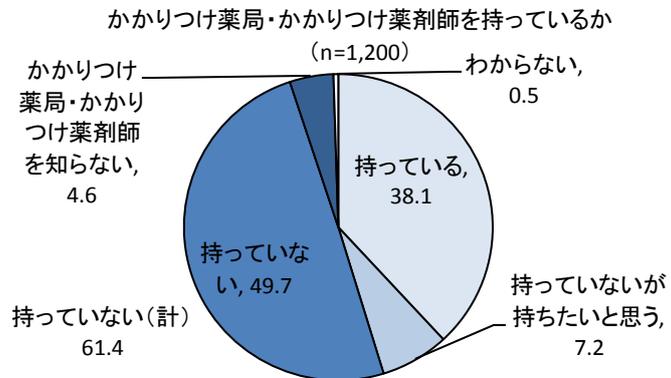


図 102 同居人数

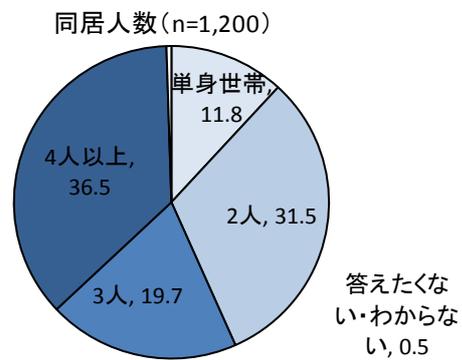
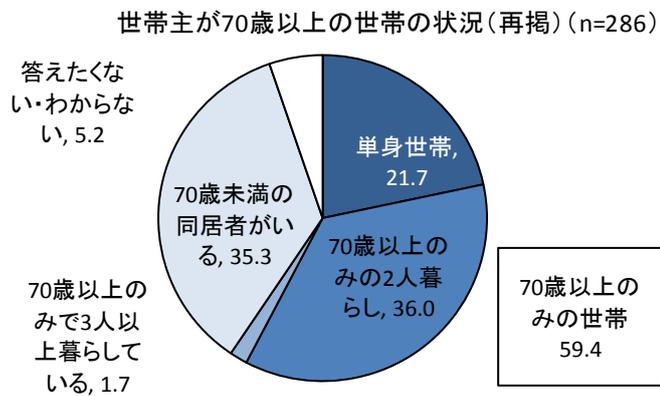


図 103 世帯主が70歳以上の世帯状況 (再掲)



4 - 2 - 2 回答者と母集団の比較

図 104 男女比

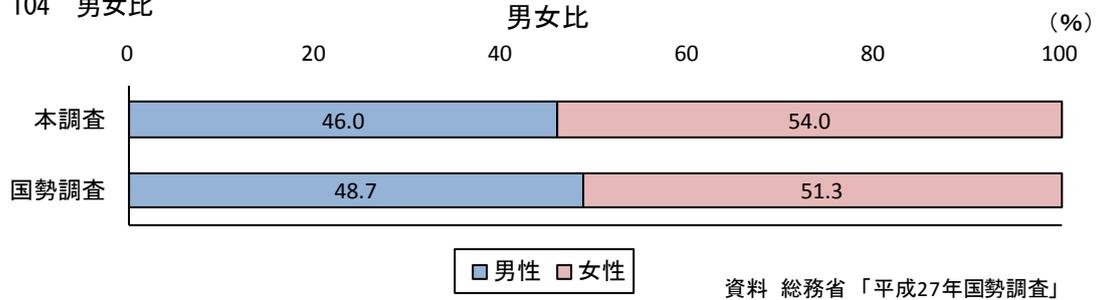


図 105 年齢構成

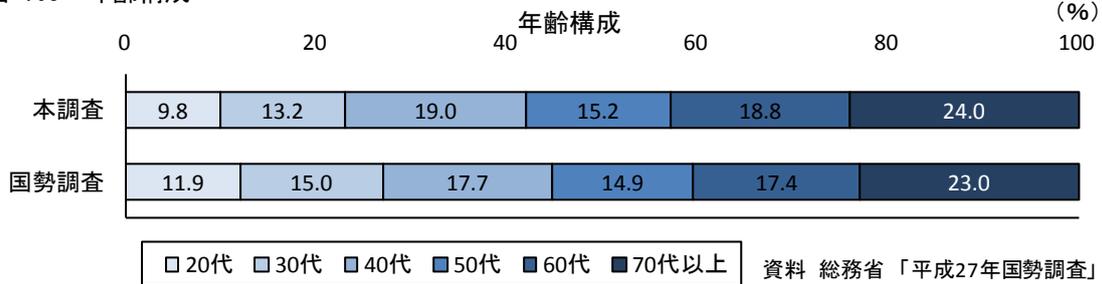


図 106 世帯収入

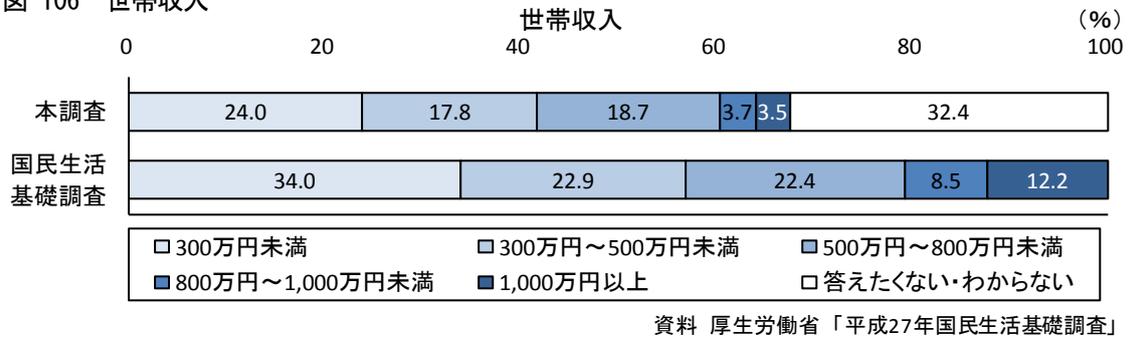
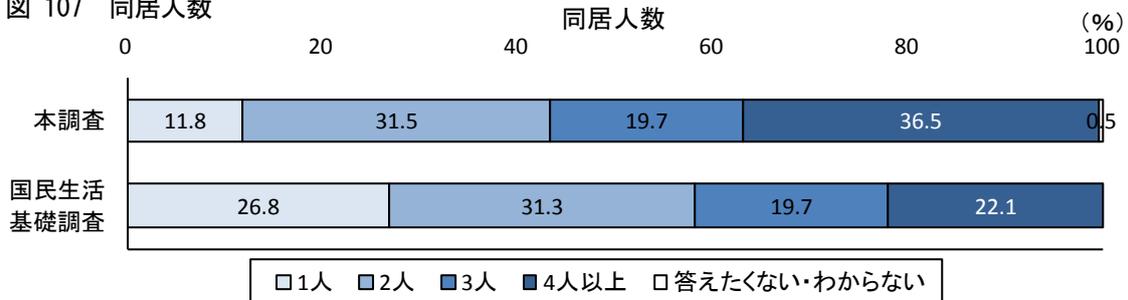


図 107 同居人数



5. 【添付資料】 調査票と単純集計

(基数表示がないものはn=1,200)

健康や医療についておうかがいします。

C 1. 【回答票 1】あなたが一番最近、医療機関で受診されたのは、いつごろですか。けが、出産、健康診断を含みますが、歯科はのぞいてお答えください。

25.3 (ア) 2週間以内	9.5 (エ) 半年以内	6.3 (キ) 3年より前
24.8 (イ) 1ヵ月以内	10.5 (オ) 1年以内	4.6 (ク) 一度も受診したことがない
12.4 (ウ) 3ヵ月以内	6.3 (カ) 3年以内	0.4 わからない

} → (C 2へ)

S Q 1. 一番最近に受診されたのは、医院やクリニックなどの診療所でしたか、それとも病院でしたか。

63.1	35.7	1.2	(n=1,140)
診療所 (医院・クリニック等)	病院	忘れた・わからない	

S Q 2. 【回答票 2】一番最近に受診された病院や診療所についておうかがいします。ここにあげた(1)~(10)のそれぞれの事柄に、どの程度満足していますか。それぞれについて、最もあてはまるものを1つずつお答えください。

(n=1,140)	(ア) 満足 している	(イ) まあ満足 している	(ウ) あまり 満足して いない	(エ) 満足して いない	該当しない・ わからない
(1) 医師の知識や技術について	38.1	53.3	4.5	1.2	2.9
(2) 医師の説明のわかりやすさについて	39.9	49.7	7.6	0.6	2.1
(3) 医師の態度や言葉使いについて	45.2	48.4	4.3	0.7	1.4
(4) 看護師の態度や言葉使いについて	42.3	50.0	4.6	0.6	2.5
(5) 待ち時間について	23.6	43.1	23.2	8.9	1.2
(6) 診察日・診療時間について	31.1	53.5	11.1	2.8	1.5
(7) 治療費について	23.9	54.3	14.6	3.9	3.2
(8) 検査や画像診断について	29.6	50.8	5.3	1.0	13.3
(9) 医師の投薬について	31.8	51.9	6.9	1.4	7.9
(10) それでは、総合的にみた場合	28.8	63.5	5.1	1.1	1.6

【C 1 S Q 2 (10) で「3・4 (満足していない)」と答えた人に】

S Q 3. 【回答票 3】あなたが、「満足していない」と感じるのは特にどのような点ですか。この中から3つまで選んでください。(3 M.A.)

(n=70)	25.7 (ア) 医師の知識や技術	38.6 (キ) 治療費
	48.6 (イ) 医師の説明	8.6 (ク) 検査や画像診断
	22.9 (ウ) 医師の態度や言葉使い	11.4 (ケ) 医師の投薬
	10.0 (エ) 看護師の態度や言葉使い	4.3 (コ) その他 (具体的に)
	42.9 (オ) 待ち時間	0.0 特にない
	21.4 (カ) 診察日や診療時間	0.0 わからない

【全員に】

病院や医院・クリニックなどの診療所で診療を受けられたときのことについておうかがいします。

C 2. 【回答票 4】あなたは、患者一人ひとりの性格や立場、本人の希望といった個別状況に応じた医療が行われていると思いますか。この中から1つだけお答えください。

25.3	48.6	16.2	3.8	6.1
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
そう思う	まあそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わない	わからない

C 3. 【回答票 4】あなたは、医師は患者の症状を治すだけではなく、心のケアまで行っていると思いますか。この中から1つだけお答えください。

13.1	34.3	32.0	11.4	9.3
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
そう思う	まあそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わない	わからない

C 4. 【回答票 5】 比較的重い病気の治療方針の決定に際して、あなたのお考えはどれに近いですか。この中から **1 つだけ**お答えください。

- 50.9 (ア) 医師と相談しながら自分で決める
- 24.5 (イ) 医師の説明を聞いて同意する
- 19.7 (ウ) 医師の説明を聞いて医師の判断に任せる
- 1.1 (エ) 医師の説明は聞かずすべて医師に任せる
- 0.6 (オ) その他 (具体的に)
- 3.3 特にない・わからない

C 5. 【回答票 6】 あなたの現在の健康状態はいかがですか。この中から **1 つだけ**お答えください。

- | | | | | | |
|------|------|------|---------|------|-------|
| 33.5 | 32.9 | 23.5 | 8.8 | 1.3 | 0.1 |
| (ア) | (イ) | (ウ) | (エ) | (オ) | |
| よ い | まあよい | ふつう | あまりよくない | よくない | わからない |

C 6. 【回答票 7】 あなたは日本の医療全般について満足していますか。この中から **1 つだけ**お答えください。

- | | | | | |
|--------|----------|---------|-------|-------|
| 14.8 | 59.3 | 18.0 | 3.8 | 4.1 |
| (ア) | (イ) | (ウ) | (エ) | |
| 満足している | まあ満足している | やや不満である | 不満である | わからない |

C 7. 【回答票 8】 あなたは、今後の医療提供体制において重点を置くべき点はどのようなことだと思いますか。この中から **3 つまで**あげてください。(3 M.A.)

- 46.8 (ア) 夜間や休日の診療や救急医療体制の整備
- 49.5 (イ) 高齢者などが長期入院するための入院施設や介護老人保健施設などの整備
- 27.2 (ウ) 医療従事者 (医師、看護師など) の資質の向上 (診療能力や対話能力など)
- 22.5 (エ) 軽い病気の相談や専門医療との連携などを行う身近な医療の充実
- 24.7 (オ) 心のケアや心の健康を保つための医療の整備
- 26.2 (カ) 地域の診療所と病院の連携
- 21.8 (キ) 医療従事者 (医師、看護師など) の確保
- 19.8 (ク) 訪問診療やホームヘルパー派遣など在宅医療の整備
- 10.6 (ケ) I T (I C T) を活用した効率的な医療の促進
- 1.2 (コ) その他 (具体的に)
- 4.1 わからない

C 8. 【回答票 9】 あなたは、日本の医療全般についてどのように感じていますか。ここにあげた(1)~(10)の事柄について、それぞれ最もあてはまるものを **1 つずつ**お答えください。

	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	
	よい	まあよい	どちらともいえない	やや悪い	悪い	わからない
(1) 医療の技術 (提供される医療内容) ……→	34.8	50.4	10.8	0.9	0.3	2.9
(2) 夜間休日の医療へのアクセス ……→	9.2	33.2	33.3	14.0	3.3	7.1
(3) 医師と患者のコミュニケーション ……→	11.2	40.6	35.1	8.3	0.6	4.3
(4) 医師の資質 (信頼性や倫理性など) ……→	11.8	46.3	31.8	4.8	0.8	4.6
(5) 患者の価値観を重視した医療 ……→	9.7	35.9	37.6	9.0	1.1	6.8
(6) 医療の安全性 (医療事故防止) ……→	13.5	47.1	25.9	6.7	0.8	6.0
(7) 医療の効率性 (重複検査が無いなど) → ……	8.9	36.0	32.9	12.8	1.9	7.4
(8) 診断や治療の標準化 ……→	7.7	32.8	36.6	11.4	2.8	8.8
(医療機関の間での差やバラツキがない)						
(9) 個人情報に対するセキュリティ ……→	17.6	43.5	26.5	4.3	0.4	7.8
(10) 国民の医療費負担 ……→	8.7	34.7	29.1	17.2	7.3	3.2

次に、かかりつけ医についておうかがいします。

C 9. 【回答票 10】かかりつけ医とは、一般に健康のことを何でも相談でき、必要なときは専門の医療機関へ紹介してくれる、身近にいて頼りになる医師のことです。あなたには、いますか。
この中から1つだけお答えください。

- | | | |
|-----------------------|---|----------|
| 55.9 (ア) いる | } | → (SQ3へ) |
| 14.4 (イ) いないがいるとよいと思う | | |
| 29.1 (ウ) いない | | |
| 0.6 わからない → (C10へ) | | |

【SQ1～SQ2は、C9で「1 (いる)」と答えた人に】 (n=671)

SQ1. あなたのかかりつけ医についてお聞きします。

(1) 【回答票 11】体調が悪いときや健康について相談したいときに、いつもかかりつけ医を受診しますか。この中から1つだけお答えください。

- | |
|--------------------|
| 76.9 (ア) いつも受診する |
| 20.6 (イ) 受診することもある |
| 1.8 (ウ) 受診しない |
| 0.7 わからない |

(2) あなたにとっての「かかりつけ医」は何人ですか。

- | | | | |
|------|------|------|-------|
| 67.2 | 24.7 | 7.9 | 0.1 |
| 1 人 | 2 人 | 3人以上 | わからない |

(3) 【回答票 12】あなたの「かかりつけ医」は診療所の医師ですか、病院の医師ですか。「かかりつけ医」が2人以上いる場合は、あてはまるものをすべてお答えください。(M.A.)

- | |
|------------------------------|
| 83.5 (ア) 診療所 (医院・クリニック等) の医師 |
| 17.7 (イ) 中小病院 (200床未満) の医師 |
| 9.4 (ウ) 大学病院等の大病院の医師 |
| 0.0 わからない |

(4) 【回答票 13】大病院などの専門医にかかりたいとき、まずはかかりつけ医に相談しますか。この中から1つだけお答えください。

- | | | |
|-----------------------|---|--------|
| 52.9 (ア) いつも相談する | } | → SQ2へ |
| 20.7 (イ) 相談することもある | | |
| 10.1 (ウ) 相談しない | | |
| 14.9 (エ) 専門医にかかることがない | | |
| 1.3 わからない | | |

(5) あなたに専門医を紹介したとき、そのかかりつけ医は紹介状を書きましたか。

- | | | | |
|------|--------|--------------|---------|
| 74.1 | 7.3 | 18.6 | (n=494) |
| 書いた | 書かなかった | 覚えていない・わからない | |

【C9で「1 (いる)」と答えた人に】

SQ2. 次に、あなたのかかりつけ医の先生についてお教えてください。2人以上いる場合は、一番よく相談のしてくれる医師についてお答えください。

(1) あなたという人をよく理解していますか。

- | | | |
|------|-----|-------|
| 73.0 | 9.2 | 17.7 |
| はい | いいえ | わからない |

(2) あなたの健康全般や治療に責任をもっていますか。

- | | | |
|------|-----|-------|
| 78.2 | 4.9 | 16.8 |
| はい | いいえ | わからない |

(3) あなたが心配していることや問題について話す時間を十分にとりますか。

- | | | |
|------|------|-------|
| 76.3 | 15.4 | 8.3 |
| はい | いいえ | わからない |

(4) 【回答票 14】 あなたがその医師をかかりつけ医としている理由はなぜですか。この中からあてはまるものをいくつかもお答えください。(M.A.)

- 58.9 (ア) 現在あるいは以前にかかった病気の主治医だから
- 23.8 (イ) 健康について幅広く相談できるから
- 24.0 (ウ) 病気を限定せず総合的に診てくれるから
- 18.6 (エ) その他 (具体的に)
- 0.1 (オ) わからない

(5) 【回答票 15】 あなたはそのかかりつけ医をどのようにして選びましたか。この中からあてはまるものをいくつかもお答えください。(M.A.)

- 54.1 (ア) 家族や知り合いからの紹介 (推薦)
- 13.0 (イ) 医師や医療機関からの紹介
- 2.5 (ウ) ネット上のホームページで調べた
- 0.4 (エ) 雑誌や書籍等で調べた
- 0.9 (オ) 行政や医師会などからの紹介
- 6.3 (カ) 広告や看板を見た
- 30.8 (キ) その他 (具体的に)
- 1.0 (ク) わからない

(6) 現在、あなたはそのかかりつけ医に病気やけがの治療等で通院されていますか。

- | | | |
|--------|---------|-------|
| 65.6 | 34.4 | 0.0 |
| 通院している | 通院していない | わからない |

(7) 【回答票 16】 この1年間に、あなたがそのかかりつけ医を受診した回数ほどのくらいですか。この中から1つだけお答えください。

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 10.7 (ア) この1年は受診していない | 7.3 (オ) 月に2回程度 |
| 22.2 (イ) 1年に1~2回程度 | 1.8 (カ) 月に3, 4回程度 |
| 24.3 (ウ) 1年に3~10回程度 | 1.2 (キ) 月に5回以上 |
| 32.2 (エ) 月に1回程度 | 0.3 (ク) わからない |

(8) 【回答票 17】 そのかかりつけ医はどの診療科の医師ですか。この中から1つだけお答えください。

- | | |
|--------------|---------------------|
| 81.5 (ア) 内科 | 0.9 (オ) 眼科 |
| 4.6 (イ) 外科 | 0.4 (カ) 小児科 |
| 4.6 (ウ) 整形外科 | 5.2 (キ) その他 (具体的に) |
| 1.9 (エ) 婦人科 | 0.7 (ク) わからない |

(9) 【回答票 18】 そのかかりつけ医の年齢はおおよそいくつぐらいですか。この中から1つだけお答えください。

- | | |
|--------------|---------------|
| 0.1 (ア) 20代 | 27.6 (オ) 60代 |
| 3.6 (イ) 30代 | 9.8 (カ) 70代 |
| 16.1 (ウ) 40代 | 1.0 (キ) 80歳以上 |
| 40.4 (エ) 50代 | 1.3 (ク) わからない |

【C9で「2・3 (いない)」と答えた人に】 (n=522)

SQ3. 【回答票 19】 あなたにいないのはどうしてですか。この中からあてはまるものをすべてあげてください。(M.A.)

- 8.6 (ア) かかりつけ医を選ぶための情報が不足しているから
- 12.1 (イ) かかりつけ医をどのように選んでよいのか分からないから
- 62.6 (ウ) あまり病気にかからないので必要ないから
- 32.6 (エ) その都度、受診する医療機関を選んでいるから
- 10.2 (オ) いつも行く医療機関はあるが、受診する医師は決まっていないから
- 2.1 (カ) その他 (具体的に)
- 5.4 (ク) 特に理由はない・わからない

【全員に】

C10. かかりつけ医の役割についておうかがいします。

【C9で「1（いる）」と答えた人に】 (n=671)

〔回答票 20〕 ここにあげた(1)～(13)の事柄について、あなたのかかりつけ医は対応していると思いますか。それぞれについて、最もあてはまるものを1つずつお答えください。

【C9で「2～4（いない・わからない）」と答えた人に】 (n=522)

〔回答票 21〕 あなたはかかりつけ医にどのような医療を望みますか。ここにあげた(1)～(13)の事柄について、最もあてはまるものを1つずつお答えください。

	(ア) 思う (望む)	(イ) まあ 思う (望む)	(ウ) どちら とも いけない	(エ) あまり 思わない (望まない)	(オ) 思わない (望まない)	わから ない
(1) どんな病気でもまずは診療できる	→43.7 (49.0)	33.1 (34.7)	10.1 (9.0)	7.2 (3.3)	3.6 (1.5)	2.4 (2.5)
(2) あなたの今までの病歴を知っている	→50.5 (44.1)	35.2 (32.6)	9.2 (14.6)	2.8 (3.1)	1.2 (1.9)	1.0 (3.8)
(3) 必要時に専門医に紹介する	→55.3 (61.3)	33.4 (28.4)	7.2 (6.1)	1.0 (1.5)	0.1 (0.4)	3.0 (2.3)
(4) 夜間休日や休診日における緊急時も 複数の医師と連携して対応する	→20.6 (52.5)	26.4 (30.7)	25.6 (10.2)	7.6 (3.3)	7.7 (1.1)	12.1 (2.3)
(5) 生活習慣病の予防を含めた健康な 生活のための助言や指導を行う	→36.4 (40.4)	40.7 (37.2)	12.1 (14.0)	4.6 (5.0)	3.0 (1.3)	3.3 (2.1)
(6) 自分が受診している他の医療機関や 処方薬を把握している	→38.3 (41.4)	32.3 (35.2)	15.5 (14.6)	4.9 (4.6)	3.9 (1.1)	5.1 (3.1)
(7) 入院や手術等の後にその病院と 連携してフォローする	→34.0 (51.5)	30.8 (34.7)	17.4 (8.8)	3.1 (0.8)	1.2 (0.8)	13.4 (3.4)
(8) 診療時間外に体調が悪くなった 場合にその医療機関に連絡できる	→32.2 (51.9)	25.2 (32.4)	16.5 (10.0)	9.5 (2.1)	8.3 (1.0)	8.2 (2.7)
(9) 往診や訪問診療などの在宅医療を 行う	→16.5 (35.6)	21.0 (32.0)	19.7 (20.3)	12.2 (6.5)	16.5 (2.5)	14.0 (3.1)
(10) 地域の介護職など他の関連職種との 連携を行う	→19.2 (37.4)	24.6 (35.8)	21.0 (16.9)	7.6 (4.2)	6.3 (1.1)	21.3 (4.6)
(11) 認知症に関する相談ができる	→20.4 (38.1)	25.9 (32.6)	22.1 (17.2)	6.7 (4.8)	6.6 (1.9)	18.3 (5.4)
(12) 自分らしい人生の終わりの 相談ができる	→15.1 (32.0)	21.3 (28.2)	27.1 (21.6)	7.2 (7.7)	7.7 (4.8)	21.6 (5.7)
(13) 行政への協力や学校医など地域の 医療介護や福祉に関わる活動を行う	→19.8 (29.9)	22.4 (33.0)	25.8 (24.5)	6.1 (5.7)	5.2 (1.3)	20.7 (5.6)

C11. かかりつけ医についてどのような要望や期待がありますか。ご自由にお答えください。(O.A.)

〔 〕

1 回答あり
2 回答なし

C15. 【回答票 26】 かかりつけ薬局とは、薬に関していつでも気軽に相談できるかかりつけ薬剤師が勤務し、服薬指導や医療機関との連携などを行っている薬局のことです。あなたは、かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師をお持ちですか。この中から1つだけお答えください。

- 38.1 (ア) 持っている
- 7.2 (イ) 持っていないが持ちたいと思う
- 49.7 (ウ) 持っていない
- 4.6 (エ) かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師を知らない
- 0.5 (オ) わからない

C16. 【回答票 27】 医療機関の受診のあり方として、次のAとBの2つの考え方について議論されています。あなたはどちらに賛成しますか。

- A 病気の程度にかかわらず、自分の判断で選んだ医療機関を受診する
- B 最初にかかりつけ医など決まった医師や医療機関を受診し、その医師の判断で必要に応じて専門医療機関を紹介してもらい受診する

- 20.3 (ア) Aの意見に賛成である
- 9.3 (イ) どちらかといえばAの意見に賛成である
- 31.9 (ウ) どちらかといえばBの意見に賛成である
- 35.4 (エ) Bの意見に賛成である
- 3.2 (オ) どちらともいえない・わからない

C17. 【回答票 28】 ここに、A・B2つの意見があります。あなたのお考えに近いのはどちらですか。

- A 所得の高い低いにかかわらず、受けられる医療の中身（治療薬や治療法）は同じであるほうがよい
- B 所得の高い低いによって、受けられる医療の中身（治療薬や治療法）が異なることはやむを得ない

74.4	17.7	6.3	1.6
(ア)	(イ)	(ウ)	
Aの考えに近い	Bの考えに近い	どちらともいえない	わからない

続いて、高齢社会に望む医療・介護についておうかがいします。

C18. 【回答票 29】 あなたが、高齢で介護を必要とする状態になった場合、どこに住みたいと思いますか。この中から1つだけお答えください。

- 52.4 (ア) できれば自宅に住みたい
- 22.3 (イ) できれば老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などの自宅以外の居宅に住みたい ⑬
- 15.8 (ウ) 介護老人保健施設や特別養護老人ホームなどの介護施設に住みたい
- 0.8 (エ) その他（具体的に)
- 8.7 (オ) わからない

C19. 【回答票 30】 国は、地域包括ケアシステムと呼ばれる仕組みを作って、高齢者などが要介護状態になっても住み慣れた地域で暮らせるよう、医療・介護の連携と充実を推進しています。

あなたのお住まいの市区町村では、医療や介護に関して必要な情報は十分にあると思いますか。医療と介護のそれぞれについて、あてはまるものを1つずつお答えください。

	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
	十分に	まあ	あまり	まったく	わから
	ある	ある	ない	ない	ない
(1) 医療の情報	→ 8.5	→ 35.9	→ 33.1	→ 6.2	→ 16.3
(2) 介護の情報	→ 7.5	→ 32.2	→ 36.1	→ 6.7	→ 17.6

C20. 【回答票 31】 あなたは地域包括ケアシステムについてもっと詳しく知りたいですか。この中から1つだけお答えください。

20.3	50.7	16.8	5.9	6.4
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
知りたい	まあ知りたい	あまり知りたくない	知りたくない	わからない

C21. 【回答票 32】あなたは介護に関してどのような情報が欲しいですか。この中からあてはまるものをすべてあげてください。(M.A.)

- 51.3 (ア) 介護サービスの内容
- 38.9 (イ) 介護施設の種類や特長
- 40.9 (ウ) 介護を受けるときの手続き
- 58.8 (エ) 介護を受けるときの費用
- 30.2 (オ) 介護支援専門員(ケアマネジャー)の見つけ方
- 39.3 (カ) 医療との一体的サービスを受けられる施設
- 0.8 (キ) その他(具体的に)
- 17.9 特にない
- 1.8 わからない

C22. 【回答票33】高齢者を含めて療養が必要な患者さんのために、医師、看護職員、介護士などが自宅などを訪問する在宅医療・在宅療養が推進されています。ここにあげた(1)~(3)の事柄について、あなたのご存知ですか。それぞれについて、最もあてはまるものを1つずつお答えください。

	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
	よく	まあ	あまり	まったく	わから
	知って	知って	知らない	知らない	ない
	いる	いる			

- (1) 在宅療養でどのような「医療」を受けられるか……→ 7.6 ……23.1 ……41.9 ……24.9 …… 2.5
- (2) 在宅療養でどのような「介護」を受けられるか……→ 7.3 ……27.4 ……39.2 ……23.8 …… 2.3
- (3) 自宅等で療養中の患者を訪問する
訪問看護というサービスがあること ……→ 16.9 ……42.5 ……24.0 ……15.0 …… 1.6

C23. 【回答票 34】仮に、あなたご自身が治る見込みがなく、余命が半年ぐらいに迫っていると告げられた場合、最期までの療養生活をどこで送りたいと思いますか。あなたのお気持ちに最も近いものを1つだけお答えください。

- 32.8 (ア) 自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関に入院したい
- 24.8 (イ) 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア施設(ホスピス、緩和ケア病棟など終末期の症状緩和を目的とした施設)に入院したい
- 19.6 (ウ) 自宅で最期まで療養したい
- 3.4 (エ) 介護施設(老健や特養など)や、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅などの居宅で過ごしたい
- 4.6 (オ) そのときまで通った(または入院中の)医療機関で過ごしたい
- 6.6 (カ) 緩和ケア施設で過ごしたい
- 1.8 (キ) 専門医療機関(がんセンターなど)で積極的に治療を受けたい
- 0.6 (ク) その他(具体的に)
- 5.8 わからない

C24. 【回答票 35】人生の最終段階における終末期医療について、元気なうちに治療に関する意思表示を行うことについてあなたはどのようにお考えですか。この中からあてはまるものをすべてあげてください。(M.A.)

- 62.0 (ア) 今は考えていないが、必要になったら意思表示をしたい
- 15.0 (イ) 意思表示をしておきたいが、どのように行なえばよいかわからない
- 21.3 (ウ) 考えて家族などに意向を伝えた
- 5.5 (エ) 考えて書類に意思表示をした
- 5.1 (オ) 意思表示せずに、その時の医師などの意見に従いたい
- 4.6 (カ) 特に意思表示したいとは思わない
- 0.3 (キ) その他(具体的に)
- 5.8 わからない

C25. 【回答票 36】あなたは、ここにあげた(1)～(8)の事柄について、不安をどれくらい感じますか。それぞれについて、最もあてはまるものを1つずつお答えください。

	(ア) まったく 不安を 感じない	(イ) あまり 不安を 感じない	(ウ) やや 不安を 感じる	(エ) とても 不安を 感じる	わから ない
(1) あなたの住んでいる地域で、夜間や休日に 医療を受けられること	13.5	47.8	31.3	5.3	2.1
(2) あなたの住んでいる地域で、高水準のがん治療が 受けられること	8.3	38.7	35.2	9.7	8.3
(3) 病院から早期退院した後に、あなたの住んでいる 地域で、リハビリや療養を受ける医療機関を 探すこと	7.8	44.5	35.8	6.0	5.8
(4) あなたの住んでいる地域で、医療と介護の 一貫したサービスが受けられること	8.3	41.0	36.9	5.7	8.1
(5) あなたの住んでいる地域で、適切な疾患予防や 検診が受けられること	12.7	54.0	25.3	3.0	5.1
(6) あなたの住んでいる地域で、必要な診療科の 医師が確保されること	10.8	46.0	31.0	5.5	6.7
(7) あなたが希望する場所で最期を 迎えられること	9.4	36.3	35.7	8.2	10.5
(8) 将来、自分が希望する介護サービスを受けられる こと	6.8	31.8	38.7	13.2	9.6

次に、医療や介護など全体についてのあなたの考えをおうかがいします。

C26. あなたは、過去1年間に、具合が悪いのに費用がかかるという理由で医療機関に行かなかったことがありますか。

5.0 ある	94.9 ない	0.1 わからない
-----------	------------	--------------

C27. 【回答票 37】あなたは、国民は医療を必要以上に利用していると思いますか。この中から1つだけお答えください。

22.4 (ア) そう思う	30.1 (イ) どちらかといえば そう思う	23.4 (ウ) どちらとも いえない	12.0 (エ) どちらかといえば そうは思わない	8.7 (オ) そうは思わない	3.4 わからない
---------------------	---------------------------------	------------------------------	------------------------------------	-----------------------	--------------



↳ (C28へ)

【C27で「1・2（そう思う）」と答えた人に】

SQ. 【回答票 38】国民が医療を適正に利用するために、あなたは何が重要だと思えますか。この中からあてはまるものをすべてあげてください。(M.A.) (n=630)

- 70.0 (ア) 自身の健康管理を行う
- 59.5 (イ) 救急車を安易に呼ばない
- 38.1 (ウ) 同じ病気で複数の医療機関を次々受診することを減らす
- 34.6 (エ) ジェネリック薬を使う
- 34.6 (オ) 安易に大病院に行かない
- 41.9 (カ) かかりつけ医を持つ
- 1.7 (キ) その他 (具体的に)
- 0.2 特にない
- 0.2 わからない

【全員に】

C28. 【回答票 39】あなたは、医療・介護などの社会保障に関する国の政策を信頼していますか。この中から1つだけお答えください。

7.8 (ア) 信頼している	50.3 (イ) まあ信頼 している	29.1 (ウ) あまり信頼 していない	8.3 (エ) 信頼していない	4.6 わからない
----------------------	-----------------------------	-------------------------------	-----------------------	--------------

C 29. 【回答票 40】もし医療・介護などの社会保障がもっと充実すれば、あなたの日常生活はより豊かに、あるいは活動的になるとお考えですか。この中から 1 つだけお答えください。

23.8 (ア) 思 う	41.3 (イ) まあ思う	23.9 (ウ) あまり思わない	4.1 (エ) 思わない	6.9 わからない
--------------------	---------------------	------------------------	--------------------	--------------

C 30. 【回答票 41】あなたには「生きがい」となるものがありますか。この中から 1 つだけお答えください。

41.4 (ア) あ る	41.9 (イ) まあある	12.7 (ウ) あまりない	3.0 (エ) な い	1.0 わからない
--------------------	---------------------	----------------------	-------------------	--------------

C 31. 【回答票 42】あなたは、個人情報のセキュリティーを確保したうえで、診療の情報を複数の医療機関の間で共有することについてどのようにお考えですか。この中から 1 つだけお答えください。

32.8 (ア) 賛 成	41.8 (イ) まあ賛成	17.1 (ウ) どちらとも いえない	3.3 (エ) やや反対	1.9 (オ) 反 対	3.1 わからない
--------------------	---------------------	------------------------------	--------------------	-------------------	--------------

C 32. 【回答票 43】500 床以上の大病院などで初診を受ける際、診療所などからの紹介状がないと、5000 円以上の料金を余計に支払うこととなります。あなたはこのことをご存じですか。この中から 1 つだけお答えください。

40.8 (ア) よく知っている	24.0 (イ) まあ知っている	12.3 (ウ) あまり知らない	22.4 (エ) まったく知らない	0.5 わからない
------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------	--------------

C 33. 【回答票 44】あなたは日頃、医療や医学全般に関心がありますか。この中から 1 つだけお答えください。

21.8 (ア) 関心がある	45.9 (イ) まあ関心がある	27.3 (ウ) あまり関心がない	4.8 (エ) 関心がない	0.3 わからない
----------------------	------------------------	-------------------------	---------------------	--------------

C 34. 【回答票 45】あなたは現在の生活にどの程度満足していますか。この中から 1 つだけお答えください。

19.0 (ア) 満足している	65.3 (イ) まあ満足している	12.8 (ウ) やや不満である	2.6 (エ) 不満である	0.3 わからない
-----------------------	-------------------------	------------------------	---------------------	--------------

次に、日常の健康管理についてお教えください。

C 35. 【回答票 46】あなたは普段から健康に気を付けるよう意識していますか。最もあてはまるものをこの中から 1 つだけお答えください。

21.5 (ア) 健康のために積極的にやっていることや特に注意を払っていることがある
34.6 (イ) 健康のために生活習慣には気をつけるようにしている
31.6 (ウ) 病気にかからないように気をつけているが、特に何かをやっているわけではない
12.3 (エ) 特に意識しておらず、具体的には何もやっていない
0.0 わからない

C 36. あなたを含めて、ご一緒に暮らしているかたは合計で何人いらっしゃいますか。

あなたを含めて	<table border="1"><tr><td>3.1</td></tr></table> 人	3.1	11.8 一人暮らし	0.5 答えたくない・わからない
3.1				
↓		└─> (C37へ)		

【70 歳以上の人に。70 歳未満の対象者は C37 に進む。】

S Q. あなたは現在、70 歳以上のかたのみでお住まいですか。さしつかえなければお教えください。

59.4 は い (70 歳以上の方のみで暮らしている)
35.3 いいえ (70 歳未満の方も同居している)
5.2 答えたくない・わからない

【全員に】

C37. 【回答票 47】 あなたが加入している健康保険の種類は何ですか。

- 38.4 (ア) 国民健康保険 (市町村国保・国民健康保険組合) : 自営業や農業、自由業、非正規雇用者など
- 26.1 (イ) 組合健保 : 大企業の従業員やその扶養家族など
- 13.0 (ウ) 協会けんぽ : 中小企業の従業員やその扶養家族など
- 6.1 (エ) 共済組合 : 公務員、教職員やその扶養家族など
- 15.0 (オ) 後期高齢者医療制度 : 75歳以上全員
- 0.3 (カ) その他 (具体的に)
- 1.1 覚えていない・わからない

C38. 【回答票 48】 あなたのお宅の1年間の世帯収入は、ボーナスや臨時収入を含め、税込みでおよそどのくらいになりますか。おさしつかえなければ、この中からお答えください。

- 9.9 (ア) 200万円未満
- 14.1 (イ) 200万円～300万円未満
- 17.8 (ウ) 300万円～500万円未満
- 13.2 (エ) 500万円～700万円未満
- 5.5 (オ) 700万円～800万円未満
- 3.7 (カ) 800万円～1,000万円未満
- 7 3.5 (キ) 1,000万円以上
- 8 32.4 答えたくない・わからない

C39. 【回答票 49】 あなたは、仕事以外で、1日あたり平均してインターネットをどのくらい使用していますか。メールでの使用は除いてお答えください。

- 39.8 (ア) 使用していない
- 15.8 (イ) 30分未満
- 19.8 (ウ) 30分～1時間未満
- 13.5 (エ) 1時間～2時間未満
- 6.2 (オ) 2時間～3時間未満
- 4.4 (カ) 3時間以上
- 0.6 わからない

F1. (職 業) あなたの職業をお聞かせください。

- | | | | | | | | |
|------------------------------|-----------------------------------|-------------|-------------|-------------------|------------------|------------|--------------------|
| 2.0
農林漁業
(家族従業)
を含む | 10.8
商工・サービス業
(家族従業を)
含む | 16.8
事務職 | 21.8
労務職 | 2.5
自由業
管理職 | 24.9
専業
主婦 | 1.8
学 生 | 19.4
その他
無 職 |
|------------------------------|-----------------------------------|-------------|-------------|-------------------|------------------|------------|--------------------|

F2. (性)

- | | |
|-------------|-------------|
| 46.0
男 性 | 54.0
女 性 |
|-------------|-------------|

F3. (年 齢)

54.4	歳
------	---

F4. (教 育) 学校はどこまで行きましたか。

- | | | |
|----------------------------|----------------------------|--------------------------------|
| 9.6
(新) 中 学
(旧) 小・高小 | 49.4
(新) 高 校
(旧) 中 学 | 41.0
(新) 短大・大学
(旧) 高 専 大 |
|----------------------------|----------------------------|--------------------------------|